

紫紺の詩

2025年総明会会報「紫紺の詩」



Innovation of MEIJI

～ いざ撞かん、時代の暁の鐘～

明治大学付属明治高等学校・明治中学校同窓会
2025年総明会会報

明治大学付属明治高等学校・明治中学校同窓会

(旧制) 明治中学校校歌

校歌

作詞 武島 羽衣
作曲 楠美恩三郎

作詞 児玉 花外
作曲 山田 耕筈

一章

帝都の真中駿河臺

遙かに望む富士のねの

高きに理想の影追ひて

集る健児勇ましや

二章

学びの高嶺文の海、

峻しく荒き行末を

懼れず笑みて進みゆく

我等が意氣は天を呑む

三章

忠と孝の大糸を、

色どる正義、愛、誠

我等が胸をかざるべき

大和錦の美ならずや

四章

世界に王たる日の本の

國民の基と身をなして

我等が校の名を揚げむ

我等が國の威を揚げむ

一、白雲なびく駿河台

眉秀でたる若人が

撞くや時代の暁の鐘

文化の潮みちびきて

遂げし維新の榮になふ

明治その名ぞ吾等が母校

明治その名ぞ吾等が母校

二、權利自由の揺籃の

歴史は古く今もなほ

強き光に輝けり

独立自治の旗幟し

高き理想の道を行く

我等が健児の意氣をば知るや

我等が健児の意氣をば知るや

三、靈峰不二を仰ぎつつ

刻苦研鑽他念なき

我等に燃ゆる希望あり

いでや東亜の一角に

時代の夢を破るべく

正義の鐘を打ちて鳴らさむ

正義の鐘を打ちて鳴らさむ

きごう
揮毫

紫紺の詩

筆 向殿政男

「紫紺の詩」は総明会設立50周年を記念して総明会会員の皆様から寄せられた意見を基に決定し、総明会名誉会長向殿先生に揮毫いただきました。

「紫紺の詩」の「詩」という文字は「歌(音)」ではなく、総明会会員の皆様の心に残る「詩(言葉)」、「会報」を表す言葉を意味しています。

総明会とは

総明会とは、旧制、新制明治中学校、明治大学八丈島高等学校、明治高等学校の卒業生ならびに同校に在籍したことがあるものの同窓会組織である。

総明会の設立の起源は、1912年(明治45年)開校時にあった「学友会」にまで遡ることができ、1926年(大正15年)1月の「同窓会」設立へと続く。その後中断の時期を経て1964年(昭和39年)有志による「明治中学校・高等学校同窓会設立発起人会」が設立、1年間の準備期間を経て1965年(昭和40年)に第1回同窓会が開催され現在の総明会へと続いている。

総明会の活動は、「会員相互の結束と親睦を図り、かつ母校のためにこれを賛助すること」を目的としており、総明会会員を対象とした年に1回開催される総会・懇親会を中心に、各委員会が企画する行事「総明会チャリティゴルフ大会」「評議員・班・クラブOB・OG会」60才以上の会員を対象とした「明朗会」などを開催している。

その他、母校に対する活動として、卒業する高校3年生を対象とし、「明治大学付属明治高等学校建学の精神にのっとり、伝統ある校風のもとに学業に励んで優秀な成績を収めたことを賞する」、2007年(平成19年)からは、成績優秀者のみならず、班部活動、対外活動、学校行事など、学校生活全体を通じた活躍や貢献したもののへの総明会賞の授与、母校記念行事への寄付活動、クラブ活動への支援を行っている。卒業生に対しては、大学在学中の若手を通じての総明会活動紹介、同窓会開催支援や就職相談会の開催などを行っている。

この他、総明会会員である明治大学、明治高校の教職員を通じての組織基盤の強化、「法曹部会」による高校在校生を対象とした司法試験向けの各種支援も行っている。

なお「総明会」の名称であるが、1970年(昭和45年)の第20回総会において、初代校長鶴澤総明先生の名前をいただき、かつ明治中学校・高等学校同期会と同窓生総体の連帯を意味するものとして命名されたものである。

平成10年卒 紫98俱
幹事学年テーマ

Innovation of MEIJI

～いざ撞かん、時代の暁の鐘～

総明会は昨年第60回という節目の総会・懇親会が盛大に開催され、盛況のうちに幕を閉じました。人に例えるならば「還暦」にあたる年、卒業生も母校に帰ることができました。そして迎えた今年は、いわばセカンドライフの第一歩の年。何をテーマに掲げようかと、頭を悩ませました。テーマの設定から「紫98俱」となった次第です(汗)

そこで我々は、長く愛され続けている校歌にヒントを求めることにしました。1番の歌詞にある「撞くや時代の暁の鐘」という一節に想いを寄せ、これからの総明会が若い世代の方々にとって、さらに価値あるものになり続けて欲しいという願いを込めて、「Innovation of MEIJI」というテーマを掲げました。

今年の会報では、様々な分野でイノベーションに挑戦している方々に光を当て、取り組みを紹介しています。

「イノベーションに挑む同窓生や恩師の姿は、私たちにとっての誇りであり、かけがえのない宝です!」

そんな思いを、皆さまと共有できたら幸いです。今年の特集も、どうぞゆっくりご堪能くださいませ。

《ハイブリッド会報》

幹事学年と広報委員会は、デジタルと会報の融合を目指した「ハイブリッド会報」を立ち上げました。総明会のホームページでは、会報と連動した専用サイト「総明マガジン」をオープンし、動画などが視聴できます。より臨場感あふれるリアルさ、本誌では収めきれなかった記事やオフショット・スピンオフをデジタルでもお楽しみください。

◎スマートフォンやタブレットから見る場合

本誌の各ページにあるQRコードを読み取ると、ホームページ「総明マガジン」内の、そのページに関連するデジタル記事にアクセスする事ができます。

SOUMEIMAGAZINE



No.000-2025

◎パソコンから見る場合

ホームページ「総明マガジン」にアクセス(下記URL)し、
<https://meiji-soumeikai.com/magazine/>
QRコードの下番号(例:000-2025)で検索、またはURLの後に番号を入れて下さい。

例: <https://meiji-soumeikai.com/magazine/no-000-2025/>



当時のクラス集合写真に倣って。腕組んで、はいチーズ。

27年ぶりの関根数学リバイバル授業 一検証、そして覚醒一

令和7年7月19日土曜日、明治高校は1学期の最終日。夏休みが始まろうとする学校で、特別教室1に45歳を迎えた大人の号令が響き渡る。「98年卒業生、よろしくお願いします!」27年ぶり、関根先生によるリバイバル授業の開始である。



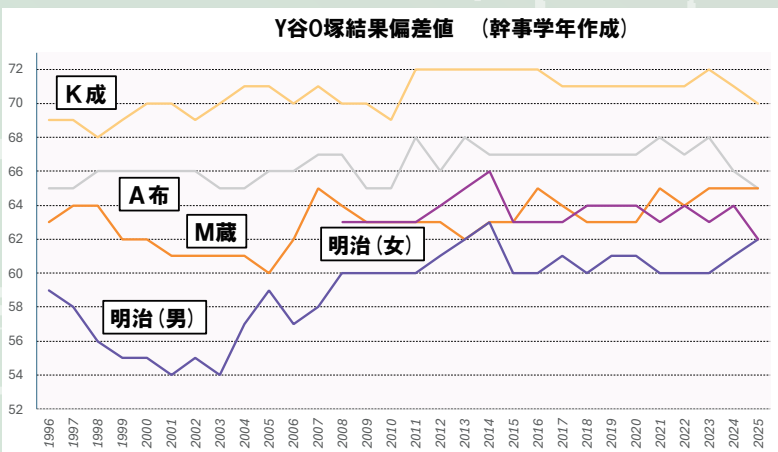
遡ること数か月前、同期メンバーによる会報誌企画会議では壮大な企画がぶち上げられていた。

その企画名称は「四天王計画杯」。

関根先生がときに生徒たちの煩惱を刺激し、ときに心を鷲掴みにしてきた定期試験の大問8番。関根先生監修のもと、歴代の大問8番をどれだけ解けるかを競い合うという企画であった。

ところが企画を関根先生に提案したところ、逆に「企画の提案」を頂く展開に。

その逆提案の意味を十分に理解せぬまま、同期メンバー達は教室の座席に座っていたのである。



復習!「四天王計画」とは…

関根先生の入職当時、首都圏の男子中高一貫校には、伝統と実績を誇る最難関「御三家」(K校、A校、M校)が存在し、その名を轟かせていた。一方で、明治高校はその牙城に加わっていなかった。それを「おかしい」と感じたご本人は、「明治高校を御三家に並ぶ存在とし、トップ校を御三家+明治高校(全4校)とする計画を提唱した。これが四天王計画である。

関根数学リバイバル授業の開演！

今回のリバイバル授業におけるテーマは「検証」である。授業全体は3部構成で、最初は緊張しがちだった同期メンバーも、前半の授業は気持ちを楽しめることができた。最初のスライドでは猿楽町校舎時代にある一般教室の写真に歓声をあげつつ、皆で27年前にタイムスリップを果たしたかのようなスタートとなった。

①教師 関根正人 検証

「ご自身の経歴を赤裸々に語って頂く中で、我々卒業生は現在が数学研究者への夢の途中段階であった(そしていまもその途中段階である!)」ことを初めて知る。そんな驚きの



教師 関根正人 検証



© 2015 Meiji University. All rights reserved. 1

■ 総明会授業

関根正人 プロフィール

1989 (H1) 年 東京理科大学大学院理工学研究科
修士課程数学専攻 修了

数学研究職への夢を一時中断

1989 (H1) 年 明治大学付属明治高等学校 着任
高I 副担任 軟式庭球部副顧問

明治四天王計画 発表



© 2015 Meiji University. All rights reserved. 2



明治四天王計画 検証



© 2015 Meiji University. All rights reserved. 3

近年ではコロナ対応時の苦労話もありつつ、オンライン授業対応時には教育系YouTuberとしてのデビューを果たし、ご本人曰く「気取っていた」とのお話である。

②明治四天王計画 検証

第二部では当時の受験業界における学校勢力図を塗り替えようという想いのもと、関根先生の入職当時から提唱されていた四天王計画のビジョンが改めて語られる。その上で、今日までの状況について秘密データを用いての検証が行われた。

調布移転までの猿楽町時代の様子、移転後に女子を迎えて激変した受験、そして一定のところに収束しつつあるように見える現

在まで、エキサイティングな解説トークをいただいた。御三家に肉薄していく様子も語られたが、その詳細についてはコンテンツの特性上シークレットとさせていただきます。ただし、この記事の中で登場する関根先生の表情から、十分に推測可能であることを添えておく。

③卒業生の数学脳 検証

いよいよ今回の授業で、卒業生が最も恐れていた第三部である。この企画を提案したのはいつだ、この誰なんだとボヤいたところで、もはや引き返すことはできない。今回の「検証」をテーマとする授業においては、我々卒業生ですらも検証材料となる。平成の世に提唱された明治四天王計画、



卒業生の数学脳 検証



© 2015 Meiji University. All rights reserved. 5



そしてそのプロジェクトに基づいて数学脳を刺激された我々は、卒業後27年間の時を経てどの程度の進化(退化)を遂げているのか?そして27年ぶりの授業でどのように数学脳が覚醒されるのか?期待と恐怖に満ちた中で、検証のための授業が開始された。

問題は全部で3問。第1問は関根先生が黒板で行う図形の証明に対して、その正誤をズバリ指摘せよという問題。これができれば、我々の数学脳は18歳(卒業時と同年齢)で覚醒できたと判定できるレベルとのこと。プロジェクターに表示された、証明が行われる命題を前に、同期メンバーには苦悶の表情が浮かぶ。証明するのは「三角形の2辺の長さの和は残りの1辺に等しい」そんな摩訶不思議な命題である。数学に迷える卒業27年目の子羊達を前にした関根先生、いざ証明開始である。

「まさか三角形忘れてる人いませんよね?」愛と冷酷さが紙一重となった言葉が心地よく突き刺さる。黒板と擦れるチョークの音は聴覚からも幹事学年を27年前に引き戻す。ここは調布校舎か猿樂町校舎か?時間軸とともに位置の錯覚まで覚える私たち卒業生は、気がつ

■ 総明会授業

stage★★★ (数学脳 覚醒レベル18歳)

図形証明問題 ← 関根証明の正誤をズバリ指摘できるか

stage★★ (数学脳 覚醒レベル15歳)

整数証明問題 ← 関根証明の正誤をズバリ指摘できるか

stage★ (数学脳 覚醒レベル12歳)

ニュートン算文章題 ← 関根メソッドで正答できるか



明治大学
MEIJI UNIVERSITY

© 2015 Meiji University. All rights reserved. 6

けばクラインの壺の中にいた。

……気がつけば証明終了、のEEDである。関根先生が証明後に一言「さあ18歳の脳ならば、ズバリそこが変だと言ってみましょう。どうでしょうか?ズバリどうぞ。」久しぶりに感じた、言葉にならない感覚。その感覚が表情に出たのを察してか、関根先生の言葉が続く。

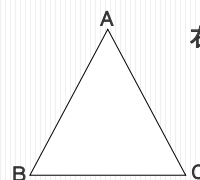
「18歳レベルは眠ったままでしたね」

——18歳の数学脳、覚醒失敗である。今夜のビールが不味くならないようにという優しさのもと、愛のある解説が行われた。点を押し込んで重ねることと、長さが同じであることは別の概念なのだから。やはり、奥が深い。いや、これは深すぎる。

■ 総明会授業

stage★★★ (数学脳 覚醒レベル18歳)

図形証明問題 ← 関根証明の正誤をズバリ指摘できるか



右図△ABCにおいて
 $AB+AC=BC$
が成り立つ

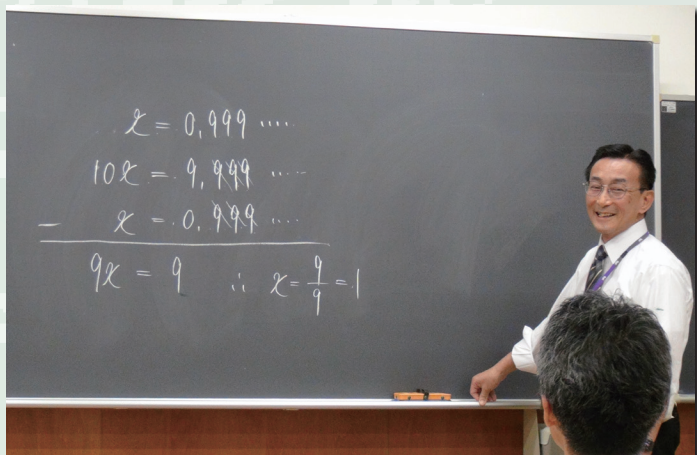


明治大学
MEIJI UNIVERSITY

© 2015 Meiji University. All rights reserved. 7

「15歳はいくらなんでも大丈夫でしょう」という言葉から始まった第2問は、数の性質に関する証明問題。命題は「0.999……=1」であること。第1問と同様、示された証明に対して正誤を見抜くという形式である。証明開始直後、黒板に「x……」と、エックスの文字を書いた瞬間、45歳の生徒達からは「うわー」という感嘆?落胆?の声が上がった。そう、あの頃我々はそのxと戦っていたのだ。その正体が見えないxと。そして中高生のあの時と変わらない「関根フォント」のxである。

このxを10倍したものを10xと書くんですよ、忘れていたかもしれないけど……覚醒できない卒業生に寄り添う姿はまさに紳士。



「……これで証明できました。どうでしょう？正しいと思うんですねえ……いや、間違ってるんじゃないですか？っていうなら、ちゃんと指摘できないとダメだね。どうですか？こういうのあぶないですよ……」

関根先生の言葉に化かされている45歳の生徒達、なかなか滑稽なものである。「中3レベルもダメですかね？」——我々はよもや15歳にもならないのか——何を信じたら良いものかと、天を仰ぐ。錆びついた数学脳に刺激が走るが、覚醒には至らず、無念。

……を使つて表されたものは、あくまで記号であつて、数ではないのだとか。

問題の解説に加えて高級電卓と安物電



卓の見分け法の解説に皆で感心し、いよいよ最終問題。求められる数学脳レベルは12歳と言えど、中学入試の問題がテーマである。しかも扱うのは苦手分野の代名詞、ニュートン算。自分の数学脳が覚醒してくれることを願う、いざ問題へ。

容器に水が入り、水が出ていく。ただそれだけののに、なぜ人はここまで悩むことができるのだろうか。いや、なぜ悩ませられるのだろうというべきか。そんな私たちの乾ききつた脳に、関根メソッドによる解説が潤いをもたらす。そうか、自然に考えれば良いんだ。

解説終了後には、関根先生から「解説を聞いて理解できたということで、12歳の数学脳

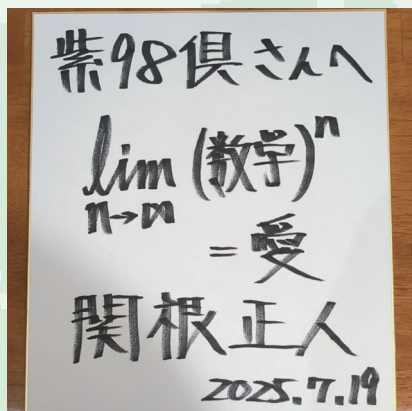


を認定しましょう！」とのお言葉。こうして、我々の数学脳の覚醒は何とか無事に完了し、リバイバル授業は幕を閉じたのである。

授業後には、当時を振り返つての質問タイム。もともとの企画「四天王計画杯」を計画するに至った大問8番問題について、当時からの変わらぬ思いを伺うことができた。30年以上、その思いは変わっていないことを確認された上で、次のように話された。

・まず、一番最後の問題は解けないように(?)作問している。

・①教科書の解答、②教科書の解答を書き直した解答、③授業で紹介した別解と



リバイバル授業参加修了証？数学脳の覚醒証明書？
「数学=愛」の色紙をいただきました

は異なる第4のオリジナル解答が書かれた答案を期待している。

・テストの採点のときに、見たことある解答で「守りの」答案に丸をつけられているようではダメ。ましてや理系に進む生徒には、「それでいいんですか？」「攻めなくてもいいですか？」と問いかけている。

……そうか、求められていたのは、第4の答案だったのか。27年目にして、未解決問題が解決したような晴々しい気分になった。

終わつてみれば、当初の企画「四天王計画杯」を行うには、我々の数学脳進化が不十分であることを痛感できた。まだまだ刺激が必要である。

残念ながら四天王計画杯の開催計画について一時中断となったが、いつか後輩達の企画として四天王計画杯が開催されることを祈念し、この原稿を閉じたいと思う。

データ 明治高校の中学校の変化 特集2

私たち紫98俱は今年のテーマとして『Innovation of MEIJ』～いざ撞かん、時代の暁の鐘～』を掲げて活動してきた。

私たちはInnovationを過去から未来へ向かうエネルギーと捉えている。2008年に猿楽町から調布へと移転した明治高校がどのように変わってきたか、それを近年のデータから読み解いていこうというのが本企画の狙いだ。明治高校のご厚意により提供いただいた最近約10年分の「パンフレット」「学校説明会資料」「Meiji Data Box」のデータを幹事学年で分析していくと、私たちの想像を超える驚きの数々。もはや幹事学年だけでは手におえないと判断し、私たちは明治高校の門をたたいた。



お話をうかがった西村英之先生

幹事学年…ということで、この原稿のメットも迫る7月19日に明治高校へお邪魔させていただきました。西村先生、今日はよろしくお願いします。広報主任や教務・進路指導主任などを歴任されてきた先生と一緒に、私たちの発見について考察していきたいと思います。(会報作りを口実にお世話になった先生にぜひお会いしたい、というのも幹事学年一同の本音です)

早速ですが、こちらのグラフと表をご覧ください。2025年度 新入生の居住地域の内訳と、2013～2015年度の詳細な居住地ランキングをまとめたものです。世田谷区、杉並区、神奈川県(川崎市)がベスト3の常連で、私たちのところに一大勢力を誇った埼玉や千葉がかなり少ない。千葉にいたっては0%の年もありました。

【グラフ1-1】【グラフ1-2】【表1】

西村先生…2008年度にお茶の水から調布へ移転するという話を告知したのが、2003年度の中1の受験期、つまり2002年度です。それ以降2007年度までに入学する生徒は在学中に通う場所が変わることになるので、お茶の水の通学圏

から両方へ通える通学圏へと生徒の居住地が徐々にシフトしていった感じでした。

幹事学年…データによると明治高校は世田谷区から通う生徒が多いのですが、2026年4月、この世田谷区に明治大学付属世田谷中学校・高等学校ができました。

西村先生…世田谷区といっても広いし、人口も90万人以上いますからね。4校ある付属校も、立地や路線、男子校か共学校か、推薦基準などいろいろな観点から選ばれるのだと思います。現 日本学園中学校・高校は明大の付属になると告知してから偏差値が上がっているようです。

幹事学年…明治大学付属ですごい。データは割愛しますが、新入生の志望理由が「高校校」とも、男子・女子とも不動の1位が「大学付属」でした。そのあとに「校風」や「施設・校舎」が続きます。

西村先生…「大学付属」が志望理由トップという傾向は今回のデータ以前から変わっていませんよ。昔はMARCHEの中でも明治は早稲田や法政とともに男子学生が多

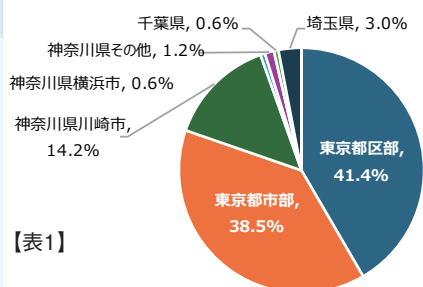
いイメージがありました。90年代後半から徐々にイメージが変わり始めました。リパティタワーが竣工したのもこの頃です。

幹事学年…なるほど。では次の発見に移りたいと思います。こちらをご覧ください。卒業後進路の変化を表したグラフです。まず他大について伺います。ちょうど幹事学年の代から国公立に限り明大推薦を残したまま他大を受験できる、という制度ができました。理由は色々ですが他大を目指したのは確か4～5人で1学年が250人だったから約2%です。それが今は10%前後になっています。今は私大にもその対象が広がったと聞いたのですが。

【グラフ2】

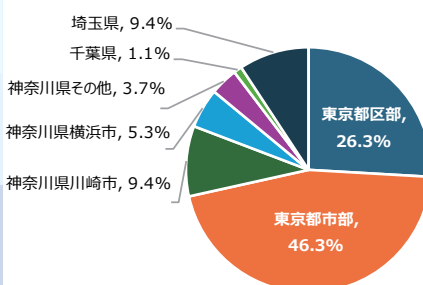
西村先生…それは学部によります。併願できるかどうかは明大の各学部がそれを許可するかどうかなんです。無条件に可 明大に無い学部であれば可、逆に類似の学部であれば可など、様々です。明大への推薦進学率でいうと一昔前は90～95%、近年だと90%を切る年がちらほらあるという印象でしょうか。

【グラフ1-1】 2025年度 中1 居住地域地区



【表1】

【グラフ1-2】 2025年度 高I 居住地域地区



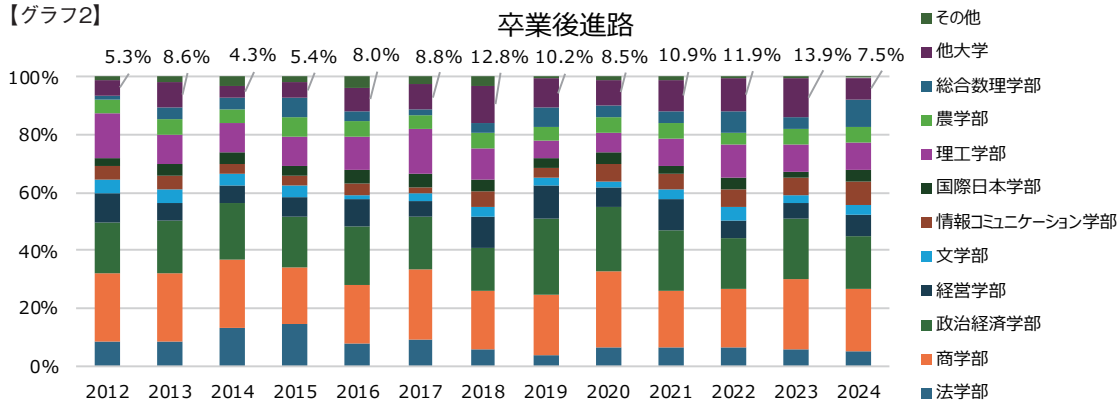
【表1】

2013～15年度 新入生 居住地ランキング ベスト3登場回数

	中1		高I	
1位	世田谷区	12回	世田谷区	10回
2位	杉並区	11回	川崎市	9回
3位	川崎市	7回	杉並区	6回

【グラフ2】

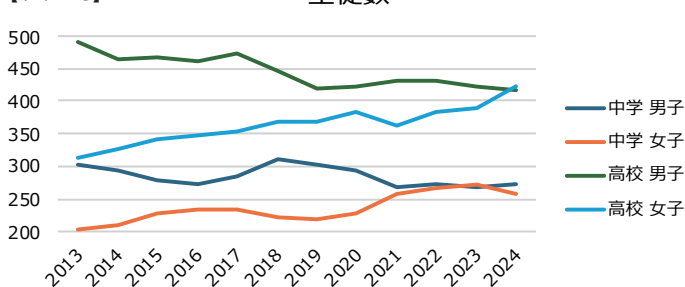
卒業後進路



幹事学年…明大進学時の学部への傾向についてはいかがでしょうか？
西村先生…まず文系と理系の比率は大きくは変わりません。あなたたちの頃は高校5クラスのうち1クラスが理系だったで

【グラフ3】

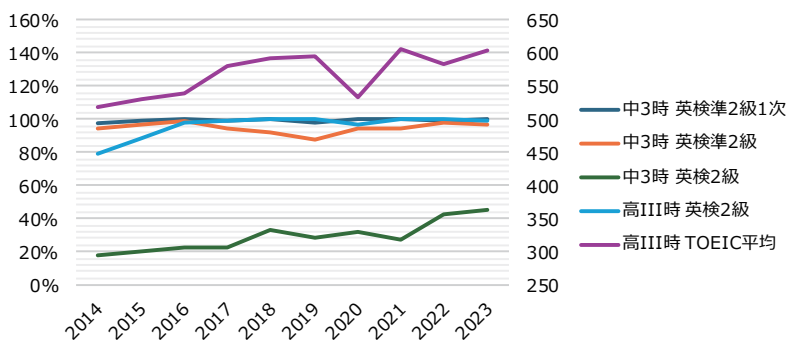
生徒数



しよ？それが今は7クラスのうち2クラスが理系です。今年の高一でいうと、学年全体268名で文系が200名、理系が68名。学部学科のトレンドは「年によって変わる」です。例えば、経済系の学部について。あなたたちの頃は、商学部が一番人気で政治経済学部や経営学部がそれに続く構図があったと思います。明大は法律学校としてスタートしましたが、戦後しばらくの間は「商の明治」と言われたくらいの看板学部です。それが今は本当に年によります。ほかに文系で変わったといえば、農学部の食料環境政策学科でしょうか。かつて農業経済学科だった頃と比べると、ここを志望する生徒が近年とても増えています。キャンパスの違いを

【グラフ4】

英検合格率と平均TOEICスコア



意識する生徒がいなかったわけではありませんが、食糧問題が世界的な課題となる中、きめ細かな教育やゼミ、フィールドワークなどから興味を持つようです。
幹事学年…高校在学中に明大に触れる機会が以前に比べ増えているように感じます。
西村先生…学校全体と各学年の取り組みが混然一体となって功を奏しています。学校全体では、各キャンパスに行つて学部長から説明をいただく特別進学指導講座などがあります。学年では、オープンキャンパスに参加してレポートすることを課したり、「ようこそOB」という企画を催したり。例えば去年は大学生のOB・OG 20人ほどに来てもらい生徒たちは各OB・OGをまわつてスモールグループで各学部学科の授業や学生生活の話をする機会を設けました。次は20代後半から30代前半となった社会人のOB・OGに声をかけることも考えています。進学については現役大学生から、仕事については経験を積んだ社会人から、将来を考えるきっかけを掴んでほしいですね。

幹事学年…続いて男女比率について伺いた

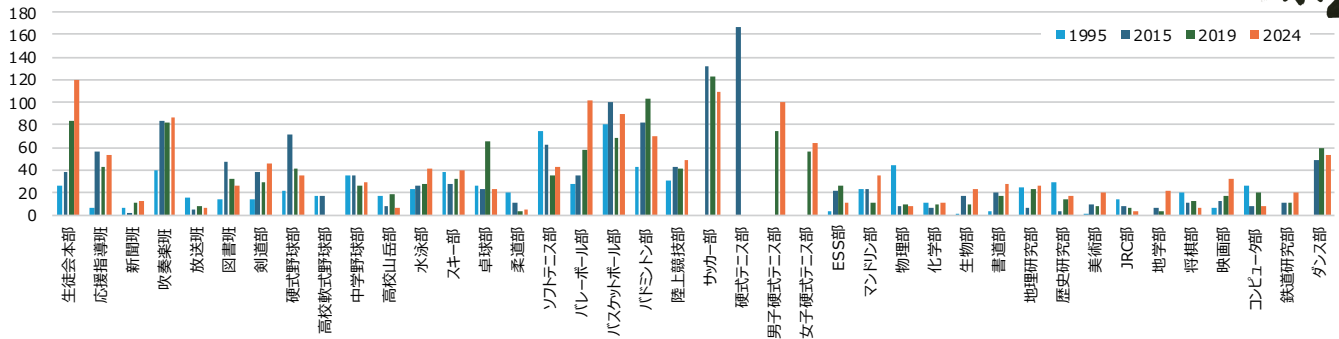
いです。最初は男子が多いのですが、年を経るごとに徐々に同数へ近づいています。これはこういった背景があるのでしょうか？
【グラフ3】
西村先生…これは入試の合格者の男女比率設定が変わってきているからです。例えば中学校の場合、移転当初は女子を30±5%としていました。それが2013年に40±5%、2020年度50%になりました。そうやってその年に入学した生徒から男女比が変わってくるので、学校全体では3年かけて徐々に均等になっていくことになります。
幹事学年…共学化してから長期にわたる変化、興味深いです。この間に英検合格率やTOEICスコアも凄いことになっていました。今日も教員室の外の壁に英検1級合格とかTOEIC 8xx点なんて貼つてあるのを見ましたし。

【グラフ4】

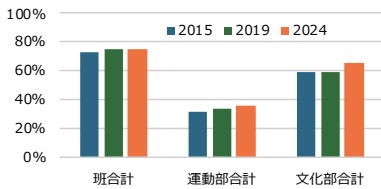
西村先生…英語はそもそも授業で求めていることが厳しいですから。課題が多いし、単語テストも毎週実施しています。英検やTOEICについてはそれらが進学基準になっている影響も大きいでしょうね。大学進学基準に英検2級が加味される前の2014年度と以降の違いはデータからも顕著ですね。中学から高校へは英検準2級一次試験合格、高校から大学へは英検2級合格とTOEIC 450点以上が進学基準として課せられています。英検は昔から校内で受検できるし、TOEICは高IIから年に3回のIPテストを校内で受検できます。特に英検はパソコンによるSCBTのおかげで受検機会が増えた効果もあるで

【グラフ5】

各クラブ部員数

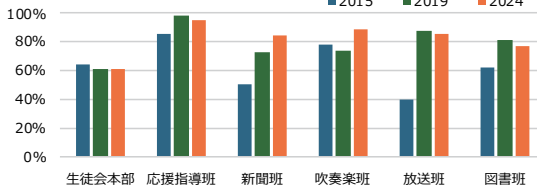


【グラフ6】 班・運動部・文化部女子率



【グラフ7】

班女子率



しょう。中3で2級合格するのも珍しいことではなくまりました。
幹事学年…私たちの頃なんか、中学から高校へ進むのに英検3級持っていれば事足りたのに。今ほど厳しくなかった分、私たちは英語に苦手意識をもっていた者が多かったように思います。

さて、いよいよクラブ活動の話に進みたいですが、もう本丸から行ってしまいたいでしょうか。私たちはこの事実が一番衝撃を受けました。これは読者の方にも考えてみてほしいのですが、2024年度時点で最大の人数を擁する班部はどこだと思いますか？

…そう、生徒会本部です。なんと120人。私たちのころは25人前後だったと思います。しかも2015年、19年、24年を並べてみると見事な増加傾向。これはいったい何が起きているのでしょうか？

【グラフ5】

西村先生…これは其学化以降の女子の増加と密接な関係があると思います。生徒会本部はイベントの運営や補助をしますよね。生徒会本部の

女子に聞くと、オープンキャンパスで在校生に優しく案内してもらった、とか入試で親切にしてもらったといったことが原体験だったりします。次は私がそうしてあげたい、という奉仕の精神を強く持っている割合が男子より多いように感じますね。加えて兼部でできるので、普段はこの運動活動をしたのだけれど、イベント時に手伝いたい、という関わり方もできます。

幹事学年…素敵すぎます。私たちが在学中の男子高時代には一握りのJRC部員くらいしか奉仕なんて高尚な概念を持ち合わせていなかったかもしれません。部員数で言うくと、生徒会本部の後には、サッカー部、バレーボール部、男子硬式テニス部と続きます。硬式テニス部は2019年度に男子と女子に分かれていたのですね。

西村先生…さすがに200人近くいると一つの部としては大きすぎてしまつてね。テニス部やサッカー部の人気は設備面の充実も影響しているでしょう。

幹事学年…私たちの頃は20人前後だったバレーボール部が、近年もグングンと部員数を増やして100人を超えています。

西村先生…社会的な人気の高まりが関係しているでしょうね。バドミントン部などもそうですが、オリンピックなど世界を舞台に活躍する日本人選手が増えています。

幹事学年…なるほど。バレーボールについては、私たち世代の「スラムダンク効果」同様の「ハイキュー!!効果」などもありそうですね。

西村先生…ちなみにスキー部は、今年過去最高の部員数で40人を擁しています。内訳は男子18人・女子22人で、これまた初めて女

子の人数が男子を上回りました。

幹事学年…もちろん班部の女子の人数のデータもご用意しています。女子率とともに比較したのがこちらのグラフです。先ほど話題にあがった生徒会本部、吹奏楽班やダンス部は女子に人気がありそうですね。女子硬式テニス部は名前の通りです。私たちにとって意外だったのは応援指導班です。

【グラフ6】【グラフ7】

西村先生…応援指導班はエールのリーダーとダンスのチアで構成されています。男子が0人の学年があつたりするでしょ。要するにリーダーがいないう状況。大学でも女性がリーダーを務める応援団が少しずつ出てきていますよね。一方でチアは女子に人気がある。コスチュームを着て表現をすることが好きな生徒が応援指導班とダンス部に分かれて入るのでしょうね。明治高校のチアは競技ではなく応援に特化しています。

幹事学年…あつという間の1時間でした。おかげさまで私たちの疑問はすっかりクリアになりました。卒業生にとってはなかなか知る機会のない情報、在校生や先生方にとっては日常的に溶け込んでしまつていている情報を整理することで、過去から現在に至る明治高校の変化とそれを起こしてきたエネルギーを感じ、未来へ思いを馳せるきっかけになりました。当初の狙いはしっかり果たせたと思います。ありがとうございました!!

紫紺の詩

2025年
総明会会報

CONTENTS

- 01 幹事学年テーマ
Innovation of MEIJI ～いざ撞かん、時代の暁の鐘～
- 02 特集 ①
27年ぶりの関根数学リバイバル授業 ー検証、そして覚醒ー
- 06 特集 ② データで見る明治高校・中学校の変化
- 10 総明会会長／明治高等学校・明治中学校 校長 挨拶
- 11 第61回「総明会」総会・懇親会のご案内
- 12 就活会のご案内
- 13 特集 明治のイノベーターたち
- 14 特集 ③ 理系編①宇宙系: H10卒 北村圭一 氏
理系編②バイオ系: H10卒 石田喬志 氏
理系編③情報通信系: S36卒 向殿政男 先生
- 22 特集 ④ 歴史編①H10卒 平田健 氏
歴史編②鶴澤總明 先生
- 30 ご退任インタビュー
2025年(令和7年)ご退任 ●並木 啓 先生 ●吉田 重幸 先生 ●駒形くみ子 先生
- 36 2025年度学校報告
- 37 新任先生紹介 ●前田 廉太朗 先生
- 37 班・部活動の記録／資格試験・表彰
- 46 OB・OG 活動報告
- 76 2025年度(令和7年度)総明会活動報告
- 82 寄付金のご報告と御礼
- 83 総明会(明治大学付属明治高等学校同窓会) 会則
- 86 前年度幹事学年挨拶、次年度幹事学年挨拶、本年度幹事学年挨拶
- 87 編集後記

明治大学付属明治高等学校・明治中学校

校長

井家上 哲史



第61回 総明会 総会懇親会に寄せて

第61回総明会総会懇親会が明治大学駿河台校舎アカデミーコモンにて開催されるとのこと、誠におめでとうございます。

今年のテーマは『Innovation of MEIJI 〜いざ撞かん、時代の暁の鐘〜』と聞きました。今年の幹事学年は平成10年卒の紫98俱のみなさん。実行委員長の古宇田さんを始めとする幹事学年のみなさんが、心を込めて準備されました。

特に、ホテル等と比べて何かと制約の多い駿河台の大学施設を会場として総会および飲食を伴う懇親会を企画されたのは、猿楽町で学んだ会員や若手会員を含む幅広い会員の出席を期待してのことと思います。

自分が総明会の一会員として幹事学年を経験したのが第39回でしたので、22年の経過を懐かしく思いだしております。第61回の節目に校長として、会員の皆様とともに自分の慣れ親しんだお茶の水の地で総会懇親会に出席できますことを、誠に光栄に存じます。

本校は猿楽町から調布のキャンパスに移転、共学となり、はや17年となりました。その間、4000名を超える卒業生が調布の校舎から巣立っております。様々な分野で活躍する卒業生の音信を伺うことはもちろんうれしいことですが、同窓生を伴侶とされている若手会員が続々と現れているとも聞いております。誠に喜ばしいことです。

今年の学校紹介パンフレットでは「前へふみだす力 MOVE FORWARD FROM HERE」という言葉を使用して、「質実剛健」「独立自治」の校訓の下、グローバル社会で活躍できる第一級の人物を育てるという本校の目指すところをアピールしています。

時代に応じて変化するところはあっても、本質は変えてはならず、またそれはその世代の人達によって守られて行く、不易流行という言葉があります。生徒と接していて彼らは現代の少年少女ではありますが、変わらぬ明高生の矜恃を感じております。

総会懇親会で会員の皆さんと交流できることを楽しみにしております。

明治大学付属明治高等学校・明治中学校同窓会

総明会 会長

山崎 秀樹



新たな60年に向かって

2023年11月より総明会会長をつとめております昭和50年卒の山崎秀樹でございます。この間、理事の皆さんと総明会の基盤を固めるべく会則改定を行い、評議員会でご提案いただいた会計期間の変更を行うことができ、新たな会計年度の運用を始めたところでございます。また、未来の総明会を見据えて、共学校の同窓会として運営していけるように若年層や女性会員の参加要請に努力しております。このような中で、昨年度幹事学年である紫雲会は60回目となる総会・懇親会を母校を会場として運営いただきました。そのご努力もあり、調布校舎を巣立った若年層や女性会員も多く参加していただくことができました。紫雲会の皆さん、ありがとうございました。

そして、今年の第61回総会・懇親会は明治大学アカデミーコモンを会場として、幹事学年である紫98俱(平成10年卒)の皆さんが企画を進めているところでございます。『Innovation of MEIJI〜いざ撞かん、時代の暁の鐘〜』をテーマに還暦を迎えた同窓会の新たな1ページを記していただけると期待しております。会場がお茶の水ということで、昨年以上に若い同窓生が参加していただければ、楽しい時間を過ごせることを願っております。また、平成19年卒以前の同窓生にとっては私たちのシンボルである男坂や旧母校校舎を訪れる機会をつくることもできます。明治大学が発表した駿河台キャンパス総合施設整備計画によると、旧校舎は新たにスチューデントセンターへの建て替えがすすむ予定になっています。懐かしの校舎も間もなく見納めとなりそうですので、是非この機会に男坂を同期の皆さんと一緒に踏みしめていただければと考える次第です。また、調布校舎を卒業された同窓生の皆さんも、鶴澤総明ホール入口に掲げられているレリーフに描かれた男坂を見たことがあると思います。若い皆さんにとっては歴史的な見学となるかもしれませんが、移転前の母校の姿や男坂をこの機会に訪れてみてはいかがでしょうか。さあ、総明会会員の皆さん、今年の総会・懇親会も楽しいひと時となりそうです。総明会の大きな輪の中に加わっていただき、世代を超えて「明治」を共有しましょう。

明治大学付属
明治高等学校・明治中学校
校長 井家上 哲史
昭和51年卒 明々会
(明治大学理工学部教授)

明治大学長
上野 正雄

学校法人明治大学
理事長
柳谷 孝

第61回『総明会』総会・懇親会のご案内

Innovation of MEIJI ～いざ撞かん、時代の暁の鐘～

日時：令和7年11月24日(月・振休)

総会 13:30～(開場13:00) @グローバルフロント

学校報告 14:40～(総会終了後入場可能) @グローバルフロント

懇親会 16:00～(受付開始15:30) @アカデミーコモン

場所：明治大学駿河台キャンパス

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

【最寄り駅】

■JR中央線・総武線／御茶ノ水駅 下車徒歩約3分
■東京メトロ丸ノ内線／御茶ノ水駅 下車徒歩約3分
■東京メトロ千代田線／新御茶ノ水駅 下車徒歩約5分
■都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線／神保町駅 下車徒歩約5分



会費 事前納付振込先

11月10日(月)までに納付をお願いいたします。

「返信用ハガキ」または「紫98俱ホームページ」より
総会・懇親会への出欠と事前納付が当日払いか
ご連絡をお願いいたします。

みずほ銀行(0001)

東京中央支店 (店番110)

普通口座：3475682

口座名義：シクハツク

紫98俱
ホームページからの
事前申込はこちら↓



例：昭和年代卒業の方：62 メイジ タロウ
平成年代卒業の方：ヘイ 11メイジ ジロウ

便利な事前納付がお得です！

今年も会費事前納付制度を実施いたします。ぜひ、ご利用ください。

	当日払い	事前納付
一般会員 (昭和58年から平成25年までのご卒業)	12,000円 >	11,000円
シニア会員 (昭和57年以前のご卒業)	10,000円 >	9,000円
ヤング会員 (平成26年から令和3年までご卒業の社会人)	8,000円 >	3,000円
学生会員 (大学生・大学院生)	0円 >	0円
ご同伴者 (上記会員が同伴する会員以外の方)	7,000円 >	6,000円

幹事学年からの挨拶

清秋の候、旧制明治中学校、明治大学付属明治高等学校・中学校卒業生の皆様におかれましては、益々のご清祥のこととお慶び申し上げます。

本年開催の第61回『総明会』総会・懇親会は、平成10年卒の『紫98俱』が務めさせていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。本年度のテーマは

『Innovation of MEIJI ～いざ撞かん、時代の暁の鐘～』です。本年の会場は、10年ぶりに駿河台の明治大学アカデミーコモンで開催いたします。みなさまのお越しを心よりお待ちしております。

- 第六十一回総会式次第
- 一、開会の辞
 - 二、会長挨拶
 - 三、議長選出
 - 四、書記選出
 - 五、議事
 - ・会務報告
 - ・会計報告
 - ・監査報告
 - ・事業計画・会計予算と承認
 - ・会長及び副会長選任
 - ・その他
 - 六、閉会の辞

※なお、本年は昨今の情勢を鑑み色々と議論を交わした結果郵便局の払込票は同封していません。事前納付先はみずほ銀行の口座のみとなります。入金確認のため、氏名の前に卒業年を付記してください。ATMでも振込名義の変更は可能です。振込手数料についてはご負担をお願いいたします。
※一旦納付された会費につきましては、お返しできません。予めご了承ください。当日欠席された場合も、同様にご返金できません。貴重な浄財といまして、総明会活動に利用させていただきます。
※出席のお知らせをいただいていない方でも、直前に出席可能になった方など、ご連絡をいただかなくても出席可能ですのでお気軽にお運びください。

※出欠ハガキは巻末折り込みにございます。
切り離して投函をお願いいたします。

総明会

会長 山崎 秀樹 (昭和50年卒 明業会)

副会長 衛藤 雅一 (昭和56年卒 明期会)

副会長 平野 一哉 (昭和59年卒 明心会)

副会長 土田 正昭 (昭和61年卒 新世輝)

専務理事 尾崎 博之 (昭和63年卒 昭和戊辰乃会)

常務理事 近藤 敏彦 (昭和50年卒 明業会)

常務理事 島村 武史 (昭和59年卒 明心会)

会計 田中 重幸 (昭和59年卒 明心会)

事務局長 小柳 貴裕 (平成元年卒 平成改元会)

副事務局長 嶋田 剛久 (平成元年卒 平成改元会)

副事務局長 三谷 知弘 (平成6年卒 隆明会)



就職の近道は「総明会就活会」

大好評だった「あの企画」、もちろん今年もやります！

明治高校OBOGによる座談会形式、聞きづらい質問にもざっくばらんに答えてくれます！



開催日時

令和7年11月24日(月・振休)

休日授業実施日

13:00～17:00(予定)

※希望者は延長も可能です！



開催場所

アカデミーコモン8階

308F教室



対象者

明治高校OBOGであれば
どなたでも参加できます。
他大学進学者でもOK！

・ 商社、保険、公務員、教員、IT等、多種多様な業界
が集合。明治高校の先生もスペシャル参加！

・ 事前登録さえすれば、好きなタイミングでの参
加・退出也大歓迎です！

・ 実施内容の詳細は、Oh-o! Meiji を参照してくだ
さい。

参加希望者は

<https://forms.gle/Qo41WJKMCfLvUuwn8>

からお申し込みください！

ご不明な点は、平成10年卒 紫98俱

meiji.4989@gmail.com

までお問い合わせください！

参加方法

事前申込制です。右のフォームよりお申込みください。

申込フォームはこちら





MEIJI INNOVATORS

明治のイノベーターたち



平田 健 平成 10 年卒



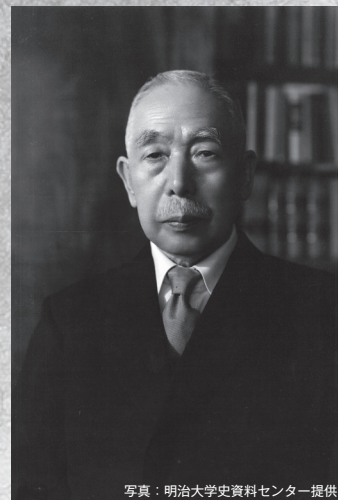
北村 圭一 平成 10 年卒



石田 喬志 平成 10 年卒



向殿 政男 昭和 36 年卒



写真：明治大学史資料センター提供

鵜澤 總明 初代校長



MEIJI INNOVATORS 理系編①

北村圭一 氏

特集3

—今回の会報のテーマは「Innovation of MEIJI～いざ撞かん、時代の暁の鐘～」として、新しい技術やアイデアを取り入れ、既存の価値観や方法を覆すことで、社会に新たな価値を生み出して来た明治高校中学校の卒業生にインタビューをしています。
横浜国立大学 大学院工学研究院で航空宇宙流体力学を研究している北村圭一教授にインタビューしました。

略歴

平成7年3月 明治大学付属明治中学校 卒業
平成10年3月 明治大学付属明治高等学校 卒業
平成14年3月 東京工業大学工学部機械宇宙学科 卒業
平成16年3月 名古屋大学 大学院工学研究科 博士前期課程 修了
平成18年8月 ミシガン大学 (米国) 工学研究科 交換留学生
平成20年3月 名古屋大学 大学院工学研究科 博士後期課程 修了
平成20年4月 JAXA/JEDIセンター プロジェクト研究員
平成23年4月 JAXA/JEDIセンター 日本学術振興会特別研究員PD
平成23年10月 NASA Glenn Research Center (米国) 客員研究員
平成24年10月 名古屋大学 大学院工学研究科 助教
平成26年4月 横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授
平成31年4月 科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞
令和4年4月 科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞 (研究部門)
令和7年4月～現在 横浜国立大学 大学院工学研究院 教授

大学受験、大学院進学、そしてアメリカ留学

まず、明治高校を卒業してからの進路について教えてくださいませんか？

北村…明治高校を卒業したのは1998年です。ちょうどその頃、国立大学を受験しても、明治大学の推薦権を保持できるという制度が始まったタイミングでした。これは非常にありがたかったですね。僕自身、「できれば明治にない分野にもチャレンジしてみたい」と思っていたところだったので、外部受験に挑戦する決断ができました。

もともと自分の中に、「せつかくなら外の世界を見てみたい」という気持ちがあったんです。理工系の進学を考えていたので、航空や宇宙といった分野に特化した大学を選び

たかった。とはいえ、完全に外に出てしまうのは親にとっても不安だったと思います。「推薦が残るなら安心だ」と、背中を押してもらえたのは大きかったです。

進学された東京工業大学では、どんな学びをされていたのですか？

北村…東京工業大学の「機械宇宙学科」に進学しました。名前に「宇宙」とついているので、宇宙工学的なことがいっぱい学べるのかなと期待していたのですが、実際にはカリキュラムの中は機械系の基礎でした。1年目から「これはちょっと違うかも」と感じていました。

当時の僕は、「宇宙って面白そうだな」という漠然とした興味はあったものの、具体的に宇宙物理学と宇宙工学の違いすらよく分かっていなかったんです。それでも、高校時代からの「ものを作りたい」という気持ちは強くて、それが少しずつ形になっていったという感覚です。

途中から「もっと宇宙に特化した研究がしたい」と思うようになり、大学院では別の研究室に進むことを考えるようになりました。

博士課程に進まれた時、不安はありませんでしたか？

北村…ものすごくありました。周囲の友人たちはほとんど企業に就職して安定した生活を始めていくなかで、博士課程に進んだ僕は、収入も将来も不透明な状態に置かれたんです。博士課程って、想像以上に孤独なんですよ。研究の方向性も自分で決めないといけないし、誰かがゴールを教えてくださいません。

そして、実際に博士課程を途中で辞めてしまう人も多い。そんな中で、自分がこの道を進んでいいのか、悩み続けました。

あるとき、たまたま母校の明治高校を訪れたんです。研究に行き詰まりかけていた時期でした。そこで当時の先生に、「逃げ道として選ぶのではなく、自分の道を選びなさい」と言われました。その言葉に励まされ、もう一度前を向くことができました。

その後、アメリカへの留学が転機になったと聞きました。

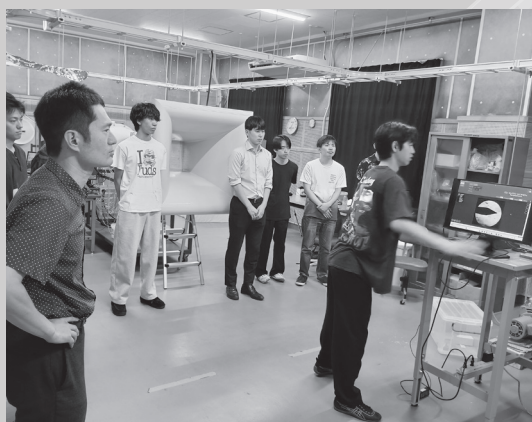
北村…はい。博士課程の途中で、ミシガン大学に交換留学する機会がありました。これが、僕の研究人生にとって最も大きな転機になりました。

まず、ミシガンの冬は想像を絶する寒さでした。マイナス20度、風が吹けばマイナス30度。5秒でも外に出れば肌が痛い。最初の1ヶ月は生活に慣れるだけで精一杯でした(笑)。でもその厳しい環境の中で、研究にも生活にも、自分の力でなんとかする、という感覚が育ちました。

この留学での最大の出来事は、僕の研究をNASAの研究者が評価してくれたことでした。学会発表で「これは面白い」と声をかけていただき、なんとその方が後に僕の指導教員になってくれたんです。日本では到底出会えなかったであろうチャンスが、まさにアメリカの片田舎で広がっていったんです。

NASA・JAXAでの「ロケット」研究

北村…NASAの研究所というところ、最先端のロケットや巨大な設備を思い浮かべるかもしれ



北村研の皆さんに超音速風洞を使った衝撃波の実験を見せていただいた

れません。でも実際には、外部研究者は入るエリアがかなり限られていて、セキュリティが非常に厳しいんです。

研究棟に入るたびにIDチェックを受け、「誰の指示で来ている?」「どのプロジェクトか?」と尋問のようなやり取りもありました。写真を撮ろうとして警備員に止められたこともありました(笑)。

それでも、研究の中身はとても自由。日本では「準備が整ってから進めよう」という文化がありますが、アメリカでは「とりあえずやってみよう」が基本。60%の準備でもGOして、トライアンドエラーの中で方向性を見出すというスタイルに、大きな刺激を受けました。

帰国後、JAXAでのご勤務が始まったのです。

北村…はい。JAXAでは、イプシロンロケットの前身となる固体ロケットの設計に関わ

らせていただきました。設計段階から、シミュレーションや風洞実験、飛行予測まで非常に幅広い領域を担当しました。

JAXAの仕事は、本当に刺激的でした。でも同時に、ポストドクとしての雇用の不安定さもありました。3年で契約終了、何の保証もない。それでも、僕は「今、ここでしかない経験を積もう」と思っていていました。どうすれば安全に落下させられるか、どうすれば風の流れをコントロールできるか。目立たないけれど非常に重要な技術ばかりです。

空気力学II

ロケットから空飛ぶクルマまで

先生のご専門である「空気力学」とは、具体的にどういった研究をされているのですか?

北村…簡単に言えば、「空気が物体にどういう力を与えるか」を計算したり実験したりして調べる分野です。たとえばロケットや飛行機が空を飛ぶとき、空気との間に「抗力」や「揚力」が発生します。その力を予測・制御できるようにするのが、空気力学の役割です。

僕たちの研究室では、主に数値シミュレーションと実験の両方を行っています。コンピュータで空気の流れを計算しつつ、それが本当に合っているかどうかを風洞実験や飛行試験で確かめる。机上の空論にならないよう、「現実とのすり合わせ」が大事なんです。

最近「空飛ぶクルマ」や「再使用型ロケット」なども話題ですね。これらにも関わら

れているそうですね?

北村…はい。たとえば、空飛ぶクルマ(eVTOL)では、小さなプロペラがたくさんついた機体が一般的です。このとき問題になるのが、「プロペラ同士が干渉して空気の流れが乱れる」ことや、「機体の胴体との相互作用」です。ちよとした空気の渦が揚力や安定性に大きな影響を与えるので、そこを高精度に予測するためのシミュレーション手法を研究しています。

再使用型ロケットについては、地上に戻ってくるときに「くるくる回ってしまう」ことがあって、それを抑えるための落下制御技術や、姿勢の安定化に関する研究も進めています。

今後、どんなテーマに注力していきたいとお考えですか?

北村…これまで積み重ねてきた「流体の数値解析」をベースに、AIとの融合に本格的に取り組んでいこうと考えています。特に、衝撃波と呼ばれる現象をAIが自動的に「見つける」手法や、リアルタイムに飛行状態をモニタリングするような研究です。

こういった分野は、単に新しいことというより、「計算機の性能だけに頼らず、頭を使って効率よく解決する」ことが問われます。そういう意味で、物理や数学の基礎に立ち返ることも多く、非常に面白いですよ。

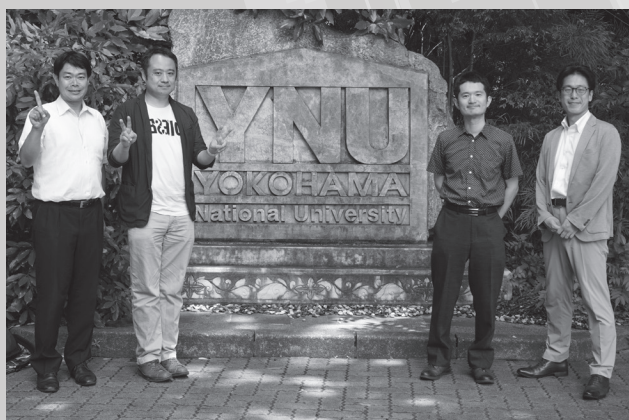
若い人へのメッセージ

最後に、後輩たち、特に高校生・大学生にメッセージをお願いします。

北村…まず、「数学」は避けて通れません。僕も大学1年のとき、ε(イプシロン)やδ(デルタ)が出てきて完全に心が折れました(笑)。でも、粘って勉強を続けたことで、それが今の研究のベースになっています。

それから「英語」。これはやっておいたほうがいいです。翻訳ツールが便利になってきたとはいえ、研究発表や留学ではやはり「生きた英語」が必要。スキルというより、世界を広げる道具としての英語だと思って、ぜひ早いうちに取り組んでほしいです。

そして最後に、「迷ってもいい」ということ。僕自身、ずっと迷いながら進んできました。でも、迷った分だけ、自分の選択に責任が持てる。それが、研究でも人生でも大切だと感じています。



左から、菅野秀治、岡安英俊、北村圭一氏、黒澤俊治(全員平成10年卒)



MEIJI INNOVATORS 理系編②

石田喬志 氏

—今回の会報のテーマは「Innovation of MEIJI～いざ撞かん、時代の暁の鐘～」として、新しい技術やアイデアを取り入れ、既存の価値観や方法を覆すことで、社会に新たな価値を生み出してきた明治高校中学校の卒業生にインタビューをしています。
熊本大学大学院 先端科学研究部で植物分子遺伝学を研究している石田喬志准教授にインタビューしました。

略歴

平成7年3月 明治大学付属明治中学校 卒業
平成10年3月 明治大学付属明治高等学校 卒業
平成14年3月 明治大学農学部農学科農学専修 卒業
平成16年3月 奈良先端科学技術大学院大学 博士前期課程 修了
平成19年6月 奈良先端科学技術大学院大学 博士後期課程 修了
平成19年6月 理化学研究所 リサーチアソシエイト
平成20年4月 日本学術振興会 特別研究員
平成21年4月 理化学研究所 基礎科学特別研究員
平成24年4月 奈良先端科学技術大学院大学 特任助教
平成25年5月 熊本大学自然科学研究科 文部科学研究員/特任助教
平成28年6月 熊本大学国際先端科学研究機構 助教
令和3年6月～現在 熊本大学大学院先端科学研究部 准教授

—最初に石田先生のご経歴を教えてくださいませんか？

明治大学付属明治中学校・高等学校を卒業後、明治大学農学部農学科農学専攻に進学し、学士課程を修了。その後、奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科に進学し、修士課程および博士課程を修了。博士号（バイオサイエンス）取得後の2007年（平成19年）から理化学研究所植物科学研究センター（現在の環境資源科学研究所）で研究員として植物分子生物学の研究に従事し、その間、日本学術振興会特別研究員、オランダユトレヒト大学の客員研究員などを経験しました。その後、奈良先端科学技術大学院大学に戻ったのち、2013年（平成25年）に熊本大学に着

任、2021年（令和3年）より同大学大学院先端科学研究部（理化学系）准教授として研究室を主宰し、植物の分子遺伝学やゲノム編集技術の研究を行っています。

—高校生の頃、理科や生物に特別な興味を持つきっかけはありましたか？当時熱中していたことや将来の夢について教えてください。

子どものころから理科と社会が好きで、自然と理系を志すようになりました。ただ、生物に特別強い興味があったわけではなく、情報系や機械分野に関心がありました。明治中高ではコンピュータ部に所属し、ちょうどWindows95が登場した時期でもあり、プログラミングに熱中していました。

一方で、当時はバイオテクノロジーが注目されており、遺伝子組換えやクローン羊「ドリー」などの話題から、「生物もプログラムのように設計できるのでは」と考えるようになりました。また、夏休みに参加したサイエンスキャンプでつくばの研究を訪れ、生物学の最先端に触れたことも強く印象に残り、これらの経験を通じて、生物系に進む決意を固めました。

—当時印象に残っている授業や体験はありますか？

昔から暗記が苦手で、生物は暗記項目が多く、得意ではありませんでした。試験中に記憶が頭から飛んでしまった際に、落ち着いて西村先生の説明を思い出し、図を描き直して解くことができた経験から、生物学を「現象を図や言葉で説明する学問」として

捉えるようになりました。また、西村先生が遺伝子組換え実験の話をしてくださったことも、生命科学への関心を深めるきっかけになったと思います。

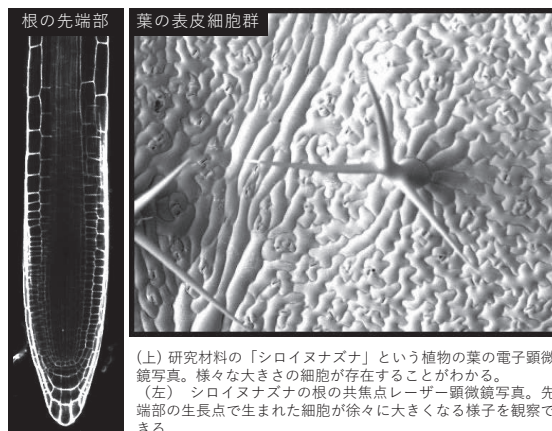
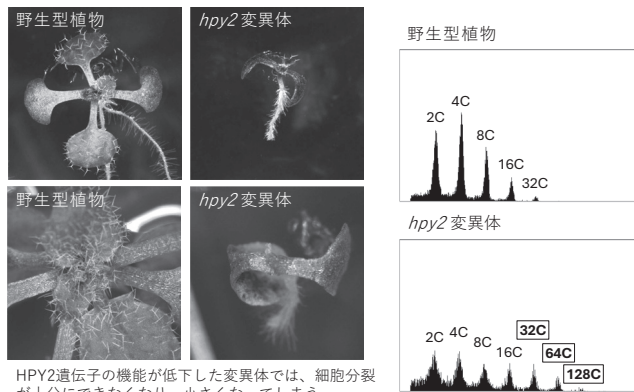
—大学・大学院での専攻や研究テーマを選んだ経緯は？また、これまでのキャリアの中で転機となった出来事や出会いがあれば教えてください。

明治大学農学部農学科では、伝統的な農学に触れながら、生命科学やバイオサイエンスを学び、魚住武司先生の「遺伝子工学」の講義に強く惹かれ、研究室で窒素固定菌の研究を始めました。「明治大学では生命科学研究の整備はこれからなので他大学へ」と



インタビューはオンラインで行われた。右上から時計回りに
石田喬志 氏、黒澤俊治、川合大之、菅野秀治（全員平成10年卒）

細胞分裂のスイッチ遺伝子 HIGH PLOIDY 2 (HPY2)



の魚住先生の助言を受け、奈良先端科学技術大学院大学へ進学しました。

そこで橋本隆先生のもと、微小管という細胞骨格の研究に取り組みました。顕微鏡観察を通じて「遺伝子と形の関係を理解する楽しさ」に気づき、技術だけでなく原理を深く理解することの大切さを実感し、基礎研究の重要性を再認識したことが、大きな転機となりました。

—現在取り組んでいらっしゃる『生物のサイズを決めるメカニズム』の研究について教えてください。

私たち人間も、身長に幅がありますが、8〜9割の人の大きさは同じ範囲に収まります。他の動物や植物でも同じ傾向が見られます。同じ種の個体は99.99%の遺伝情報を共有しているので、大きさが揃うのは当たり前に思うかもしれませんが、どのように大きさが決められているかは未解明です。

この疑問から「大きさを決める遺伝子」の探索を研究テーマにしました。研究は特定の遺伝子を傷つけて機能を失わせ、その後のサイズ変化を観察します。サイズが変われば、その遺伝子に調節機能があると推定できる手法で、現代の生命科学の出発点として広く用いられているアプローチです。

具体例を出すと、植物の場合では葉の細胞が成長して個体の大きさが決まります。その成長を途中で止める命令を出す遺伝子を見つけたことが私の研究テーマの一つになります。理化学研究所で2009年頃から始めた「HPY2」という遺伝子の研究では、欠損株で本葉ができる頃に成長が止まり、

葉や根の形成も停止する現象が見られました。

この現象から、細胞分裂や肥大化に関わる遺伝子の存在が示され、現在もその仕組みの解明に挑み続けています。

—『生物のサイズを決めるメカニズム』の研究について、どのようなところに一番面白さや醍醐味を感じますか？

おそらく、私自身の興味は「大きさ」や「サイズ」そのものではなく、DNA配列という明確な物質情報と、「大きさ」という抽象的な概念がどのように関連しているのかという仕組みのわかりにくさやブラックボックス的な部分に惹かれているのだと思います。それを少しずつ読み解いていく過程がとても面白く、醍醐味ですね。

—この分野の研究が解明されると、どんなことが可能になるのでしょうか。

どんなことが可能になるかについては、まだわかりませんが、研究そのものから直接的に得られる成果だけでなく、副産物として生まれた技術や知識を活用することで、社会に貢献できると考えています。自分のメインテーマは「植物が成長する仕組みの解明」であり、応用した取り組みとして以下を行っています。

- ・果実や花びらを大きくするなどの品種改良
- ・栄養吸収や光合成のプロセスを止める除草剤の開発
- ・ゲノム編集技術を用いた作物の開発

—今後挑戦してみたい研究テーマや、科学者として実現したい夢は何ですか？また、10年後・20年後の科学技術や生命科学分野の未来をどのように見えていますか？

面白いと感じるテーマが次々と増えていて、動植物の生物学をはじめ、化学・物理学・情報科学との融合や、農学・医学・薬学への展開にも強い関心があります。現在の「生物のサイズ」に関する研究に加え、もう一つ専門と呼べる分野を深め、新たな発見につなげたいと考えています。また、高校時代に漠然と抱いていた「生物を設計する」という関心も、今の技術を使えば新たな可能性が広がるのではないかと感じています。

10年後・20年後の科学の予想は難しいです。おそらく現在の先端バイオ技術はより身近になっているでしょうが、そういった予測を超えて発展してほしいと願っています。

—最後に、読者に向けて理科学のおもしろさやメッセージがあればお願いします。

どんな分野であれ、新しいことを知り、自分で謎を解く喜びは計り知れません。若い人には時間があり、年配の方も好奇心を持ち続ける余地があります。知らない世界は無限で、それに触れずに人生を終えるのはもったいないことです。

限られた時間で知識を蓄え、疑問を抱き、発見や創造につなげるプロセスこそが人生を豊かにします。自分に合った学び方を仲間と共有しながら続け、学びを「勉強」や「義務」と捉えるのではなく、楽しみや「生きる営み」として自然に取り入れてほしいです。



MEIJI INNOVATORS 理系編③

向殿政男先生

—今回の会報のテーマは「Innovation of MEIJI〜いざ撞かん、時代の暁の鐘〜」として、新しい技術やアイデアを取り入れ、既存の価値観や方法を覆すことで、社会に新たな価値を生み出して来た明治高校中学校の卒業生にインタビューをしています。
明治大学名誉教授、総明会名誉会長で現在、公益財団法人鉄道総合技術研究所（以降、「鉄道総研」）の向殿政男会長にインタビューしました。

略歴

昭和30年	3月	明治小学校（江東区立）	卒業
昭和33年	3月	明治大学付属明治中学校	卒業
昭和36年	3月	明治大学付属明治高等学校	卒業
昭和40年	3月	明治大学工学部電気工学科	卒業
昭和42年	3月	明治大学大学院工学研究科電気工学専攻修士課程	修了
昭和45年	3月	明治大学大学院工学研究科電気工学専攻博士課程	修了
昭和45年	4月	明治大学工学部電気工学科	専任講師
昭和48年	4月	明治大学工学部電気工学科	助教授
昭和53年	4月	明治大学工学部電子通信工学科	教授
平成元年	4月	明治大学理工学部情報科学科	教授
平成25年	5月～現在	明治大学	顧問 名誉教授
令和2年	6月～現在	公益財団法人 鉄道総合技術研究所	会長

—現在の勤務先の鉄道総研について、教えてください。

鉄道総研というのは、昔は国鉄で国立の地で鉄道の技術研究をずっとやっていた。その後、1986年（昭和61年）12月10日に鉄道総研が設立、1987年（昭和62年）4月1日に国鉄の分割・民営化で、本格的に国鉄の鉄道技術の研究事業を引き継ぎました。分割・民営化では、旅客会社が6社と貨物会社が1社に分かれましたが、現在、民鉄も含めてそれぞれの会社に会員になってもらい、鉄道に関する技術を利用してもらう、または各会社の鉄道技術の困りごとを一緒に解決する財団法人です。

—現在の向殿会長の仕事について、教えてください。

現在、鉄道総研は約550人の職員がいて、うち2000人超は博士の研究者集団です。会社という社長に当たる理事長と、その他に理事が5人いて、実務は動かしています。私は今年で6年目になりますが、会長として鉄道総研自体が正しい方向に進めているか、運営しているかを監視しています。そのため、普段は鉄道総研の職員の研究について理事から報告を受けたり、JR各社へ説明や顔出しをして要望を聞いてみたり、といった仕事をしています。

—研究所というのは会社とは異なる考え方なのでしょうか？

会社は営利目的なのに対して、公益財団法人である鉄道総研は鉄道の技術の方向性を決めたり研究をすることで、鉄道会社から一定の会費をいただくことで、安定した収入があります。鉄道で一番重要な「安全」については、あまり利益と関係ない話になりますので、研究を一生懸命やっているところがいゆる会社と公益財団法人の研究所と異なる点ですね。

—「安全」というキーワードが出てきましたが、21世紀以降向殿会長に安全に関する活動が多く、今回のテーマであるイノベーションを起こしていると思います。「安全」はどのようなきっかけで興味を持たれたのでしょうか？

実は、安全については、明治大学の当時の工学部の電気工学科の修士課程にいた時から



公益財団法人 鉄道総合技術研究所

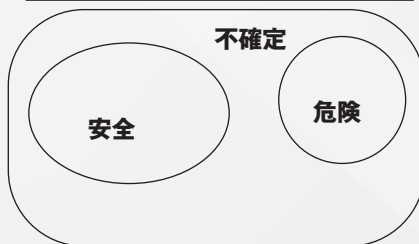
らテーマにしている、長い歴史があります。しかし、当時は大学だけでは安全に対する論文は書きづらいということで、修士や博士論文では電気試験所や日本信号株式会社と一緒に、鉄道信号のリレーの電子機器化を題材にしました。リレーはONとOFFがあり、通常時はON（進め）になっていますが、列車がいるとOFF（止まれ）になる機器ですが、故障したときはOFF（止まれ）とすることで、フェールセーフにする考えに基づいていました。

当該機器を電子機器で作るために、電気試験所や日本信号株式会社の担当者と一緒に研究したときに、私は設計理論を担当

安全	危険
----	----

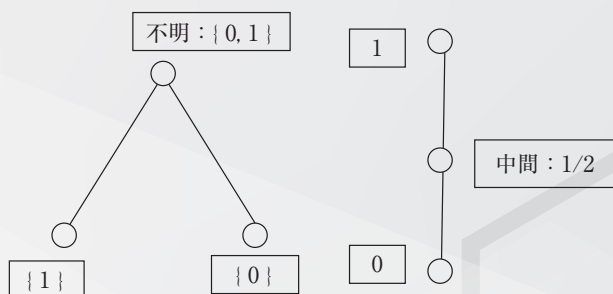
安全か危険か (2 値論理)

少なくとも 3 値論理が必要だ!!



安全か危険か不確定か (3 値論理)

U, Φ , 1/2 : ⇔ 分からない、未定、不明確、不定、故障、矛盾、振動、止まらない、……



(a) 1 (真) か 0 (偽) か不明 (b) 1 (真) と 0 (偽) の中間

しました。故障したときはフェールセーフつまり「安全な状態を維持するように設計」できることを実現しました。世界初でした。

「なるほど、「安全」に関する活動や、鉄道に関する研究は明治大学の頃から行っていたのですね。

博士論文も執筆できて、安全については当面やりたいと思いましたが、そこでも一つ興味があったのは、電子計算機つまりコンピュータでした。明治大学の教職に就いたあとは強電つまり電気工学から、弱電つまり電子や通信に興味が移っていき、電子通信工学科の設立に携わりました。最後にはコンピュータそのものの技術に関する情報科学科の設立、併せて理工学部改組を行い、定年まで情報科学科の教授として明治大学にいました。情報科学科では、ファジィやニューラルネットワークといった情報科学を研究していました。

「会長といえばファジィの印象でしたので、ファジィから「安全」にシフトしていったのとおっしゃいました。

「安全」が根本にあつて一貫しています。また、学校も小学校から「明治」で一貫しているよ。(笑)

「一方、ファジィといえば1990年の新語・流行語対象も受賞されるほどのインパクトで、世の中にイノベーションを与えたと思います。こちらの考えはどうやって生まれたのでしょうか？」

先ほどのリレーの電子機器化の設計の際

に、0と1ではない不確定を意味する第三の値を定義しなければいけなくなりました。当時いろいろな研究者が考えて、ある研究者は「unknown」(わからない)、ある研究者は「0と1を混ぜた文字で「 ϕ 」(ファイ)とつけていたが、私は論理学が専門なので0と1の間の「1/2」とすることを考えました。その後、0と1の間なのだから、0.2や0.3といった値もあるのではないかと思つたところ、当時アメリカにいたロトフィザデーも同じ考えで、手紙のやり取りをしながらファジィ論理と一緒に考えました。その後、人間の「経験」や「勘」を家電に対して取り入れるにあたり、ファジィ理論を取り入れたファジィ制御ができる家電を作り出して流行しました。

「ニューラルネットワークとは、どのようなものなのでしょうか？」

人間の脳の神経細胞(ニューロン)を、数理的にモデル化したものをニューラルネットワークと呼びます。これは、人間の脳の情報伝達は電気信号(パルス)で行われており、電気信号の0と1のバースの間隔はファジィ同様に、連続量のアナログな仕組みであり、相性がいとと考えられました。

「ここでも、ファジィ理論が使われるのですね。ニューラルネットワークとは、どのようなことに有効活用されるのでしょうか？」

人工知能つまりAIに生かしました。第二次人工知能ブームとして、エキスパートシステムによる学習が流行しました。エキスパートシステムは、専門な知識を覚えて「エキスパート」と同じことを機械で再現する

AIを作るといふものです。「エキスパート」が物事を判断するためには、多くの事例をインプットしなければいけないで、結局大量の情報を集める必要があります。コンピュータのメモリやパワー、情報伝達のスピード不足により専門分野以外では役に立たず、ブームは収束していきました。

「一方、現在、生成AIなどが増えている現状がありますが、どのようにお考えでしょうか？」

当時と比較すると、コンピュータのメモリやパワー、特に、電力を多く使うことで画像処理チップの性能が急激に上がったのが要因ですね。併せて、大量の情報を取り扱うビッグデータ解析やデータベースアクセスもインターネットで高速接続できるようになりました。ニューラルネットワークをパワーアップさせて、より複雑な問題を解けるようになりました。ディープラーニング(深層学習)は、当時3層のニューラルネットワークでしか実現できなかったことが、70層や100層と増えていっていますね。今は、コンピュータパワーや5Gなどの通信網のおかげで、実用になつてどんな社会でもどこでも使えるようになりました。

「ニースなどでも、ChatGPTのようなAIチャットボットが特集されていて、一般的になっているイメージですね。どのようにお考えでしょうか？」

すごく役に立ちますし、鉄道総研でも活用法を考えています。一方、必ずしも情報 が正しいわけではなく、全面的に信用し



てしまつては危険だと思います。私の考えのバックには「安全」があり、思想に基づいて研究をしてきました。

— 思想について、詳しくお聞かせいただけますでしょうか？

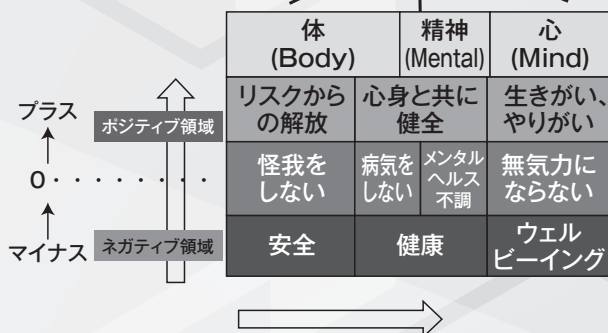
リレーの論理回路、ファジィ理論、そしてニューラルネットワークなどのAIを研究して明治大学の定年を迎えました。ファジィ学会も作って、学会誌も作って全部新しくしたので、面白かったです。自分で考えて作っていくって失敗もあるし、いろんなことがあるけど面白い、やりがいがあり、イノベーションにつながっていたのではないかと思います。また、ファジィ理論を例に、アメリカのザデーと日本の私が同じことを考えて、世界中に広がっていきましたが、ザデーは中東の生まれで東洋と西洋のちょうど真ん中の考え方があり、私は日本で中庸の考え方に基づいているのだと思います。つまり、0、1をはっきりさせない、あいまい、いい加減と良いかげんなど、という考えが根付いており、境界が不明確であるという思想が似通っていたのではないかと思います。

— 思想から生まれる研究があるのですね。

技術の裏にやっぱり思想があるのです。今、鉄道総研の会長ですので、鉄道で一番重要な「安全」についてよく考えています。何のために安全をやっているのか、人命尊重と利益のどちらが大事かと考えることがあります。私なんかは、「金よりは人命を優先すべきでしょう」という思想が根底にあります。一方、人命を最優先にすると、「なにもや

広義の安全

⇒ ポジティブ安全学の提案



らなきゃいい」つまりエネルギーをゼロにすればいい、そうすると家から出ないで何もしない。そうすると経済活動も生まれませんので、ネガティブになってしまいます。

— 5年前のコロナ禍のような考えですね。

最初は、未知のウイルスに対して恐れて家から出ないように言われていましたが、その後ウィルスについて徐々に判明した後も、恐れ続けてマスクしてないかと注意されるなど過剰な状況でしたね。安全も同じで、リスクに対して正しく恐れて対策を講じることが重要ですが、私はその際に明るく楽しく

ポジティブに行きましょうと考えます。身体的な安全の環境を確保して、健康を維持するために費用をかけるのはもちろんですが、働いている人自身が積極的に楽しくやれるように、やりがいが見つけられるようになど、ポジティブな考えが重要です。これを私は「ポジティブ安全」と呼んでいます。

— 大学から現在まで「安全」に関する思想があるのですね。「安全」に興味を持つにあたり、学生時代にきっかけはあったのでしょうか。

「安全」に興味を持ったのは、先ほどの鉄道のリレーの設計の時ですね。もともと数学に興味があつて明治高校の先生に明治大学で一番数学を使う学科は、工学部の電気工学科と聞いたので、進学したのがきっかけですね。当時、数学科はありませんでした。安全はその後ですね。なお、その後、電子通信工学科を作って、理工学部を作ったときに、理系として私が最後まで所属していた情報科学科と一緒に、数学科と物理学科ができました。

— 明治高校の話が出てきました。が、せっかくなので総明会誌ですの明治高校時代のお話を聞かせてください。

先生方は個性豊かで、明治高校の良さは今でいう多様な環境がありますね。私が所属していたJRCの顧問のチャーター（故・松枝正弘先生）を筆頭に、植物

の笹の専門家である友岡先生、またその後、大学の教授になった栗原圭介先生や、数学では野呂賢先生（のろけん）という先生に触発されて数学が更に好きになりました。そこで、自分の好きなことを進めることがよいということを学びました。今思うと、文科省のカリキュラムに従うよりは、自分の好きなことをやって生徒が育つという方針だったように思います。

— 会長の学びの原点はやはり明治高校だったのですか。

あと、多様性と並んで自由性があつた思い出がありますね。休みにパンを買いに抜け出してはチャーターに捕まったり、懐かしいですね。あと、私がいたころは土日休みで土曜日に映画館に行つては、補導に会いましたが、明治中学というのがあり土曜日休みなんて

人の領域 共存領域 機械の領域



Safety0.0 ■人による安全

Safety1.0 ■人と機械それぞれによる安全

Safety2.0 ■人と機械の協調による安全

協調安全～Safety2.0における人と機械の関係



鉄道総研内に展示されているリアモーターカー（左から）ML100形、ML500形、MLX01-3

すとよく説明したものです。初代校長が鶴澤總明先生でしたので、その影響もあつたのかなと思います。

—これまで、会長の原点である明治小学校から、思い出深い明治高校、そして「安全」に興味を持った話をお聞かせいただきました。また、今日まで「安全」を軸に研究を続けられて、社会に対して「安全を広めていただいた話を伺いました。今回のテーマである「イノベーション」について、会長は「安全」について新しい考えがあるのでしょうか。

「安全」についてはいろいろな考えの人がいますが、現在私は「協調安全」が重要と考えます。管理やルールや標準などの規格を作ればよいという社会科学的な発想、私がこれまでやつてきたような技術で安全を保つ自然科学的な発想、そして人間を鍛えて間違えないようにするヒューマンファクターによって安全を保つ人文科学的な発想があります。それぞれ3つを調和させるために、ICTやAIなどの技術により連携して実現することを「Safety 3.0」と呼び、そこで実現する安全を「協調安全」と呼びます。そして、何のために「協調安全」をするかというと、働く人が「安全」な環境に囲まれて、健康で幸せに働けること「ウェルビーイング」を目指します。これを国際規格に提案するように考えています。

—鉄道に関しての未来について、お聞かせください。

鉄道を使って移動するのも重要ですが、鉄道に乗ること自体を目的にして鉄道に乗ることが楽しいということになってほしいです。また、地方鉄道についても運ぶことが目的ではなく、ゆつくり走る列車に乗って景色を楽しむことを目的にしてもいいのではないのでしょうか。そのバックには「安全」がベースにあり、そして乗る人を楽しませる「ウェルビーイング」を実現させていきたいですね。

—今後の話もお聞かせいただきましたが、モチベーションの維持について、総明会員も悩んでいると思いますが、会長はどのようにお考えでしょうか。

まず、好きで面白いことをやりたいという思いが第一ですね。そのうえで、イノベーションを起こすときや新しいことを起こすときは、広く浅く探ると共に、範囲を決めてより深く掘り下げることが大事ですね。私は、「深即新」と呼んでいます。新しいことを創造するためには人がやらないものを見つけ、深く掘って進んで行く新しいものが生まれます。ただし、深く掘りすぎると誤ってどっかよくわからなくなるので、そこはバランス感覚が非常に大事です。私の場合は、「安全」を深く掘ることを決めて、ファジィ理論などについても研究しましたが、その根底は人の「安全」のためでした。また、「明治」についても明治小学校から深く掘っていきました。（笑）

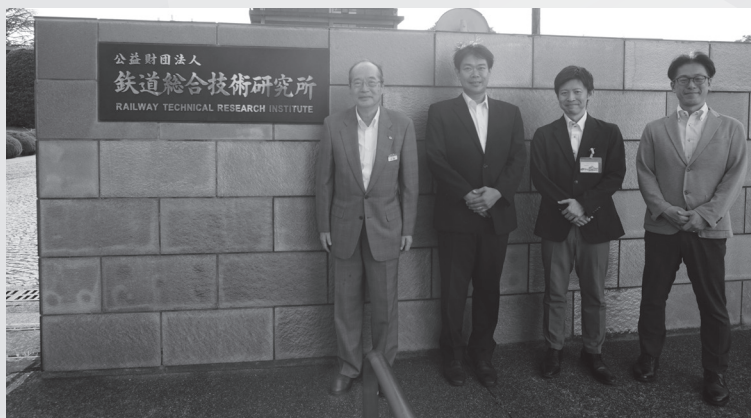
—モチベーションと、変わらぬ思想が重要なのですね。

私の場合は大学で40年以上研究をしてきたこともありますし、現在研究所という環境にいますので、一つのことを突き詰めることができる環境にいてよかったと思います。また、面白いことを探すという発想ではなく、自分がいるところを面白くする、例えば大学の環境を面白く変えようと深く深く掘ることですね。（例えば、嫁さんを探すときにいろいろな女性に会って点数をつけて、比較して判断するような人はめったにいませんよね。直感的に決めて、その決めた嫁さんとうとう面白く生きると考えますよね。）時代は早く変わっていった、今面白かったところは5年後も面白いかというわからない、だから自分の周りを面白く変えてい

こうという考えが重要と考えます。そうすること、より良い環境「ウェルビーイング」が実現できていきます。

—貴重なお話をありがとうございました。

【WEBコンテンツ】向殿会長から総明会員の皆さんに向けたメッセージ（動画）をいただきました。QRコードからぜひご覧ください！



インタビューに立ち会った幹事学年（左から）菅野秀治、清水佑紀、黒澤俊治





MEIJI INNOVATORS 歴史編①

たかし

平田 健氏

特集4

—今回の会報のテーマは「Innovation of MEIJI～いざ撞かん、時代の暁の鐘～」として、新しい技術やアイデアを取り入れ、既存の価値観や方法を覆すことで、社会に新たな価値を生み出して来た明治高校中学校の卒業生にインタビューをしています。東京都教育委員会で学芸員をしている平田健さんにインタビューをしました。

略歴

平成10年3月 明治大学付属明治高等学校 卒業
 平成14年3月 明治大学文学部史学地理学科考古学専攻 卒業
 平成16年3月 明治大学 大学院文学研究科 博士前期課程 修了
 平成19年3月 明治大学文学部 専任助手
 平成22年3月 明治大学 大学院文学研究科 博士後期課程 単位取得退学
 平成22年4月 東京都教育委員会
 令和4年9月 文化庁 近世・近代の埋蔵文化財の保存活用に関する調査研究委員会 委員

専門は日本考古学史

著書に『日本考古学百景－戦前の絵葉書にみる遺跡と遺物－』（吉川弘文館、2015年）、ETV特集『反骨の考古学者ROKUJI』などに出演

—まずは現在のお仕事を教えてください。
 現在勤めているのは東京都教育委員会で、文化財の保護や活用を担当するセクションです。文化財は基本的には地上よりも「上」にあるものと「下」にあるものの二つに大きく分かれるのです。僕はもともと明治大学で考古学を専攻したので、つまり「下」にある埋蔵文化財を専門に担当しています。

埋蔵文化財ですが、文化財保護法に基づき、「周知の埋蔵文化財包蔵地」となっている場所で土木工事を行う場合、届出が必要なんです。その届出に対してどういう指示をするのか。また、国や都が事業者の場合、発掘調査を行う東京都埋蔵文化財センターに指示をしたり、重要な遺構が発見さ

れた場合は現地で保存ができないか、といった調整をするのが教育委員会の役割です。

—考古学には高校時代から関心があった？
 もともと千葉県松戸市に住んでいました。自宅周辺には縄文時代の貝塚が多くあつて、土器や石器といったものが身近にある環境でした。小学生の頃から自転車で遺跡を巡っていました。
 その後、商学部に通関士にも興味がありつづも、最終的には明治大学考古学陳列館（当時）で見た考古遺物に感銘され（笑）、文学部の史学地理学科へ進学しました。

—そもそもの話ですが、考古学と歴史学の違いは？

考古学は過去の人たちが地中に残したもののから歴史を復元する学問で、広義の意味では歴史学の一分野に入ります。ただ、歴史学というと一般的には文献や文字など書かれたものから歴史を叙述する。目的は同じだけれども、扱う資料が違います。

考古学というと、縄文時代とか弥生時代というイメージがあるけど、昨日誰かが埋めたゴミから、その人の行為を復元するのも、ある意味考古学なんです。

—平田さんは、仕事以外に関心のあることは？

大学院では「考古学史」という考古学の歴史を研究していて、現在もライフワークとして取り組んでいます。あまり研究する人がいないので、ライバルが少なくていいですね。

教科書的に言えば、横浜停車場から新橋

に向かっていたエンドワード・モースが、大森停車場付近で貝塚を発見し1877年に発掘調査を行う、これが近代考古学のスタートです。ところが実際にはそれ以前、江戸時代にも古墳を発掘したり、考古遺物からそれを残した人種について『古事記』などから推定したり、という萌芽が見られます。

モースのようなお雇い外国人が日本に持ち込んだのは、体系化した学問としての考古学でした。例えば土器の図面を書く場合、当時は筆を使ってスケッチのように描いていたのが、モースは実測図という考え方で図面を作成しています（写真1）。遺跡の発掘にしても、宝探しのような採集ではなく、目的をもつて調査し、土器や石器、貝などの動物遺体から、当時の環境を復元するなどしました。そうした、現在にも通じる考古学の基礎を日本に持ち込んだのがモースです。

モース以後、日本考古学を牽引したのが東京大学の坪井正五郎という先生です。坪井は現在の考古学を基本とし、人類学や民俗学、文化人類学など学際的な研究により過去のヒトを知る学問、「人類学」を提唱し

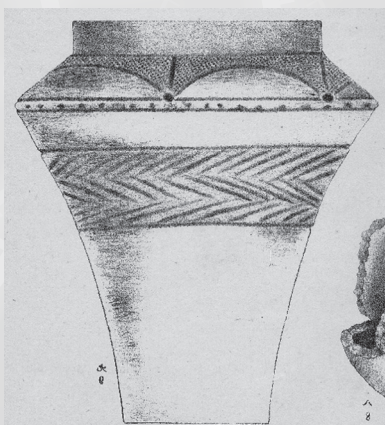


写真1 モースが実測した大森貝塚出土土器

ます。坪井は新聞記事や講演、おもちゃの開発など、研究成果を社会に還元させ、「人類学」を市井の人達に普及した点を私は評価しています。

ところが、モースに対して坪井は、日本人類学界において「間接的な恩人」と言っており、自分の研究の系譜とは違うと言っているんですね。急激な西欧化の反動としての国粹主義という時代背景も踏まえた上で、こういう発言は理解する必要があります。考古学史のまさに醍醐味ですね。

坪井が亡くなって以降、現在の考古学につながる基礎を築いたのは、濱田耕作を中心とする京都帝国大学です。ちなみに明治大学に史学科が設置されたのは1932年（1938年に地理歴史科に改組）で、考古学を担当したのは当時東京帝室博物館（現在の東京国立博物館）鑑査官の後藤守一先生でした。後藤先生は1950年4月に発足した、明治大学文学部考古学専攻の初代主任教授です。

一方で、2000年頃にはいわゆる旧石器捏造事件などがありましたね。

前・中期旧石器捏造問題から今年で25年が経ちます。ちょうど僕が大学2年生の時でした。考古学史という分野に興味を持つようになったきっかけが、この事件でした。現在、日本考古学協会のアーカイブに関する委員会に所属しているのですが、この問題が検証できるように資料を保存継承していく必要があると思っています。考古学史を研究していくづく思うのは、その時代を生きている人ほど、言えないことがたく

さんあるわけです。

今の僕らが、例えば明治時代の研究者のことを書く際に、当然知らない部分も多いのだけれども、一方で、今だから書けることもある。そこは考古学史の難しい点でもあり、面白い点でもあります。

学史だけでなく、考古学自体もそうですね。縄文時代の人の活動について、さも見てきたかのように博物館で展示されているけれども、結局は残された遺跡や遺物からの推察でしかない。そうした推察、そこには現在の僕たちの価値観や主観が介在している。で、歴史学や考古学は過去の資料を通じて現在の自分たちを客観的に見る作業とも言えます。

考古学史については、平田さんの公開論文には学校の資料についての論文も公開されていますね。

小学校とか中学校に教材室や郷土室という部屋があつて、農具とか昔の資料が集められていたことを記憶されている方もいらっしゃるでしょう。僕の小学校にはそうした部屋に縄文土器の破片が多くあつて、休み時間とか掃除の時間によく触っていました。

考古資料や民具などは、それは学校の歴史だけではなくて、その学校がある地域とか郷土の歴史の蓄積です。一方で、20年くらい前から学校の統廃合が進んでいく中で、こうした資料がいつの間にかなくなっているとか、いつの間にか捨てられてしまったとか、そうした課題が顕在化してくるようになります。

現在、「学校資料」あるいは「学校所在資

料」という研究分野が確立されつつあり、きちんと専門家が資料の価値を見きわめ、例えば総合学習など授業のなかで活用してもらうことで、散逸や廃棄の危機から救おうとしています。

考古学史研究の中で、僕は考古学・人類学模型標本も専門としています。模型標本は本物の土器や石器に比べて捨てられるリスクが高い。その歴史を紐解くと、明治時代や大正時代には考古学者自身が監修していて、最先端の研究成果がそこには反映されているんですね。

これも埴輪の模型なのですが（模型登場）、京都帝国大学で現在の考古学の基礎を作った濱田耕作先生が監修し、学校教材として販売していたものです。明治から大正期にかけては、教科書とか教材などに考古学の研究成果を反映させようとする動きが盛んでした。考古学者が研究成果を社会にどう還元したのか、そうしたメディアとしての役割のつに、考古学・人類学模型標本があると考えています。

当然それぞれの地域に歴史があるわけですね。

特に現在、都心部で生活する人たちって、そこで親子何代にわたって生活しているケースは稀で、もともとのルーツが違う方たちが集まってコミュニティを形成しているわけです。だからそういう方たちがその歴史だとか、その地元に住んでいるところの歴史を学ぶ意味は何なのだろうか、ということも考えていかなければいけないのです。

埋蔵文化財は土地に根付く文化財なんで

すよね。そこで生活を育んでいこうとする人たちが共有できる資源の一つだと思います。

都市部で開発をしようとするれば、遺跡が見つかることも多いですよ。例えば、最近では高輪築堤跡が話題になりましたね。

高輪築堤跡は、港区の品川駅周辺再開発事業にともない、2019年に発見されました（写真2）。今も発掘調査や保存に向けた協議が行われている真っ最中です。

歴史的な環境からいうと、箱根駅伝の1区で増上寺の三解脱門を南下し、三田で国道15号線に入ります。これがかつての東海道ですね。国道15号線を南下すると、東京都交通局・京急線の泉岳寺駅付近に「高輪大木戸」があります。もともとは国道の両側にあつたのですが、現在は東側だけが国史



写真2 発見直後の高輪築堤跡（右から3番目が平田氏）

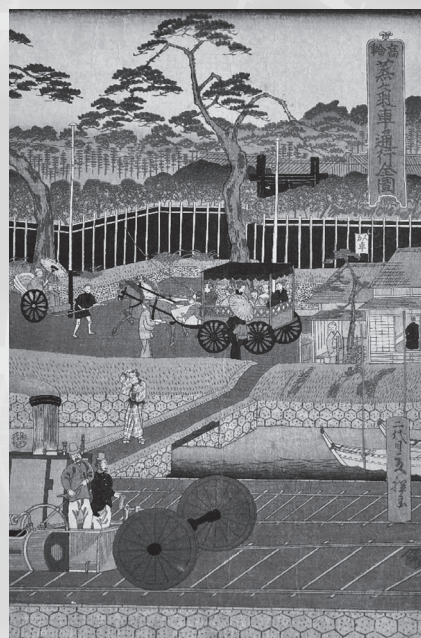


写真3 歌川広重(三代)『高輪 蒸気車通行全図』
手前が高輪築堤、奥の馬車や人力車が走るのが旧東海道

海上築堤ができてしまつて船が通れなくなつてしまったため、地元住民から船が通れる橋をかけてほしいという請願が出されます。発掘調査では旧新橋停車場から数えて7番目の第七橋梁(写真4)の橋台部が発見されました。

さらに、その後明治末から大正初期にかけては、高輪築堤と旧東海道の間の埋め立てが進み、建物の基礎などが見つかりました。

なお、八ツ山橋の下の品川停車場(日本初の鉄道は新橋―横浜の開業前に、品川―横浜間で仮開業しています)に関する遺構も残っているのではないかと考えています。

―高輪ゲートウェイ駅周辺のように広い開発をすると、江戸時代や明治時代の遺跡が二度に出てくる、ということもあるのですね。

大規模開発の場合、基礎や地下構造物をつくるため現在の地表面から20メートル以上掘る場合もあります。人間は上に上に土を盛つて生活基盤を作りますので、現在の地表面から掘削していくと、平成↓昭和↓大正↓明治↓江戸時代…と重層的に遺跡が見つかります。

開発で埋蔵文化財が壊されてしまう場合は、発掘調査という方法でその土地の歴史を記録し、報告書としてまとめる(記録保存調査とも呼ばれます)のが一般的です。

が、その費用は開発者が負担するのが原則です。そもそも埋蔵文化財として扱う対象や時代については、文化庁が1998年に通知を出しているのですが、旧石器時代から中世までは原則対象とし、江戸時代は地域において必要なもの、明治時代以降は地域において特に重要なものを対象とすることができるとされています。

高輪築堤跡は1872年(明治5年)9月完成ですから、明治時代以降となります。これを埋蔵文化財として扱うかどうか、というところから議論はスタートしました。言わずもがな、日本最初の鉄道遺構ですから、港区や東京都だけではなく、我が国の歴史にとつて重要ですから、埋蔵文化財として扱うこととしました。

埋蔵文化財の保護は、その土地に残すことが原則です。発掘調査は、新しい時代から古い時代に遺跡を掘りますから、遺跡の破壊と同じなんです。発掘調査報告書は、図面や写真で遺跡を後世に伝えるものですが、それはあくまでドキュメントです。文化財保護行政の立場としては、遺跡を現地に残せないかどうか、ということからのスタートなのです。

それで、現地で保存するとなると開発計画は立ち行かなくなる。現在の経済活動が成立しなくなることも問題となるわけで、全てを残せるのか、あるいは一部であればどこが重要なのか、それとも全く現地には残せないのか、文化財保護部局と開発事業者とのせめぎあいというのか、調整が難航しました。

特に新聞などで取り上げられることが多かった「第七橋梁」については、極めて重要で

すから現地保存できないか、と調整を重ねました。事業者からすれば、都市計画決定など法的手続きも終わり、工事に着手する直前の段階でしたので、課題山積だったと聞いています。最終的には地上31階建ての超高層ビルをセットバックさせ、現地保存が叶いました。現地保存は、第七橋梁を含む築堤約120メートルで、この範囲は「旧新橋停車場跡及び高輪築堤跡」として国史跡に指定されています。今年の3月に高輪ゲートウェイシティ(4街区)がまちびらきをしましたが、その北側3街区に第七橋梁があります。今後、復元整備を行い、数年後には現地で見るができる予定です。

現地保存の必要性については、行政がいくら重要だといつても客観的ではないので、専門家の意見を聞くために、開発事業者が高



写真4 第七橋梁橋台部

輪築堤調査保存等検討委員会を立ち上げました。どの様な議論がなされているかは、事業者のホームページで議事録や資料が公開されています。120メートルの現地保存、それ以外の記録保存調査(一部は移築という整理について、どのようなプロセスを経て決定したかが、検証できることは重要だと思います。何れは学史的評価がなされるべきです。

また、現地保存にあたっては、日本考古学協会や日本イコモス国内委員会など学術団体等が要望書を出しています。昨年12月には港区教育委員会が現地見学会を開催しましたが、2日間で4306名の市民が参加されました。都内の現地見学会参加者としては異例ですね。

—そもそも発掘調査は埋蔵文化財の破壊なのですか？

発掘調査には大きく2つあり、1つは学術調査。これは大学や研究機関が行うものです。でも、もう1つが行政調査と呼ばれるもので、開発計画との調整でやむを得ず現地保存ができない場合の発掘調査。2023年度の統計では日本全国で行われた学術調査が280件、開発に伴う行政調査が6985件、実に96%が開発に伴う発掘調査なのです。

だから、埋蔵文化財を現地に保存することはできない。現地に残してしまうと今の人たちの生活が立ち行かなくなるので、やむを得ず発掘調査をするのです。

考古学の分野、特に理化学分析の技術革新は日進月歩で、数年前ならわからなかった

ことがわかるようになってきています。もし、埋蔵文化財が現地に残されていたら、過去の人類の生活がよりリアルに復元できるかもしれない。発掘調査報告書となって残された遺跡では、残念ながらそうした分析や検証ができないのです。

だから、学術調査の場合でも、遺跡を全部発掘するのではなく、その価値を明らかにすること、あるいはその遺跡を保存するために必要なデータを得るために必要最低限の範囲を調査するのです。残された遺跡は、可能ながぎり未来に引き継ぎ、保存への理解を求めていく責務があると考えています。

—考古学をアピールする取り組みというのもあるのでしょうか？

自分たちが生活している土地の歴史を体感できるのが、前にも言った遺跡見学会です。最近では、都内の埋蔵文化財調査では現地見学会をできる限り開催して、近隣住民や学校、あるいは都民の方々に見て頂く機会を設けています。現地で見ることができ最後の機会ですからね。

近年では、大学の考古学専攻志願者数が減っており、卒業後に行政職や埋蔵文化財センター、民間の発掘調査会社への就職も少なくなっています。発掘調査技術の継承という課題もあります。高校生のうちから考古学に関心を持つてもらおうと、日本考古学協会では毎年5月の総会で高校生のポスターセッションを開催しています。地歴クラブや、個人で考古学に関係する研究成果を発表し、それに対して日本考古学協会の会員が直接質問をしたり、アドバイスをしたりする

機会です。日本全国から毎年10件程度の発表があります。

優秀な発表を表彰する制度もあり、それがきっかけとなって考古学専攻の大学に推薦入学できた事例も聞いています。

—最後に、平田さんの思う考古学の醍醐味とは？

埋蔵文化財行政は、開発と保護の調整役なんです。だからその評価はすぐには出ない。100年後、あるいはもっと長い時代を経て、わずかだけれども過去の人たちの生活の痕跡を地面に留めることができたことに評価がなされると思います。

生活をより豊かにしようと日々取り組まれている方々には申し訳ないけれど、そのビルが100年先まで使われるとは僕は思っていない。だから、その次の開発の時、恐らく人口は減って、今のような規模での再開発はされないでしょう、きっと。自然だとか文化財といったものが生活の中に溶け込んでいるような空間が、当たり前のようにになっているかもしれない。そうなったときに、よくぞこれを残してくれた、と言われる。あるいは、何でこれしか残せなかったの、と批判をされるかもしれない。僕らが生きている時に自分のしたことが評価されない、報われない仕事だなあ(笑)と思いますが、長い歴史を経て評価をされるということは、反面ほかの仕事にはない魅力でしょう。

冗談はさておき、100年後の人たちと僕たちの価値観は共有し得るのだろうか、と考えると恐ろしくなることがあります。つまり、今の研究や学問の物差しだけで、埋

蔵文化財の価値を判断してよいのか。そこには、考古学という分野を越えて、美術史や建築史、経済史などあらゆる視点が必要ですし、様々な価値観を持つステークホルダーとの交渉力が求められます。考古学は人間修養につながる学問、と言っても過言ではないでしょう。

出典

写真1: Edward S. Morse Shell Mounds of Omori Memoirs of the Science Department, University of Tokyo, Japan, 1879

写真2・4: 港区立郷土歴史館 所蔵提供
写真3: 平田所蔵



オンラインで取材は行われた。左上: 黒澤俊治 右上: 椎名俊仁 下: 平田健氏 全員平成10年卒



写真：明治大学史資料センター提供

MEIJI INNOVATORS 歴史編②

鵜澤聰明先生

明治中学校初代校長を34年に渡り務められ、そのお名前が「総明会」の由来ともなっている鵜澤聰明先生。

その巨大な存在を知れば知るほど、教育者として明治の礎を築いたことのみならず、深い思想のもと弁護士や政治家として日本の戦前戦後にとてつもなく大きな功績を残されたことに新たな感動と感謝を持つに至るのである。

今回「明治のイノベーター-歴史編」として紹介するのは他でもないこの鵜澤聰明先生である。2025年6月21日(土)、明治大学アカデミーコモンにて日本近代法史を研究されている村上一博法学部長・大学史資料センター所長のインタビューを行い、その人物像に迫ってみた。

鵜澤聰明先生と明治中学との出会い

遠藤：本日はご多忙の中、村上法学部長様、そして大学史資料センターの皆様には、お時間をいただき誠にありがとうございます。お手元にある『会報』は、私たち同窓会が毎年発行している冊子で、毎年テーマを定めて特集を組んでいます。昨年は『会報』第50号、総会も第60回と節目を迎えました。

今年は「Innovation of MEIJI」というテーマのもと、新たな時代にふさわしい特集を企画しております。その中で、「明治にイノベーションを起こした人物」に焦点を当てる歴史編として、鵜澤先生に関する記事を掲載したいと考えました。

我々の「総明会」という名称そのものが、鵜澤先生のお名前に由来していることから、

その足跡をあらためて振り返る意義があると考えております。

本日は、そのような背景のもと、村上先生から鵜澤先生にまつわるお話をお伺いし、特集記事の一部としてまとめさせていただければと考えております。

村上：大学史としてみると、明高中についての蓄積はあまりなく(記録や資料が十分に残されておらず)、大学としても情報の蓄積があまりないというのが現状です。

出版物はあるものの、それ以外の記録は少なく、過去に140周年の際に関連する出版や、鵜澤先生のご実家に残されていた資料の整理・受け入れを行った経緯がある程度です。鵜澤先生が明治中学(旧制)と関わりを持つようになったのは、29歳のときに明治法律学校(現明治大学)の講師に就任されたことがきっかけです。

東京大学出身である鵜澤先生が、当時の一般的な進路であった官僚や検事ではなく、あえて弁護士を志したことは、当時としては珍しい選択でした。その理由のひとつとして語られたのが、ご自身の経験です。鵜澤先生の父親がかつて冤罪扱いを受け、それを晴らすために苦労したという体験があったこと。「虐げられた人たちの弁護をこれからの仕事にしたい」という想いが、鵜澤先生の中に根付いたと考えられます。そうやって、弁護士としての「鵜澤聰明」ができました。

この頃、日本は大きな転換点にありました。明治後期、特に明治20年代〜30年代にかけて、日清戦争(1894〜5)・日露戦争(1904〜5)の勝利によって日本は国際的地位を高め、急速な経済発展を遂げていきます。一方で、政党政治の混乱、財閥の台

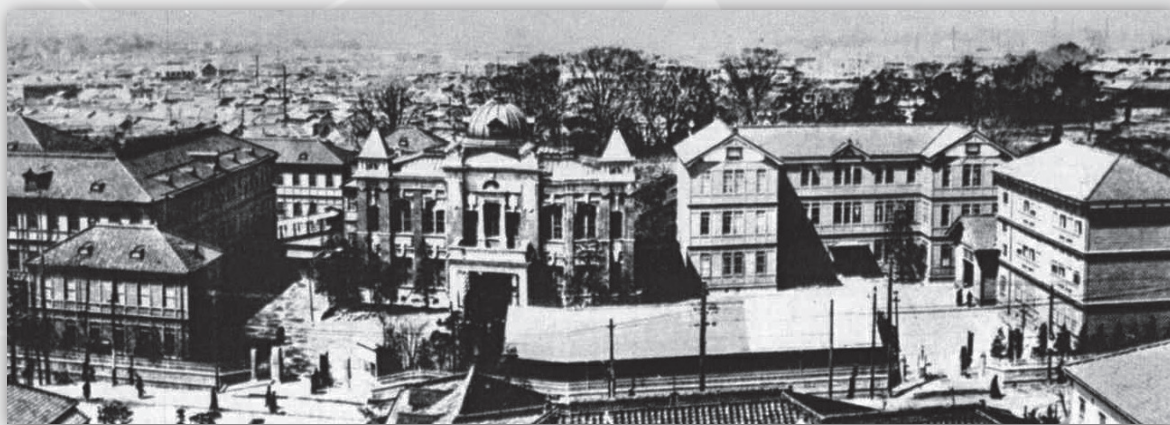


村上一博法学部長
大学史資料センター所長

頭、都市の労働者問題など、社会的な歪も顕在化し始めた時代でもありました。

こうした激動の中で、鵜澤先生は法律家として活動されました。単なる法技術者としてではなく、社会正義を掲げる。公共のための弁護士として、職務にあたっていたと考えられます。その後、明治中学との関係を深める中で、教育の現場へと本格的に足を踏み入れることになりました。そして1912年(明治45年)、初代校長として就任。以後、1946年(昭和21年)までの約34年間にわたり、学校の礎を築き続けました。鵜澤先生の歩みは、まさに「激動の時代における思想と実践の人」。弁護士としての信念と、教育者としての使命感が融合したリーダーシップは、その後の明治中学の校風にも大きな影響を与えることになりました。

鵜澤先生が活躍された有名な裁判のひとつに、「日比谷焼打ち事件」の弁護がありま。これは、日露戦争後の講和条約に反発して市民の怒りが爆発し、暴動に発展した事件です。当時、逮捕された主犯格の人物の弁護を鵜澤先生が担当し、その際に行った弁論が非常に印象的だったと伝えられています。鵜澤先生は「池に小石を投げれば波紋が広がっていく。だが、その波紋すべてを小石に責任を負わせることはできない」と語りました。



大正元年の明治大学(中央・左)と旧制明治中学校(右側2棟) 出典『図録明治大学百年』

これは、「一人の行動によって広がった影響を、すべて一人に押し付けることはできない」という、深い法的かつ倫理的な視点からの主張でした。鵜澤先生のこうした全体性

を見据えた弁護姿勢は、同時代の法曹関係者からも高く評価されたそうです。

彼の弁論には、日本法だけでなく、西洋や中国の古典的思想も数多く取り入れられていました。まさに、常人には一読して理解できないほどの思考の深さと論理の構築力を持つていたとされています。その姿勢は、岸本先生(注1)をはじめ、周囲の知識人たちにも強い印象を与え、後の明治大学における彼の役割へとつながっていったのだと思います。

明治大学では、創立30周年を迎えた1910年代頃から、教育の裾野を広げるべく中学校の設立が検討されていました。当時のキャンパス敷地内にあった記念館の横に中学校を設置する計画が進み、昼は働き、夜に学ぶ「夜間中学」の設置も含めた議論があったようです。中学校創設の背景には、いわゆる実業教育への関心もありました。

必ずしも大学進学を目指すのではなく、若者に中等教育を施し、社会に早く出ていくための実業教育が重要視されたのです。大学に行かなくても社会で活躍できる力を育てる—その一環として、中学校の開設が構想されたのです。しかし、当時の明治大学校長であった岸本先生が、残念ながら設立直前に急逝され、大学側は大きな混乱に見舞われました。

次に明治大学の校長候補として挙げたのは、木下友三郎、かつて行政裁判所部長を務めた人物でしたが、大学行政の経験は乏しかった様です。当時の大学では法曹界出身者—特に司法官や旧制法律学校出身の人材を学長や校長に迎えることが一般的でした。

明治大学も例外ではなく、教育者としての適性だけでなく、法律的な素養や社会的

地位も人選の要素として重視されていたと考えられます。こうした中で、鵜澤先生の名が明治中学校の校長候補として挙がってくるようになります。ただ、校長任命の経緯を示す具体的な資料は現在まで残されておらず、どのような議論のもとで決定されたのかは不明です。

とはいえ、当時の鵜澤先生は、中等教育や女子教育、大学改革などについて積極的に意見を述べており、教育理念を持った人物であつたことは確かです。そうした姿勢が、校長任命の大きな決め手となったのではないかと推測することができます。

「第一級の人物」とは

遠藤「ありがとうございます。続きまして、鵜澤先生教育理念について伺います。明治高校中学校ホームページの学校長挨拶には以下の記載があります。

「『質実剛健』『独立自治』の校訓のもと、次世代の人材を育成しております。『質実剛健』には、鵜澤総明初代校長が当時の生徒達に語った「第一級の人物」としての資質を持ち、健やかに育ち、社会のリーダーになつて欲しいという願いが込められています。『独立自治』は、私学の雄として学問の独立を保つこと、そして生徒が互いに協力しながら問題解決を図つていくという精神を表しています」とあります。この「第一級の人物」という人間性、資質の概念は、どのような背景から生まれたのでしょうか？

村上「鵜澤先生は大学4年間で社会と学生の間に溝が出来てしまわないよう、かつての3年制に戻すべきと言われていました。また、「これからの時代は『私立』、つまり帝

大と民間を埋めるような、新しい枠組みが求められる」とも考えられていました。そこで重要なのが「付属校」の存在です。大学教育の効果を高めるには、教育課程を系統的に整備していく必要があると考えられたのです。

鵜澤先生は、直接的な言い方ではありませんでしたが、受験中心の能率主義に対して批判的な意識を持っていたように思います。若者が受験のためだけに勉強し、それを教育だと誤認することへの懸念がありました。

多様な科目に触れ、自由な発想で学ぶことの重要性を強調されていたのだと、私は受け止めています。付属校という形は、そういった「全人格形成」にとって理想的だったのではないかとこれは私の個人的な推測ですが、そう考えています。当時、東京には私学の旧制中学では、すでに麻布や開成といった名門中学校が存在しており、これらは東京大学進学を前提とした教育方針で知られていました。

明治中学は、そうした伝統校とは異なる立ち位置で開校されたのです。付属に甘んじず、付属校として学生を確保しようとする発想ではなく、本当に人格を育む学校を目指していた—その信念が、鵜澤先生の「第一級の人物を育てる」という発言に表れていたのだと思います。当時の明治中学では、学生の多くが明治大学に進学するわけではありませんでした。

むしろ戦前であれば、他大学への進学が主流だったという話も残っています。実際、戦前の地方大学の学長の中にも、明治中学の卒業生がいたほどで、学外との結びつきも強かったようです。また、同時期に明治中学から他大学へ進んだ方が、後に教育界や政治の



世界で活躍した例もあります。

当時の校風や教育の雰囲気からは、「明治中学からそのまま明治大学へ」という流れではなく、多様な進路を支援する柔軟な姿勢が感じられます。

戦前・戦中・戦後の明治中学校教育について

大西・鶴澤先生は幼い頃から神童として知られ、成績優秀だったことから明治大学の創立者の一人である岸本辰雄先生から後継者と期待され、明治大学の総長を何度も務めていることからその期待に十分応えていると思われます。鶴澤先生が30年以上もの長期間にわたり明治中学校長を務められた時代背景について教えていただきたいと思っています。

また以前向殿先生にお伺いしたときに昭和30年ごろは鶴澤先生の薫陶を受けていた先生が多くいらしたというお話も伺ったことがあります。そのあたりについて教えてくださいませんか？

村上…明治中学の教育において特徴的だったのは、多様なバックグラウンドを持つ教員が揃っていたことです。例えば、ある先生は王政復古の思想を持つ方で、岸本先生の薫陶を受けた人物でした。彼と親しくしていた武田さんという方は、キリスト教的な価値観に基づいた穏やかな教育方針を持っており、受験一辺倒の教育とは異なるアプローチを重視していたようです。

当時の学校は、「明治、明治」と凝り固まるのではなく、経営者や学者、宗教関係者など、幅広い知識人が関わり合い、自由で柔軟な空気の中で教育が行われていたように思

います。今では多くの付属高校がそのまま大学へ進学するのが当たり前になっていますが、当時はそうした一方向的な進路ではなく、生徒が自ら道を切り拓いていくような風土があったのではないのでしょうか。

大西…生徒会活動も活発で、「生徒による、生徒のための」学校運営が実現していたとの記録があります。昭和30年に卒業された田村正彦さんが記した記録には、当時の生徒たちが自発的に議論し、行事を企画し、学校運営にも深く関わっていた様子が描かれています。こうした生徒自治の文化は、岸本先生や村田教頭（注2）の教育理念がしっかりと根付いていた証と言えるでしょう。

私自身も「本当にこんな時代があったのか」と驚かされるほど、理想的な教育の姿があったことを資料から感じています。

村上…実際のところ、鶴澤先生は象徴的な存在であって、日常の教務にはあまり関わられていなかったのではないかと意見もあります。忙しすぎたということもあるでしょうし、当時の学校運営体制も関係していたかもしれません。実務的な部分については、学校の教務を担っていた他の先生方が実際の指導をしていたと思われるます。

大西…戦中においては、大学が軍部の監視下に置かれるような時代背景がありました。明治大学も例外ではなく、言論の自由や教育方針に制限が課されることもありました。たとえば、慶應義塾大学では、学内に軍国主義的な文言を掲げること、軍部からの干渉を避けるといった苦勞もあったと聞かれています。

そうした厳しい時代の中で、リベラルな教育の火を消さずに戦後へとつなげていったのは、奇跡的なことだったと言えると思います。

村上…鶴澤先生に関しては、戦後は武道団体の長も務めるなど、保守的な側面が表に出ることもありましたが、その一部からは「右翼の親玉」と揶揄されるような見方もあったようです。

しかし、若き日の彼は人権意識や社会正義に強く根ざした考えを持っており、その姿勢と戦後の活動とがどう結びつくのか—それを一言で語るのには非常に難しいテーマですね。私たちが資料をもとに再構成しようとしても、やはり完全には掴みきれない部分が残るのです。鶴澤先生は、政治的立場を超えて人間を全人格的に捉える姿勢を持っていた。たとえば、大野伴睦（おののばんぼく）という人物が手形詐欺のような疑いで逮捕された際（昭電疑獄事件）、鶴澤先生は彼の弁護を全面的に引き受けました。

裁判では「このように高潔な人格を持つ人物が、仮に一度過ちを犯したとしても、その人間全体を否定すべきではない」といった主張をされていたと記録されています。

最終的に無罪となったのは公的地位についていた職務権限によるものでしたが、大野本人はきつと、鶴澤先生の弁護に大きく救われたと感じていたことでしょう。ただし、政治的な思想や立場すべてを共有していたというわけではなく、あくまで「人としての尊厳」に立脚した弁護だったのだと思います。

大西…私の家族も鶴澤先生に直接教わったわけではありませんでしたが、昭和20年頃には疎開もあり、東京を離れたことで、先生

との接点がは少なかったです。その代わり、記憶に残っているのは、村田教頭や島田先生（注3）といった、より日常的に関わっていた先生方の言葉や姿勢です。

村上…特に島田先生は、東洋法制史の大家であり、着物姿で悠然と歩く姿がとても印象的でした。90歳を過ぎてもお著作を続けていたほどで、学生からは尊敬の念を集めていました。私も在学中、彼の講義を3年間受けていました。鶴澤先生が、島田先生に東洋法制史の講座設置を依頼したという逸話があります。この分野は日本全国でも担当できる教員が少なく、司法試験の科目にもならないため、通常の法学部教育では軽視されがちです。それでも鶴澤先生は、「東洋の法制度を深く知ることは、現代の法律家にとって不可欠である」との信念から、この講座を開設されたそうです。

「深い教養と幅広い視野を持った人物こそが、一級の人材である」という考えが、先生の根底にあったのでしょう。事実、当時「近代法制史」という講座を設けていた大学は、東京大学と明治大学のみ。しかも、古代から近代に至る体系的な講義を行うには、専任教員を二人以上置く必要がありました。

明治大学がこのような「骨太の学問」にこだわっていたというのは、教育への強い矜持の表れだと思います。

大西…単に法律を解釈するだけでは不十分で、なぜその法律が生まれたのか、どういう社会背景があったのか—その歴史的な土壌を理解しなければ、法学は本質を見失ってしまいますね。

村上…こうした哲学的なスタンスも、鶴澤先生の「深みある教育」を支える重要な柱だったのでしょうか。

大西…また、明治高校が創立100周年を迎えた際、当時の政治経済学部金子先生がスピーチで語ったエピソードも印象的です。明治中学の開校前に火事があったのですが、病床の岸本先生が聞きつけ、病を押して現場に駆けつけたというのです。その後も開校まで奔走された岸本先生が初代校長として指名したのが鶴澤先生だったと。

村上…現職裁判官の先生が多い中で弁護士
の鶴澤先生が注目され、岸本先生から全幅
の信頼を寄せられていたのだと思います。

明治大学付属八丈島高校について

関川…明治大学付属八丈島高校 昭和25
年（昭和30年）について伺います。

明治中学校当時総長を務めていた鶴澤先生が僻地教育に関心を寄せていたことが同校の設立決定に大きく関わっていたという話があります。鶴澤先生は明治大学総長、明治中学校長も退任され極東国際軍事裁判に専念されていた中なぜ八丈島に高校を創設したのでしょうか？

八丈島高校についても、卒業生の情報が十分に残っているわけではありません。とはいえ、卒業生のお話や当時の校舎等の写真を見ていく中で、当時の新聞や資料もいくつか見つかり、地域の新聞「南海タイムス」によっても、設立が報じられていました。

村上…この高校はわずか5年間という短い期間しか存在しませんでした、そこにも鶴

澤先生の思想的影響が及んでいたと考えられています。同校の設立や現地調査に携わった方々の証言によって、改めて鶴澤先生の教育への熱意を垣間見ることができそうです。

八丈島高校が設立された背景には、「島内で高等教育の機会を確保したい」という地元の要望がありました。興味深いのは、明治大学側も八丈島高校の設立に強い意志を持っていた点です。鶴澤先生がその設立に尽力し、明治大学が「僻地教育」に深い関心を寄せていたことが、いくつかの文献でも語られています。

東京などの都市に教育資源が集中することへの問題意識を持っていた鶴澤先生にとつて、八丈島は「地域と教育」の新たな可能性を実験的に試す理想の場だったのかもしれない。八丈島高校のような「地域型教育」の試みは、時代や地理的条件の制約もあつて、永続的なものとはなりません。ただ、その精神は「東京一極集中に対する問いかけ」であり、現代に通じる問題意識でもあります。明治大学は、全国各地に付属校を増やしていくような戦略はあまり採つてこなかったようです。

高度経済成長期には「大明治構想」のような拡大案が語られることもありましたが、結果としてそれは実現せず、むしろ必要以上に手を広げないという判断がなされたようです。結果的に、今の明治大学が持つ「堅実で骨太な教育機関」というイメージは、この慎重な姿勢から生まれたとも言えるかもしれません。

付属高校の設置や移転をめぐることは、時に地域社会との軋轢もあつたようです。校舎の建設地や住民の反応、政治的な調整など、多くの困難がつきまわつたといえます。そ

れでも、明治大学は無理に拡大をせず、各地で「心ある教育」を根気強く実践してきました。明治大学のリバイタタワーが完成した際、「これは憧れだった」と話す卒業生の声が多く聞かれました。とくに地方から来た学生にとつて、あの壮麗な建物は強烈な印象を与えたようです。

「うちの子がいろんな大学を見て回つたけれど、一番きれいだったのは明治だった」と語る親御さんの話も紹介されました。

それは、単なる外観の美しさ以上に「大学としての誇り」を感じさせるものだったのかもしれません。

思想の巨人 鶴澤總明先生

村上…最後に、鶴澤先生の話に戻ると、彼は大学の拡張主義に走ることなく、あくまで教育者としての信念を貫いた方でした。

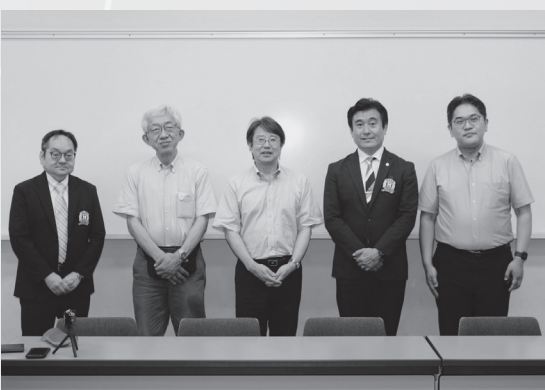
学長・総長としての手腕だけでなく、教育の本質を見据える目を持っていたからこそ、明治大学にとつてのかけがえのない財産だったのだと思います。鶴澤先生について話を聞けば聞くほど、「単なる政治家や弁護士」ではなく、「思想家」としてのスケールの大きさを感じさせられます。

先生の中には、個人的な経験や思想、宗教観といった多面的な要素が詰まっています。たとえば、語彙の使い方一つ取つても、並大抵の人物では到達できない深さがありました。たくさんの知識を持つていてただではなく、それを文脈に応じて自在に引き出すことができる—そんな「思想的なキャパシティの広さ」が、鶴澤先生にはあつたのでしょうか。

だからこそ、単に「第一級の人物になれ」と言われた時、その背景にある人物像を知つ

ているかどうかで、その言葉の重みはまったく変わってきます。表面的な成功ではなく、信念と深みを持った人物になること—それが鶴澤先生の語る「第一級」だったのだと思います。

終始村上先生の穏やかなまなざしと笑顔の中紡がれる言葉の中に、鶴澤先生の持つ大きさ、深さと温かさを感じることが出来た。偉大な明治のイノベーターであり思想の巨人であつた「鶴澤總明先生」の思いを受け継ぐ我々でありたいと強く感じた一時であつた。



左から関川一浩(昭和57年卒)、大西静士郎(昭和52年卒)、村上博法学部長、遠藤克彦(平成2年卒)、椎名俊仁(平成10年卒)

注1 岸本先生…岸本 辰雄(きしもと たつお) 1851~1912。法学者。明治大学創設者。1911年明治大学学長時に旧制明治中学校を創設。
注2 村田教頭…村田 勤(むらた つとむ) 旧制明治中学校教頭。イェール大学大学院出身。
注3 島田先生…島田 正一郎(しまだ まさお) 1915~2009。東洋史学者。法制史学者。旧制明治中学校卒業。1963年明治大学付属明治高等学校・中学校校長。1984年~1992年 明治大学総長。

2025年(令和7年) 退任

並木啓先生インタビュー

並木 啓 先生
(英語科)

長きにわたり明治高校で教鞭を執られた並木啓先生(英語科)、吉田重幸先生(英語科)、駒形くみ子先生(社会科)が3月をもって退任されました。3月12日(水)と18日(火)、明治高校にてインタビュの機会をいただき、これまでの歩みや胸の内を語っていただきました。

本日はお時間をいただきありがとうございます。早速ですが、生い立ちからご着任までのお話を伺えますでしょうか。先生の出身はどちらですか？

並木…北区の田端です。下町育ちで結婚するまでそこに住んでいました。実家は工作機械を販売していました。田端の明治通り沿いの一角が機械を売るための商店街みたいになっていて、父はそこにある会社を経営していました。近所にもんじゃ焼き屋さんがあるような、そんな雰囲気です。

まさに下町って風景が浮かんできます。先生は小学生のころ、どんなお子さんだったんですか？

並木…どちらかというと内気でしゃべるのは得意ではなかったのですが、勉強だけはちよつとできていたようです。小学校の同窓会で「教員になった」と言う、「数学の先生？」って聞かれるくらい、みんなにとっては算数ができる子っていう印象でした。親戚や親が教育熱心だったこともあり、中学受験して立教へ進みました。当時は今と違ってかなり珍しかったんです。

クラスに1〜2人でした。四谷大塚に通ってね。昔は学校説明会なんてあまりないし、ましてや児童が参加するような場でもなかったこともあって、どんな学校なのかわからずに、親に勧められるまま受験しました。ミッシン系だけど男子校でね。あと付属校だったことが、明治中高に勤める1つの流れになっている気がします。実は最

初それほど英語は得意じゃなかったんです。受験勉強がきつかったんでちよつとのんびりしたかったっていうのもあったかな。中2のときの担任が英語の先生で、結構はつばをかけられて、勉強方法も見直しさせられて、そこから少しずつできるようになってきました。

それはどんな勉強法だったんですか？ぜひ聞きたいです。

並木…全然すごいことではなくて、問題集を繰り返しやりなさいって言われて、それまで1回しか解いていなかったところを、2回、3回と繰り返すうちに改善していつて文法力もすこくついたと思います。それでもやっぱり数学が一番得意でした。それは高校に入ってから同じで、理系には進まなかったんですが、成績が一番いいのは数学でした。

そこそこ英語もできるけど、そんなに才能があるわけでもない。数学は英語ほど努力しなくても点が取れていましたね。いま生徒たちにその話をすると、多少は驚かれますが納得してくれる方もいますね。数字が好きだったり、データ分析が好きだったり、理系っぽさを感じているんでしょう。

いつごろどんなきっかけで教師になろうと思われたのでしょうか？

並木…高1のときに素晴らしい国語の先生に出会ったんです。この先生の授業が深くて挑戦的でした。付属校で勉強しないとお前らどうなるか分かるか？みたいな感じで、授業のレベルを上げてくる。そうすると

僕も中学受験を思い出して、このままじゃ駄目だよなって、根本的に勉強に対して取り組みを変えました。

本当に真剣に深く勉強するということ。その先生に教えていただきました。とても頭のいい先生で、黒板に数学の問題が残っていたりすると、いくつか解法があるから、なんて教えてくれるんですよ。

国語の先生なのに。あまりにもその先生が大好きで、友達と一緒にお住まいに押しかけたりして、いろんなお話をうかがいました。これが教師という仕事に対する興味の一番の原点になっています。人の人生や考え方自体を変えられる素晴らしい仕事だ。なって。そのときにこれって決めたわけではないんですけれども、すこくいい選択肢だ。なって考えたのが高校1年生。

勉強がある程度伸びてきた高2の後半に、大学受験を考え始めました。そのまま



教師を目指したきっかけは高1のときに会った素晴らしい国語の先生でした



映画部の顧問は35年くらいしています

推薦で進学できる成績だったんですが、その先生からの刺激もありましたし、自分でもやればやるほど何となく勉強の面白さがわかってきて、数学も国語も英語も面白いなと思ってきて、受験に備えて駿台予備校に通いました。昔は併願制度なんてないので、立教大学へ進学するかしないかの2択でした。当時の大学受験って倍率が半端じゃなく高くて、しかも立教大学へは戻れないわけですから、今から思うとリスキーでしたね。

でもその時は全くそんなことは思わずに、両親もチャレンジしていいと言ってくれたので、高Ⅲの秋に決断し、慶応大学の文学部に進みました。文学部を選んだのはその先生の影響もあるし、英語自体も好きになっていたので、リスニングも何もない時代の受験英語じゃなくて、ちゃんとした英語を真剣に深く勉強したいなと思っていました。

それで大学ではESSに入って、ちょっと頑張りたいなって思ったら、それが文化部のなかの体育会と言われるような、すごいクラブでした。週6日間は活動があつて、昼休

みにも集合をかけられて英語の勉強、週に1回は夜のミーティング、あと大会がすごく多いんですよ。

Recitation(リセーション)暗唱の大会がいきなりあつて、Gettysburg Address(ゲッツバーグ演説)とか古い英語で書かれたリンカーンの演説をまず暗記しました。他にもスピーチ、ドラマ、ディベートといった活動をしました。その中で一番はまったのがディベート。

データを分析・解析してそこから何が言えるか、つまりエビデンスを使った論理のゲームです。これが面白くて一生懸命にやりました。でも帰国子女の子たちが強くて、ディベートも戦績はそれほど良くなかったですね。アルバイトは、文章を読んだり書いたりするのが好きだったので出版社で働いたり、教えるのもだんだん面白くなってきたので英語中心に家庭教師をしたり。

そして憧れの教職を志して就職活動にながつていくわけですか？

並木…いや、それがそうでもなくて。出版社にすごく魅力を感じていたので教職と二本立てでした。出版社は大手ばかりを受けて、ある程度の面接までは進むんですが、最後までは難しかったです。教職はというと、都立は合格いただいて、私立では最初に声をかけてくれたのが明大明治でした。まず場所が近いし、立教と同じ男子校の付属校だし、インスピレーションでこれはいいかなと。

前年に上小牧先生がいらっしゃったんです。それで校長が何かひらめいて、去年は早稲田だから今年は慶応がいいんじゃないかって仰っていたというんです。後から聞

いた話で嘘か本当かわかりませんが、それ(笑)。本当に相性が良かったのかなと思っています。それが1982年。22歳で就職して43年間勤めさせていただきました。

その43年の中で先生が感じた変化などについてお話をうかがえますか？

並木…着任したときに一番感じたことは校風の違いです。立教高校は自由だったので、校則やその指導の厳しさにびっくりしました。狭い教室に1クラス50人以上いたり、色々な意味で息苦しくて。これは続かないかもなと思うくらい窮屈な印象を受けました。それが2008年の移転と共学化を転機にして大きく変わりました。飽きっぽい性格の僕がここまで勤められたのは、そんな2つの学校を体験できたからかもしれない。前の場所も好きですけど、校舎もグラウンドも広いこちらの方が可能性を感じます。そして、女子がいることで、これまでなかったクラブや行事もたくさんできてくる。

先生はその移転を挟んだ時期に広報主任でいらつしました。

並木…移転が決まった時、広報という部署が存在しなかったものでそれを作るところから担当しました。学校の良さを男子にも女子にも伝えたいいけない。今まで下町系の方が多かったのが山の手っていうか普通のサラリーマン家庭の方にも伝えなきゃいけない。そして移転の前後は両方の校舎に通うことになるんですね。最初はお茶の水5年間+調布1年だったのが、4年+2年+1年+5年になる。そうだったあたり

のマーケティングが結構難しかった。あと学校案内や雑誌・塾への寄稿など、色々な文書をたくさん書かなきゃいけない。

でも40代の半ばからそういうような仕事が出来たっていうことに運命を感じるんです。マーケティングをデータから論理的に考えることにはディベートの経験が、文章を書くことは出版社の経験が活かしているんです。今だったらそんなこと体力的にもできないし、若過ぎても経験がないからできない。まさに働き盛りにその時期にその立場になつて、奇跡か天命か自分が今までやってきたことがここでいっぺんに結ばれたんだっていうようなところが、本当に人生不思議だなと。この学校に入るべくして入ったのかなつて思うぐらい運命を感じました。

学校が新キャンパスに移つて最初の年、ほんとにびっくりするくらい大成功で、偏差値もグンと上がったんです。でも広報担当として、授業の時間割はいつも通りあるのに、学校説明会で走り回り、補習も入って、3週間まるまる休みゼロなんてこともザラ。7年間続けてきて体も気力も限界ストレスでした。いちばんしんどかったのは、自分が広報で惹きつけた受験生を、最終的に「合否ライン」で落とさなきゃいけない場面。顔なじみになつて、何度も足を運んでくれた子を不合格にするたび、正直、心が削られる思いでした。

移転から1年後、精神的限界を感じたので、校内の研修制度を利用して今度は1年間カナダへ留学させてもらいました。学費も生活費も学校が支援してくれる制度で、心身をリセットし、学び直す貴重な時

間になりました。帰国すると、今度は創立100周年事業が開始していて、当時の校長・金子先生から「君が適任だ」と呼び出されたんですよ。そこで私は、留学プログラムの刷新や英語コンテンツの新設、英検・TOEIC基準の導入など、英語教育全体の改革を各先生方と一緒に推進することになりました。現在行われているスピーチコンテストやイングリッシュプレゼンテーションコンテストは、そのとき私が提案したものです。学生時代にESSで培った経験が思わぬ形で生きた瞬間でしたね。短い期間のうちに、あれだけ多くの制度改革ができたなど、自分でも思います。もちろん、急激な変化に対して不満を感じた先生もいらしたかもしれませんが、それらの制度が今もすべて残っているという事実を見ると、やはり必要とされていた改革だったのではないかと感じています。

部活動についてもいろいろお聞きします。

並木…映画部が一番長く関わっていますね。あとはクラシック音楽好きの縁でマンドリン部の顧問を10年ほどしていました。そのほかにも、硬式テニスやソフトテニスなど運動系の部活もありましたし、将棋も好きなので将棋部も数年間担当しました。

映画部は私がこの学校に入った43年前にはすでにありました。当時は部員も少なく、それほど活発ではありませんでしたが、今では30人以上、時には40人に達することもあります。高校生のフィルムコンテストでも受賞歴があり、非常に活気のある

クラブになっています。自分が映画好きで、たまたま映画部があったことも、教員生活を長く続けられた理由の一つかもしれません。

もともと別の先生が顧問をされていて、私はすぐには関われなかったんですが、その先生が退任されるときに「並木先生、あとはよろしく」と引き継がれてから、かれこれ35年くらい顧問をしています。移転して共学になったことで部の雰囲気は大きく変わりましたね。特に女子生徒が加わったことで、活動の幅が一気に広がりました。以前は「男子のクラブ」と思われていたんです。

機材やパソコンを使うことが多いので、どうしてそんな印象が強かった。でも今は逆転して、女子のほうが2対1くらいの割合で多いんです。

シナリオも演技も上手ですし、パソコンも使いこなせる。映画制作に対する感性も豊かで、女子の活躍がめざましいです。共学化によって、映画のストーリーの幅も広がりました。昔はアクションやコメディが主流でしたが、最近はシリアスな作品や恋愛ものも多くなっています。編集作業も、今はほとんど部員に任せています。

昔はフィルムで編集していて、上映するための資格を取りに行ったこともありましたが、フィルムは高価でしたし、失敗が許されなかった。でも今は、何度でも撮り直しができる。機材もどんどん進化していて、自分ではもう扱いきれないくらいです(笑)。

明日がいよいよ最終出勤日ですね。定年後、明後日から新しいステージが始まる

わけですが、何かビジョンのようなものはありませんか？

並木…ビジョンって言えるほどのものはないんですけど、好きなことはたくさんあるのですね。これからはそういうことをやっていきたいなと思っています。たとえば原点に戻ると、やっぱり文章を書くのが好きなんです。特に詩が好きで、大学時代からずっと好きだったんですけど、仕事が忙しくて長い間まったく書いてなくて。だからまずは詩を書きたいな。あと、仕事にするつもりはないんですけど、教えることもともと好きなんです。

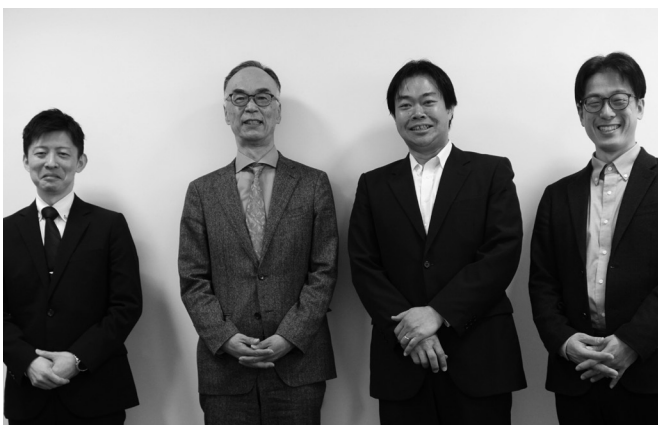
日本語を教えるか、英語を教えるかはわからないけど、無償でそういうことができたらいいなって。やる気のある人のサポートができたらうれしいですね。仕事にしろやうと、また休みがなくなったり、いろいろ縛りが出てくるので。それと、ワインが大好きなので、いろんなところに行つて飲んでみたいんです。ワイン仲間もいますし、そういう人たちと交流したり。旅行も好きなので、妻と一緒にいろいろ行けたらいいなと思っています。そんな感じですね。本当にやりたいことが多すぎて、挙げていくときりがないんですよ(笑)。でもまあ、これからは好きなことをゆっくり楽しんでいきたいと思っています。

最後に少し抽象的な質問ですが、並木先生にとって「明治中学・高校」とは？

並木…うーん…やっぱり「運命」ですね。それしかないです。43年間をこの学校に捧げてきて、本当にそれだけの価値があったと

思っています。他の学校だったら、きっとここまでやれなかったと思うんですね。それはやっぱり、生徒や保護者の方々、そして卒業生みなさんの温かさがあってこそです。本当にみなさん、温かくて素晴らしい方たちばかりで。もう感謝しかありません。

【WEBコンテンツ】並木先生から総明会会員の皆さんに向けたメッセージ(動画)をいただきました。QRコードからぜひご覧ください！



インタビューに立ち会った幹事学年 (左から) 清水佑紀、菅野秀治、黒澤俊治



2025年（令和7年）退任

吉田重幸先生インタビュー



吉田重幸 先生（英語科）

明治で歩んだ42年

2025年3月末をもってご退任された英語科・吉田先生。42年にわたり明治中学・高校の教育現場に立ち、生徒たちと向き合い続けてこられました。2025年3月12日、会報委員会が明治中学・高校を訪問し、吉田先生にインタビューを実施しました。長年の実践から見てきた変化や想い出、今後の展望、そして卒業生へのメッセージを語っていただきました。

教職を志すまで、明治への着任

先生が教師を目指すようになったきっかけと、それまでの歩みをお聞かせください。

吉田…私は千葉県市川市の生まれで、小学校以降は東京で育ちました。高校は都立の高校に通い、大学は筑波大学で英語を専攻しました。

実は2歳上の兄が大学受験で浪人しているのを見て、自分は絶対に現役で合格しなければと思い、その時に選んだ勝負科目が英語でした。英語に取り組むうちに面白くなってきた、英語に関わる仕事をしたいと思いました。昔から人に何かを教えるのが好きだったこともあり、教職という道が現実的な選択肢になりました。

明治に着任された経緯は？

吉田…弟が大学の付属校に通っていて、自分は大学受験にエネルギーを費やしたのに対して、弟が部活動や学校行事に熱心に取り組み様子を見てきました。それを見て「こういう学校で教えたい」と思ったのが動機です。

そんな中で、教職の採用に応募し、1983年に明治高校・中学校に着任することとなりました。当時、学生は学生服に学帽、革靴という格好で、まさに明治という硬派な印象を持ちましたが、優しい生徒が多かったです。当時は新人に大学推薦の過程を実感させるという方針もあって高校Ⅲ年を担当、年齢も5つくらいしか違わなかった、良い関係が作れました。

着任当初の思い出はありますか？

吉田…新任当時の終業式でのことですが、私が壇上で挨拶している最中に、生徒が少し体を揺らしていたんですね。それを見た司会の先生が「壇上に来い、貴様は精神がたるんだろー」と喝していました。それを見て「これは大変な学校に来てしまった」「男子校ってこういうものかな」と思いました（笑）。

明治の変化・イノベーション

先生が在籍された40年以上の中で、学校の様子は大きく変わってきたと思います。印象的な変化はどんなことでしょうか？

吉田…駿河台からの移転、共学化が一番大きな変化だったと思います。2008年度に女子の受け入れが始まった際には、女子を教えるノウハウがなかった、共学校を見学に行きました。

当初は1クラスに12〜13人ほどの女子がいる程度でしたが、現在では完全に5対5になりました。学校の雰囲気も少しずつ変わり、行事や生徒会活動においても女子生徒がリーダーシップをとる場面が増えてきました。

長年教師を務められる上で、何かポリシーのよつなものはありますか？

吉田…本校ではよく「第二級の人物たれ」ということが言われますが、単に勉強ができるだけではなく、人を思いやつて相手の立場に立つて行動できるようにしてほしいと

いう思いがあります。同じことをするうえでも自分ファースト、相手ファーストという2つのアプローチがあると思いますが、相手のことを考えながらも、自分のやるべきことをしっかりとやるということでしょうか。

42年間で、生徒のこころが変わってきたと感じることはありますか？

吉田…男子も男子校時代と比べて洗練された、シティボーイになってきましたね。修学旅行のときにJALのCAさんに「みなさんすらすらとしますね」と言われたことがあります（笑）。

逆にこういうところは変わらない、と思うことはありますか？

吉田…学生としての自分を尽くすという、



質実剛健の気風は変わらないですね。そして、学校の運営に貢献していこうという「独立自治」の精神でしょうか。

そして、こちらが熱意を持って準備すればちゃんと応えてくれる、手を抜いていると見抜かれるという厳しい目も変わらないと思います。

様々な部活の顧問を務められてきました。が、部活にかかわる思いはありますか？

吉田…部活動はバドミントン部、英語部、水泳部、生徒会本部、マンドリン部、囲碁部、将棋部を担当してきました。マンドリン部は毎年7月に全国高校マンドリン部フェスタに出場しており、明治では20人くらいの部活なのですが、1000人を超えるような常連の学校を押しのけて、文部大臣賞を3回受賞したのには驚きました。

生徒会本部もいまは1000人くらいいます。今は女子が多いですね。入試のお手伝いなどは、今でも綿々とやってきています。みなさんの時代は、いろいろな役職を少ない人数で兼任していたと思うので、大変だったかもしれません。

あと、スクールバスの最終便が18時半になったので、文化祭前も遅くまで残れなくなりました。以前は後夜祭もやっていましたが、今ではできませんね。

先生が明治高校で実現した「イノベーション」として、どういったものがありますか？

吉田…着任当初は英文解釈、訳出中心の授業が主流でしたが、時代の変化とともに

より実践的な英語力に力を入れる必要が出てたので、入試にもリスニングを導入しました。

その中でも大きな転機となったのが「New Treasure」という教科書の導入です。これは文科省検定外の教材で、かなり難易度の高いものです。中学から高校は英検2級一次試験合格、高校から大学は英検2級合格を要件としており、朝に英検の補習を行っていましたが、特段の英検対策を行わなくても、英語力が身につくようになっていっていると思います。

また、2013年度から設置された「国際連携主任」の初代を務め、夏休みや冬休み、春休みの海外研修を新設しました。また、中3・高1向けのスピーチコンテスト、高2・高3向けのプレゼンテーション大会を始め、入賞者には海外研修を補助する制度も整えました。

今後の展望・卒業生へのメッセージ

退職後にやってみたいことはありますか？
吉田…今はまず、少しゆっくりしたいというのが正直なところです。教職から離れることで、新たにやってみたいことが見つかるかもしれません。

3年生の学年付きとして最後まで生徒たちと関わり、「卒業」できることは、教師人生の締めくくりとして本当にありがたいものでした。

先生にとって「明治中学・高校」とはどんな存在ですか？

吉田…本当に「他に代えがたい場所」です。私一人ではできなかったことを、ここで仲間や生徒たちと経験でき、充実した教員生活を送ることができました。明治高校・中学校には感謝しかありません。

最後に、卒業生のみなさんへのメッセージをお願いします。

吉田…卒業生のみなさん、今年3月末を以て退任することになりました。私の教え子のはべり1万人以上になります。私も42年間仕事をする中で、葛藤することも多くさんありましたが、そんなときに生徒と触れ合う時間が私に元気を与えてくれました。今回、こうして退職を迎えられ

るのも、1万人の教え子たちのおかげです。みなさん、それぞれの場所でご活躍のことと思いますが、私も第二の人生をがんばりたいと思います。どうもありがとうございました。

【WEBコンテンツ】吉田先生から総明会会員の皆さんに向けたメッセージ(動画)をいただきました。QRコードからぜひご覧ください！

SOURCE MAGAZINE



No.003-2025



インタビューに立ち会った幹事学年
(左から) 大野 光平、岡安 英俊、古宇田 大介、大関 啓太郎

2025年（令和7年）退任

駒形くみ子先生インタビュー

30年間を通じた「学び」の変化

よろしく願います。私たちが卒業してからもう25年以上が経ちますが、今回のテーマ「Innovation of MEIJU」ということで、駒形先生が感じられる明治中学・高校や変化について教えていただけますか。

駒形…社会科に限らず、グループワークや発表など、双方向性を重視するアクティブ・ラーニングを取り入れる先生が増えました。やってみるとしつかり参加してくれる。私自身、他の先生から影響を受けて少しずつ取り入れてきました。

私たちが卒業した1998年は、まだインターネットが家庭に普及していない時代。検索すれば膨大な情報に触れられる時代になり、生徒の学びはどう変わりましたか？



駒形…自分で調べる能力が高く、テスト勉強でも質問に來ないで、自分で調べて解決するような生徒が増えてきています。生徒にはレポートや課題の際に必ず参考文献を書かせるわけですが、信頼できるサイトじゃないとだめというのはうるさく言っていて、高校生の段階では学術機関とか政府機関以外はあまりあてにしないように、というのには伝えています。あとは、昔から問題だったかもしれませんが、コピー厳禁ということは徹底しています。

生成AIを使いました、と宣言しているレポートは見ましたが、「これはどっちだ？」というものにはまだ出会っていませんでした。

30年間の教員生活の中で、生徒の変化をどう感じていらっしゃいますか？

駒形…最近の生徒はSNSで友人とコミュニケーションするので、面と向かって言えないけどSNSでは言える、というのがすごくあります。クラス40人の前で自己表現するというのはすごくハードルの高いことですが、そのときに「自分の知らないところで批判されるんじゃないか」というのを恐れているように感じて、大変だなと思います。昔は「影でものを言わない」と教えられてきましたけど、影で何か言われることを前提に、気を使ってやっている、若いうちから大変だなと思うことはあります。

生徒の英語力も上がってきましたが、世界史の授業に影響はありますか？

駒形…直接的にはあまり変わらないですね（笑）。海外研修の機会が増えたこともあり、多少は世界史用語を英語で言うか教えた方がいいかなと思って、インダストリアル・レボリューションとか、キーワードを英語で紹介することはあります。

先生の授業では資料にマンガなど、ビジュアルをよく使われていた記憶があります。

駒形…ずっと同じことやってますね（笑）。あと、この学年は授業で明治大学の刑事博物館でやっていた「拷問展」を見に行つて、あれは結構いい反応があったなと覚えてます。あの頃は学校が駿河台に近かったですね。

最後に、卒業生の皆さんへメッセージをお願いします。

駒形…こんなに母校を大事にしてくれるOB・OG会はなかなかないと思うので、私がかかわった卒業生も何かあったときに帰つてこられる場所であつてほしいな。総務主任で総明会の窓口もやっていました。総明会のみなさんのご尽力も大きいと感じています。とてもありがたい存在なので、総明会を通じてみなさんがうまく交流していけるといいと思います。

30年間お疲れ様でした！

祝 第61回総明会総会、懇親会開催



明治高校マンドリン部
OB・OG会

2025年度 学校報告

年間行事 予定・報告

【10月】

- 中間考査(14日～17日)
- 高I特別進学指導講座(生田校舎)
- 中学体育祭(23日)

【11月】

- 高Ⅲ・修学旅行(沖縄)(10日～14日)
- 芸術祭(中学11日／高校12日)
- 高I特別進学指導講座(駿河台校舎)

【12月】

- 期末考査(9日～13日)
- 終業式(24日)

【1月】

- 始業式(8日)
- 高校推薦入試(22日)
- 吹奏楽班 定期演奏会
- (高校・大学)推薦面接試験(24日)
- 生徒会長・副会長選挙(27日)
- スピーチコンテスト(29日)

【2月】

- 中学入試(2日・3日)
- 高校一般入試(12日)
- マンドリン部 定期演奏会
- 応援団「紫紺の下に」
- 高Ⅲ歓送会(18日)
- 期末考査(27日～3月4日)

【3月】

- 高校卒業式(10日)
- 終業式(18日)
- 中学卒業式(19日)
- 中大・高大連携スプリングセミナー

【4月】

- 入学式(6日)
- 始業式(8日)
- 新入生歓迎会(8日)
- オリエンテーション(9日・10日)
- 第1回 避難訓練(15日)
- 健康診断(24日)
- 六大学野球観戦(26日)

【5月】

- 生徒総会(12日)
- 中間考査(19～22日)
- 中3・修学旅行
(奈良・京都方面)(27～30日)
- 高I・林間学校
(群馬県みなかみ方面)(28～30日)
- 中1・林間学校(菅平方面)(28～30日)
- 中2・移動教室(静岡・伊豆方面)(29～30日)
- 高Ⅱ・学年学級活動(横浜・鎌倉方面)(30日)

【6月】

- 教育実習・前期(2日～21日)
- 授業参観(6・7日)
- 高校スポーツ大会(12日)
- イングリッシュ・プレゼンテーション
コンテスト(17日)
- オープンキャンパス(21日)

【7月】

- 期末考査(5日～10日)
- 終業式(19日)
- 夏期補習(22日～28日)
- 高大連携サマーセミナー(～8月)

【8月】

- 夏期国内英語研修(12～15日)

【9月】

- 始業式(1日)
- 実力考査(中学:2日・3日)
- 第2回 避難訓練(16日)
- 文化祭(紫紺祭27日・28日)



学校ホームページ
QRコード

学校ホームページアドレス
https://www.meiji.ac.jp/ko_chu/

新任先生紹介



まえだ れんたろう

前田 廉太郎 先生

●略歴

生年月日…2000年9月26日

出身地…三重県

出身校…近畿大学附属新宮高等学校、東京

学芸大学中等教育教員養成課程英語専攻、

東京学芸大学大学院教育学研究科(教職大

学院)

前職…なし

担当教科…英語

担当クラブ…ソフトテニス部、水泳部

●明治中学・高校に赴任しての印象

何事にも全力で取り組み、学校生活を充実させている生徒が多いと感じます。また、指示を待つだけでなく、自ら考えて行動する姿も多く見られ、その自主性の高さには日々感心させられています。

●生徒たちに期待すること

様々なことに興味を持ち、チャレンジをして、自分の可能性を広げられるような生活を送ってほしいと思います。

●自身の抱負

伝統あるこの学校で生徒の生活を助け、支えるとともに、生徒と一緒に様々なことにチャレンジできる教員になれるよう尽力します。

●自己紹介

最近では語学学習アプリを活用して、各言語の検定取得を目標にさまざまな言語を少しずつ勉強しています。「学習者」としての気持ちを常に忘れず、日々の指導に生かしていきたいです。

班・部活動の記録／資格試験・表彰

PTA会報 2024年12月23日180号・2025年3月10日181号・2025年7月18日182号より抜粋

中2B 村上, 中2D 石田
女子個人 準優勝 中3E 日野

令和7年度第9ブロック中学校夏季剣道選手権大会
女子個人 優勝 中3E日野

中学野球部

第9回ブロック夏季選手権大会 準優勝(都大会進出)
第14回春季わかば杯 優勝

卓球部

令和6年度調布市市民大会
シングルス 第3位 中1C田口

令和6年度東京私立中学・高等学校第3支部夏季大会
シングルス 高校の部 第3位 高1F 坂本

第64回調布市民スポーツ大会
(卓球競技・個人戦・男子一般2部)第3位 高1F 河村

バレーボール部

2024年度第32回関東私立高等学校男女バレーボール選手権大会
グループB aブロック 第1位

班・部活動の記録

吹奏楽班

第64回東京都高等学校吹奏楽コンクール
A組 銀賞／C組 金賞

剣道部

第71回文京区民剣道大会 高校生女子の部
優 勝 高II A 松下(二連覇)
準優勝 高I E 宇田
第3位 高II B 小池

令和6年度第63回東京都中学校秋季剣道大会新人大会
女子団体の部 ベスト16
中2A 日野, 中2B 藤井, 中2D 塩田,
中1B 村上, 中1C 石田

第66回三鷹市春季剣道大会
女子二段以下の部 準優勝 高III G 松下
男子二段以下の部 第3位 高II B 熊田

令和7年度第9ブロック夏季シード権大会
女子団体3位
中3B 藤井, 中3C 塩田, 中3E 日野,

東京都中学校新人テニス選手権大会
男子団体の部 ベスト8(関東大会進出)

第50回東京都中学校新人テニス選手権大会
男子ダブルス 3位 中2B 向當, 中2D 真壁

第64回調布市民スポーツ大会
高校生男子シングルス 優勝 高ⅢD 勝見
準優勝 高ⅢC 園田
第3位 重田

令和6年度多摩地区テニス選手権大会(男子団体)
優勝
中2B 新井, 向當, 中2C 長谷川, 中2D 藤原, 真壁,
中1C 深谷, 中1D 澁谷, 菅野

第64回東京都中学校第9ブロックテニス選手権大会
男子ダブルス 第一位 中3B 向當, 中3D 真壁

第64回東京都中学校テニス選手権大会
男子ダブルス ベスト8(関東大会出場)
中3B向當, 中3D真壁

女子硬式テニス部

第41回東京都ジュニアチームテニスチャンピオンシップ
小・中学生の部 女子Aチーム 3位

マンドリン部

第54回全国高校ギター・マンドリン音楽コンクール
優秀賞・特別賞受賞(在大阪イタリア総領事賞・優秀賞)

映画部

第18回高校生フィルムコンテストin映画のまち調布
最優秀作品賞「カノジョのとなり」
高ⅢE 齋藤, 高ⅢG 遠藤, 高ⅢG 川越
演技賞 高ⅢG 遠藤

水泳部

第72回東京都中学校学年別水泳競技大会
(3年・男子50mバタフライ) 第6位 中3C 服部

東京都高等学校新人水泳競技大会
(男子50m平泳ぎ) 第7位 高IID 清水

第八回東京都十二中学校対抗水泳競技大会
(男子50m自由形) 第1位 中3C 服部
(女子200m個人メドレー) 第2位 中2B 木原
(男子200m背泳ぎ) 第3位 中2D 竹内

スキー部

第60回関東高等学校スキー大会出場
高ⅢA 奥坂, 進, 高ⅢB 沖元, 高ⅢC 山本,
高ⅡB 石井, 高ⅡE 笠原, 鶯橋, 高ⅡG 原, 田中,
高ⅠB 白石, 山北, 高ⅠD 森川

令和6年度東京都高等学校総合体育大会
競技種目選考会
大回転競技男子 第1位 高ⅢB 田中
第2位 高ⅢG 鶯橋

バスケットボール部

第9回ブロック中学校バスケットボール選手権大会
男子の部 第3位(都大会進出)

令和6年度調布市中学校バスケットボール大会
男子の部 第3位

東京六大学付属高校男子バスケットボール大会
優勝

第8回武蔵野カップバスケットボール大会(中学男子)
準優勝

2024年度私学1年生親睦バスケットボール大会(中学男子)
準優勝

9ブロック中学校バスケットボール新人大会
男子の部 第6位

第21回明治大学付属三高等学校男子バスケットボール大会
優勝

陸上競技部

東京都高体連陸上競技専門部第5・6支部夏季競技会
兼第48回多摩地区陸上競技選手権大会
女子走幅跳 第7位 高ⅢE 真木

第67回東京私立中学校高校陸上競技選手権大会
(女子・高校・800m) 第7位 高ⅢD 鈴木
(女子・高校・3000m) 第3位 高ⅢG 横森
(男子・中学1年・100m) 第1位 中1A 山田

第76回東京都高等学校新人陸上競技大会
第5・6支部予選会
(男子・5支部・1500m) 第4位 高ⅡC 川口
(女子・5支部・800m) 第6位 高ⅠF 桑原

京王駅伝フェスティバル2024 10km駅伝
(混成の部) 第2位
高ⅢA 山田, 高ⅢF 翁, 高ⅠB 榎本,
高ⅠF 桑原, 中3A堀内

男子硬式テニス部

令和6年度東京都中学校テニス選手権大会
第9ブロック予選
男子シングルスベスト16 中2B 向當(都大会進出)
男子ダブルスベスト8 中2B 向當, 中2D 真壁
(都大会進出)

第41回東京都ジュニアチームテニスチャンピオンシップ
高校生の部 男子Aチーム 3位
小・中学生の部 男子Aチーム 3位

全国私学中学校テニス選手権東京都予選大会
団体戦 第3位
中2B 新井, 中2B 向當, 中2C 長谷川, 中2D 真壁,
中1C 深谷, 中1D 澁谷, 中1D 菅野
シングルス ベスト32 中2B 向當, 中2D 真壁
ダブルス 第3位 中2B 向當, 中2D 真壁

第15回東京理科大学 坊ちゃん科学賞
研究論文コンテスト(高校部門)
優良入賞 高ⅢB 中山

社会科

令和6年度全国中学生人権作文コンテスト
調布市人権擁護委員作文コンテスト審査会賞
中3D 石亀, 中塚, 松木

多摩東人権擁護委員会協議会長賞
中3D 中塚

英語科

実用英語技能検定 1級 高ⅡB 林

第16回IIBC高校生エッセイコンテスト
特別賞(個人) 高ⅢE 湯屋
奨励賞(団体)

オックスフォードピックリード2025
佳作 高ⅢG 村田

校内イングリッシュプレゼンテーション
第1位 高ⅢB 須永
第2位 高ⅢE 山田 第3位 高ⅢD 薛

情報科

第15回いっしょに読もう!新聞コンクール
東京都最優秀賞 高ⅠG 岩崎

第15回トワイズ・アワード『企業インターワーク』部門
KDDI奨励賞「大器晩成」
高ⅡA 細尾, 高ⅡB 熊田, 高ⅡF 相田, 高ⅡG 高松

シチズン時計優秀賞「Watchers」
高ⅡA 仲山, 高ⅡC 上遠野, 高ⅡD 南雲, 高ⅡE 黒河

KDDI優秀賞/ベストプロGRESS賞
「Revelation from The Future」
高ⅡA 呉, 高ⅡC 白岩, 山村, 高ⅡE 小山

中国語

Panda杯全日本青年作文コンクール2024
入選 高ⅢF 田中

鶴澤總明教育振興・奨学金プログラム

第19回全国高校生男子ボディビル選手権大会
170cm超級 第2位 高ⅢG 柳沢

個人

第75回毎日書道展 かなⅠ類
毎日賞 松井教諭

公認会計士試験合格者

2018年度卒 石橋
2021年度卒 井上, 長田, 香月, 高山, 土井, 野平, 南
2022年度卒 津田

競技種目選考会
大回転競技女子 第1位 高ⅢE 笠原
第2位 高ⅡD 山北

競技種目日本大会
大回転競技女子 第6位 高ⅢE 笠原

令和7年度東京都高等学校春期スキー大会
競技会回転競技女子 第6位 高ⅢE 笠原

柔道部

第74回文京区民柔道大会(形のコンクール・投げの形)
銅賞 高ⅢB 長坂, 高ⅡF 納谷

バトミントン部

第64回調布市民スポーツ大会
2・3年女子ダブルス 優勝 中3B 西山, 中3C 原島
2・3年女子ダブルス 準優勝 中3B 中野, 中3E 新子
2・3年女子ダブルス 第3位 中2C 杉山, 中2C 竹内

令和6年度調布・狛江・府中地区バトミントン新人大会
女子シングルス 準優勝 中2C 岡川

サッカー部

東京都中学校サッカー新人大会第9ブロック地区予選大会
準優勝(都大会に出場しベスト8に進出)

書道部

第69回全国競書大会
日本書道美術院賞 高ⅠF 石坂 (中高生部門最高賞・第1位)
毎日新聞社賞 高ⅢA 若林
全日本書道連盟賞 高ⅢB 湯本

ダンス部

第12回全日本小中学生ダンスコンクール東日本大会
銀賞

資格試験・表彰

国語科

第35回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞
都道府県賞 中2A 今井
佳作 高ⅠC 井上

第15回いっしょに読もう!新聞コンクール
東京都入選 中2A 海野

第28回図書館を使った調べる学習コンクール
優秀賞・読売新聞社賞 中1C 望月

第12回大田区図書館を使った調べる学習コンクール
最優秀賞 中1C 望月

The 2024 Jaremage Junior High and High School
Essay Contest
佳作 中1C 望月

数学科

校内計算検定
1級合格 中3A 安藤, 中3C 松井, 孫, 服部, 高柳,
中3D 佐藤, 中3E 竹, 中2C 内田





環境づくりのパートナー **市原企業株式会社**
TOHARA KIGYO

取締役会長 **山崎 敬生** (S32卒) 代表取締役社長 **山崎 秀樹** (S50卒)

〒299-0102 千葉県市原市青柳2-1-23 TEL.0436-21-8100 (代)

祝 総明会総会

明治会

昭和32年卒

祝 第61回総明会総会・懇親会

総明会名誉会長 (昭和36年卒)
 明治大学顧問・名誉教授
 (公財) 鉄道総合技術研究所 会長

向 殿 政 男

TEL. 03-3701-1691 E-mail: masao@g03.itscom.net

総明会 顧問 総明会元会長

弁護士 **佐久間 洋一**
 昭和43年卒 紫讃会

事務所
 〒104-0061 東京都中央区銀座6-12-1 第2寿ビル7階
 電話 03-5568-6646 ファックス 03-5568-6648
 URL <http://www.ginzamiyuki-law.com>

祝 第61回総明会総会・懇親会

総明会顧問 (昭和41年卒・41明友会)
 明治大学 評議員

尾 島 育 四 郎

〒150-0001 渋谷区神宮前5丁目41-6

明高野球部を甲子園に送る会

会長 **山 浦 晟 暉**
 (株)東京フジカラー 代表取締役
 (昭和29年卒)

昭和34年卒 明高野球部OB



丸 丸 丸 株式会社
 代表取締役会長
宮澤 政信

〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀 2-4
 TEL:048-728-0909 FAX:048-728-3909
 ホームページアドレス <http://www.marukyu.com/>

明治高校PTA顧問
 明治白駿会

重 盛 元 也

〒1-161-0003
 荒川区南千住二丁目34-14
 電話 (三三〇二) 六八三〇
 FAX (三三〇七) 三七三七




株式会社 **宮本卯之助商店**
 創業文久元年／太鼓・神輿・祭礼具 製造販売

宮 本 卯 之 助
 (昭和35年卒業)

東京都台東区西浅草2-1-1
 TEL 03-3844-2141
 FAX 03-3844-6730



ホームページQRコード

小坂法律事務所
 弁護士

小坂 嘉 幸

昭和34年卒

〒112-0011
 東京都文京区千石 4-26-1
 TEL. 03-3831-6032
 FAX. 03-3831-6037

昭和37年卒
 新麹町法律事務所

弁護士 **福島啓充**

〒102-0083
 千代田区麹町3-7-4秩父屋ビル5階
 TEL 03-3234-0511
 FAX 03-3234-0510



創業文政二年



(株)ヨシダ

昭和37年卒
吉田 信行

昭和38年卒
増田 利明

平成29年卒
矢島 泰雅

令和4年卒
矢島 太耀

〒124-0023 東京都葛飾区東新小岩 5丁目14番7号
 TEL 03-3694-3751 FAX 03-3694-3753

Ch
CITY・HOUSING

城南地域で40年 15,000件以上の豊富な管理専任実績

株式会社シティ・ハウジング

代表取締役会長 **佐藤 仁** (昭和39年卒 三九会&一一七会)
企画部長 **佐藤 啓太** (平成14年卒)

本社 東京都大田区西糀谷4-28-18 TEL 03-3742-7177
糀谷本店・京急蒲田店・蒲田店・大森駅前店・大森店・大井町店・雪が谷店

(株)グローバル インシュアランス
保険総合コンサルタント

代表取締役

若松 弘昌

(昭和39年卒 明雪会)

〒141-0031 品川区西五反田2-9-7
ドルミ五反田アンメゾン1001号
TEL. 03-3491-0900
FAX. 03-3491-0934

JY 上陽テクノ株式会社

代表取締役

阿部 正行

(昭和40年卒/明優会)

本社：千代田区外神田 6-10-11
TEL 03 (3834) 1329

総務部

深井 重男

(平成2年卒/明愛会)

東京支店：足立区中央本町 4-10-2
TEL 03 (3840) 0261

trattoria
L'INSIEME

昭和38年卒 二年に一会

石野 隆 水泳部OB

03-6264-8253

東京都中央区東日本橋 3-9-2
サンクビル 1F

イタリアン
トラットリア リンシエメ



昭和40年卒 明優会
マンドリンクラブ
JRC

(株)**アドバンス**

代表取締役

大塚 清和

浦安市猫実4-6-28 1101
TEL. 047-355-6633 (代)

昭和四十二年卒
竹川忠芳法律事務所
弁護士
竹川 忠芳
〒100-0003 東京都港区西新橋一丁目三
虎ノ門法曹ビル四〇八
F 電話 〇三三二五〇四一三〇七
A X 〇三三二五〇四一三〇七

スコッチのシングルモルトと
カクテル中心のお店です。

赤坂 オールドタイム

横瀬 昭夫 (昭和42年卒 M41)

東京都港区赤坂5-1-37 SDビル1F TEL. 03-5563-9606

マイケル&マック

鍼灸・中医学・東洋医学・
脈診・漢方・均整法

千葉県市川市北方2-2-10
TEL & FAX 047-336-0763
HP: <http://michaelmac.jp>

鍼醫 **松本 和臣**

昭和44年卒 男坂倶楽部

祝 第61回総明会総会

明治高校
昭和43年卒
同期会

紫 讃 会

肉の田じま

代表取締役社長 **田島 実**

昭和44年卒 男坂倶楽部

〒135-0011 東京都江東区扇橋 1-4-1 Tel. 03-3647-2984 Fax. 03-3699-7229

3階 すき焼き・しゃぶしゃぶ・ステーキ Tel. 03-3699-5529 営業時間: 17~22時 定休日: 月(祭日の場合は翌日)

2階 焼肉 Tel. 03-3699-8929 営業時間: 11~23時 定休日: 月(祭日の場合は翌日)

1階 ミート&デリカ Tel. 03-3649-4419 営業時間: 10~19時 定休日: 日・祝日

f 肉の田じま Q

ネット通販
全国へ配送承ります。

<http://www.nikunotajima.com>

《東陽町店》松阪牛 田じま TEL 03-6666-2129

《カメイドクロック店》肉の田じま TEL 03-5858-6914

昭和四十四年卒
弁護士
田中 等
丸の内南法律事務所
〒100-0005 千代田区丸の内二丁目三
丸の内仲通りビル七二七
TEL 〇三三二二一五一一五
FAX 〇三三二二一六〇四〇



総明会 顧問
昭和44年卒 男坂倶楽部

ミートショップセキヤ

株式会社関谷商店

代表取締役社長 **関谷 芳久**

<http://www.1129sekiya.com>

足立区西新井栄町3-8-5 TEL. 03-3886-3318 FAX. 03-3886-5803



みず しん
中華料理 **水新菜館**

寺田 規行

(昭和43年卒 紫讃会)

東京都台東区浅草橋2-1-1

TEL 03-3861-0577

花や鉢物のお届けします。

昭和45年卒

株式会社
ポトマックガーデン

代表取締役

平田 幸彦

〒107-0052

東京都港区赤坂7-8-13

TEL 03-3589-0687

FAX 03-3583-9423



より良き住まいのために

ワイシー企画 株式会社

建物のリフォーム・
新築の設計・施工

〒359-0007 埼玉県所沢市北岩岡263-1

TEL. 04-2990-5111 FAX. 04-2990-5005

e-mail: yutaka0912@ah.wakwak.com

代表取締役会長

藁谷 豊

昭和44年卒

男坂倶楽部

白山 喫茶
ペガサス

後藤義明 S45
フェンシング部

祝 第61回総明会総会

昭和45年卒

獅子の会

【獅子の会 ホームページをご覧ください】

<http://www.44nokai.com/>

夫婦二人でサービス精神と
元気を売りにしています。

蛇の目寿司

昭和45年卒 獅子の会
硬式野球部

河田 勇

東京都中央区東日本橋3-10-13

TEL 03-3661-8536

株式会社

ライトハウス・コミュニケーションズ

代表取締役

齊藤 公義

k-saito@lighthousecom.co.jp

昭和46年卒「明潮会」

〒135-0042

東京都江東区木場3-10-7-1101

TEL 03-3641-5986 H.P. 090-3332-8807

Mail: k.sight@lighthousecom.co.jp



堀 眞壽

(昭和46年卒)

株式会社 インタープランニング

〒135-0003 東京都江東区猿江 1-2-9

TEL: 03-5600-3388

<http://www.winwinstyle.com>

昭和46年卒

(株)ハナワトランスポート

代表取締役社長

塙 直樹

中央区日本橋箱崎町12-2



お城 森八

銘菓

大粒栗入り最中

大粒栗入り饅頭

(株)森八本舗

HP: morihati.co.jp

〒130-0002 東京都墨田区業平1-3-6

TEL: 03-3622-0006 FAX: 03-3622-8584

祝 第61回 総明会 総会

昭和46年卒

明潮会

白雲なびく・紫紺魂

株式会社 山口商店

代表取締役 山口 隆
(昭和48年卒)

高エネルギー
加速器研究機構 山口孝明
(平成26年卒)

〒143-0016

東京都大田区大森北1-17-2

TEL 03-3761-4838

古庄一夫税理士事務所

四七四七同志酔会

古庄一夫

(昭和47年卒/吹奏楽班)

東京都墨田区菊川2-5-12

菊川ジョイタワー301号

TEL: 03-3635-7070

FAX: 03-3635-7081

kazuo.f.ao.2003@fancy.ocn.ne.jp

昭和47年卒

五木田・三浦法律事務所
銀座オフィス

弁護士

三浦 雅生

〒104-0061

中央区銀座5-4-3 対鶴館8階

TEL 03-6826-1222

建築設計監理

有限会社 日生建築設計事務所

代表取締役

一級建築士

戸張 毅

(四七四七同志酔会)

〒170-0002

東京都豊島区巣鴨三丁目5番18号

TEL (03) 5907-6030

FAX (03) 5907-6033

E-mail: nao.111@themis.ocn.ne.jp

浅草の隠れた名店
スペシャルヒレカツサンド

KING'S TABLE
キングステーブル

昭和48年卒 波の会 剣道部OB

大澤 保男

TEL. 03-5825-4129

東京都台東区浅草 5-71-9



炭遊酒菜
旅籠 (はたご)

新宿で一番美味しい炭火鶏焼きのお店
大小7個の個室完備。新宿駅西口徒歩3分

東京都新宿区西新宿1-23-1 かどやホテルB1F TEL. 03-3344-3144

竹川観光株式会社
竹川 茂(昭和47年卒)

株式会社
レストラン・ピガール
明大1号店

ケータリング・パーティー
各種お弁当承ります。

〒182-0033
東京都調布市富士見町4-23-25
明治大学付属明治高等学校・中学校内
TEL. 03-5858-9909
担当総括支配人 山口剛志

祝 第61回総明会 総会

波の会

昭和48年卒 卒業生一同

代表者 富永 栄之進
副代表 板橋 純三郎
評議員 海老根 一介

尾崎 幸平
雨海 重明

祝 第61回総明会 総会・懇親会

49年卒 翼明会

翼明会役員一同

(株)カントー・エステート
不動産賃貸業・管理業

宮下 守正

昭和49年卒 翼明会

東京都荒川区西尾久1-20-12
M2ビル1階

TEL. 03-3894-8161
FAX. 03-3894-3682

PEP-MATES inc. HP-URL www.pep-mates.com

オリジナル!!

ネクタイ・クラブタイ、**30**本から製作致します!

デザインは弊社にて無料で提案します。イメージとなる紋章・カラーをメールまたはFAXでお送りください。
専門のデザイナーがイメージを作り上げます。デザイン確定後、本数をお知らせいただければお見積りをします。

〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町14番10号
TEL 03-3663-8827 FAX 03-3663-8828 info@pep-mates.com
代表取締役 大前実之(昭和49年卒・翼明会)

お車のトータルサービス

代表取締役 **服部 憲一**
(昭和50年卒明紫会)

(株)服部自動車钣金工業

〒179-0073
東京都練馬区田柄5-22-20
TEL 03-3990-8541
FAX 03-3998-0177
E-mail: ken@hattori-auto.com



MEIJI
UNIVERSITY

明治大学

駿台会計人倶楽部

— 会員募集 —

会長 岩田 俊一 (昭和49年卒 翼明会)
tiwata@silver.plala.or.jp

〒113-0034 東京都文京区湯島4丁目6番11号 TEL 03-3815-1272(代)
湯島ハイタウン A棟502号 FAX 03-3815-1404

ターカム保険企画有限会社
有限会社エヌエスモーターサービス

昭和49年卒
翼明会

竹澤 啓

TEL 03-3675-9955 携帯 090-3200-6139

明治高等学校
昭和49年卒
翼明会

醍醐 敦

醍醐 会 計 事 務 所

047-355-9301

祝 第61回総明会 総会・懇親会

昭和50年卒

明 紫 会

吉武孝生税理士事務所
昭和五十年卒 明紫会

〒121-0813 東京都足立区竹の塚六九一七
オークビル四〇一
TEL 〇三・五八五一・五二二八
FAX 〇三・五八五一・五二二九
E-mail: t.y@tax-yoshitake.com



ハワイアンダイニング&バー
マハロア

窪寺弘匡(昭和50年卒 明紫会)

東京都中野区新井1-23-21 プルメリア1F
TEL. 03-5345-5086



割烹 魚きく

亀井利一

(昭和50年卒 明紫会)
山岳部OB

Tel. 03-3386-6128
東京都中野区沼袋3-26-12

祝 第61回 総明会総会・懇親会

中華麺工場

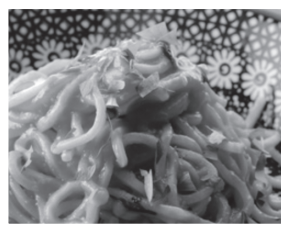
株式会社 浅草開化楼

昭和50年 明紫会 坂上 進

〒111-0041 東京都台東区元浅草4-8-4
Tel 03-3844-0637 Fax 03-3841-4551



公式 X
(旧Twitter)



表参道・南青山のイタリアン有名店より
高級生バスタご用命

DIANA

ダイアナ株式会社

代表取締役会長 高橋郁夫
(昭和50年卒 明紫会)

www.dianashoes.com

モップ清掃用品・集会用テント・カバー
平シート・袋物から大型テント倉庫まで

株式会社 岡 仁

代表取締役 岡本雅仁

昭和51年卒 明々会

〒106-0047

東京都港区南麻布2-4-12

TEL: 03-3451-3671

工場: 栃木県大田原市

ふくもく

独自の製法で旨みを加え、工夫に工夫を重ね、
精魂込めて作り上げた旨塩と醤油



株式会社アーバンコア

〒134-0083 東京都江戸川区中葛西5-29-11

TEL.03-6808-3176 FAX.03-6808-3177

E-mail: info@urban-core.jp

https://www.rokusuke-honpo.com

代表取締役

衣笠 学

(昭和50年卒・明紫会)

祝 第61回 総明会総会・懇親会

明々会

昭和51年卒

厨房のアメニティを創造する
津守興業株式会社

代表取締役 津守 徹
(昭和51年卒 明々会)

〒332-0001

埼玉県川口市朝日5-5-22

TEL 048-222-6187

FAX 048-222-8584

E-mail: tsumori@luck.ocn.ne.jp

銀座線 外苑前駅すぐ
豆菓子・おかきの店
青山但馬屋

太田垣 政紀

(昭和51年卒 明々会)

〒107-0061

東京都港区北青山2-7-11

TEL.03-3401-2843

www.aoyama-tajimaya.co.jp

祝 第61回総明会 総会・懇親会

男子校根性組

昭和52年卒

http://dankon52.web.fc2.com

題字: 小嶋真作書

〒177-0033
FAX 〇三・五八五一・五二二八
TEL 〇三・五八五一・五二二九
E-mail: t.y@tax-yoshitake.com

吉田 博

代表取締役

株式会社 エヌエフ・ヴィレッジ

総合不動産業

昭和五十二年卒 明々会 バスケ部

練馬 高野台

ネーチャーズフォーレストグループ

代表 横山 茂樹 (昭和52年卒男子校根性組)

本店 東京都練馬区高野台1丁目7番3号NFプラザ3-210
TEL 03-3996-0612 FAX 03-3996-0630
http://www.neritaka.net/ E-mail: nfsy@opal.familie.ne.jp

株式会社 大西静商店

取扱商品:貸事務所・パーティーグッズ

大西静士郎

男子校根性組(昭和52年卒)

〒101-0032
千代田区岩本町2-7-13 内田ビル3F
TEL. 03-3866-6097
FAX. 03-3866-6098
http://www.rakuten.co.jp/osparty/

パートナーズ総合事務所

司法書士 菅原 誠
行政書士

(S52年卒 男子校根性組)

〒110-0008

東京都台東区池之端1-1-1

池之端ビル8階

TEL. 03-3835-8041

FAX. 03-3835-8042

E-mail: ZVC00312@nifty.ne.jp

志村 和哉

明誠会

昭和54年卒

Wako Real Estate Investment Co., Ltd.

和光アールイーアイ株式会社

代表取締役

熊澤正幸

昭和54年卒 バレー部

〒102-0072

千代田区飯田橋4-1-11 六洲社ビル

TEL.03-3512-0750

FAX.03-3512-0753

http://www.wako-rei.co.jp/

昭和54年卒

明誠会

(株)朝倉鋳物

代表取締役

朝倉一寿

昭和53年卒 マンドリン部OB

弁護士 高木 茂

銀座木挽町法律事務所

〒104-0045 東京都中央区築地4-2-11
新橋演舞場別館4F

TEL. 03-6228-4487 FAX. 03-6228-4489

https://kobikilaw.jp

米田税務会計事務所

昭和53年卒(バスケット部)

税理士 米田晴彦

〒130-0026

墨田区両国2-17-3

(両国高橋ビル3F)

TEL 03-3631-8878

FAX 03-3632-3346

E-Mail: yonetakaikai@tkcnf.or.jp



行政書士法人
税理士法人

つね ずみ
常住事務所

☎03-3905-6981

〒115-0055 東京都北区赤羽西1-5-1-606

アビレ・赤羽アボード1ビル内 FAX: 03-5963-7430

E-mail: yutaka@tokyo.email.ne.jp

代表社員 常住 豊 (昭和54年卒 明誠会)

日本行政書士会連合会 名誉会長/東京都行政書士会 名誉会長/公益社団法人成年後見支援センター ヒルフェ 名誉理事長

祝 第61回総明会 総会・懇親会



暮らしの衣料 まつざわ
株式会社

調布松沢屋

代表取締役

松澤和昌

(昭和54年卒明誠会)

〒182-0026

東京都調布市小島町1-3-4-12

TEL 042-482-2634

昭和54年卒同期会

壹伍会

SINCE 1980

吉田 雅博

埼玉県川口市

愛三電機株式会社

代表取締役
公認会計士

河合 洋

昭和54年卒 明誠会

〒101-0021

東京都千代田区外神田1-12-3

TEL. 03-3253-3611(代表)

https://www.aisan.co.jp

矢ノ目忠税理士事務所

昭和54年卒 明誠会

〒135-0048

東京都江東区門前仲町

2-2-16 えとりビル3F

TEL 03-5639-7761

FAX 03-5639-7762

E-Mail: yanome@yanome.jp

電話 〇三三六三二一三八五六
東京都墨田区両国二一十七一三

代表取締役
昭和五十四年卒 明誠会
岩佐浩之

有限会社 兩國あんこあら本舗

兩國 國技堂



手打ち
如月 徳

如月 徳 (きさらぎとく)

昭和52年卒 男子校根性組

石黒 理樹

TEL 03-3801-9001 荒川区荒川7-26-9



渡辺 裕之
紫魂会

総明開発株式会社

昭和57年卒 明魂会
硬式野球部OB会

代表取締役

染谷 貴男

〒340-0022

草加市瀬崎1-9-1 谷塚コーナ102号

TEL 048-960-0606 FAX 048-960-0805

有限会社 新星興業

星本 慎児

昭和54年卒(明誠会)

応援指導班OB

千葉県鎌ヶ谷市軽井沢2097-3

TEL 047-446-7312

OB・OG 活動報告

ACTIVITY REPORT 2025

毎年恒例で各学年の皆さまから寄稿を頂戴し、近況報告をお聞かせいただいておりますが、今回は幹事学年のテーマにちなんだ思い出の先生やエピソードなどについても触れていただきました。

めいらくかい 1956年卒 佐藤 健一
明楽会 昭和31年卒

第61回総明会開催、おめでとう御座います。

我々明楽会(昭和31年卒)も発会以来60年有余経ちました。

今年で米寿を迎え、今般仲間の御厚意により浅草「やっこ」にて、盛大に同期会が行われました。仲間も大分疲れ果て終期高齢者の仲間入りをしましたが、20数名の有志が参加されました。総明会役員のお力添えがあり、新旧の思い出話に花が咲き、懐かしく昔を振り返り、とても楽しい一夜を過ごしました。

駿河台から調布へと引越され昔を振り返り若き学生生活に花が咲き、我々の孫みたいな諸氏と会話が出来き、楽しませていただきました。新旧の時代の違いも味わい、改めて深い思いに浸りました。後輩の諸氏のご協力に感謝する次第です。

88歳という節目に体調が優れなく参加できなかった方々にも米寿の記念品を贈りました。



閉会の時間を迎えても話が弾み、最後は久しぶりの校歌を斉唱して、終会となりました。同期の方々には末永く元気で居てほしいものです。

来期も同期会の開催を予定しておりますが、是非一人でも多くの方々が参加できるよう望んでおります。総明会現役の諸氏にくれぐれも感謝致します。

きゅううかい 1959年卒 秋山 義昭
旧雨会 昭和34年卒

“友情の広場” 旧雨会は85歳の限界に挑戦！

昨年に続いて5月にビアレスタン明治屋「京橋モルチェ」にて開催いたしました。さすがこの歳での開催は、運営する方も出席者も限界と考えて、「旧雨会」も今年で解散も考えていました。旧雨会の運営を司る委員会も過去は7名もいたのですが、現在は3名となり、例年、司会を務める小林さんが当日入院手術の緊急事態。直前に出席者も入院手術2名、親族の葬儀と重なり2名、体調不良1名が出まして参加者は合計23名となりました。まさに限界なのか？

ゲストに、総明会の本年度幹事学年で実行委員長を務めております平成10年卒・紫98俱の古宇田さん(45歳)を招待して、総明会のプレゼンテーションと寄付金の協力もいたしました。懇親会はコース料理と酒はあらゆる飲み物の中から自由に選択飲



み放題ですが、かつての猛者も飲めなくなっております。しかし久しぶりに会う“我々の仲間”は、ゲスト招待でお馴染みの44年卒の栗田さんに写真を撮影してもらったり、近況、持病の話、終活の話などで大いに盛り上がりました。

運営委員会も会員の熱望に負けてこれからも、限界に挑戦いたします。来年は5月16日(土)に開催します。暑い日が続きます。ご自愛ください。

【明治高校昭和34年卒】旧雨会担当窓口 秋山義昭

連絡先：〒164-0011 中野区中央4-42-5

Tel.Fax/03-3382-4187 メールアドレス: aki3583@gmail.com

めいしゅんかい

明駿会 1961年卒 向殿 政男
昭和36年卒**遂に、我々明駿会は、幕を閉じることしました**

私たち昭和36年(1961年)卒の同期は、昭和60年(1985年)にホスト学年を引き受けた時から明駿会を名乗って、二年に一度、集まることを慣例として来ました。明駿会とは、もちろん明治中・高校卒業の駿馬達を意味しています。卒業してから60有余年、全員が80才を過ぎてから、元気な人もおれば、病気の人も居て、全員に声をかけ集まるのはしんどくなってきたの、そろそろ幕を引こうではないかという声が上がりはじめました。そして、2024年1月18日に紫紺館6階の紫紺サロンで、82才を期して、最後の明駿会を開催しました。写真は、その時に最後の写真撮影まで残った人たちの有志の姿です。

明治中・高時代の経験は、人生にとってほんの3年や6年だったかもしれませんが、今になると、非常に長い、そして濃い時間だっ



たことが分かります。高齢者の今になっても、心の故郷として生き残っているからです。恩師を、同期を、そして先輩や後輩を、時おり思い出します。母校というものは、本当にありがたいものです。

「明治は遠くなりけり」という感覚と、「明治はいつも心に残り続けてる」という感覚が入り混じって、これからも生きていくことになるでしょう。お陰様で長生きしている我々は、意を決して明駿会の幕を昨年で引くことにしたのですが、これからも、心ある有志が集まって、時々、色々な集まりを開いていくつもりです。これから総明会とのお付き合いをお願いいたします。

にねんにいっかい
二年に一会1963年卒 服部 紀夫
昭和38年卒**卒業60余年 節目の第40回総会・懇親会開催**

八十路迎えた昨年は第39回総会・懇親会を紫紺館で行い80歳とは思えぬ元気な仲間30名が集まった。(写真)

高度経済成長期に明中、明高で机を並べ過した同期会「二年に一会」。卒業の翌年に第1回総会・懇親会を開催してから会名のとおり2年に1回一度も欠かさず集まっている。21世紀にはいつてからは毎年開催。令和となり後期高齢者の仲間入り、喜寿を迎えたときはコロナ禍の真最中。開催がままならず総会に代えて近況報告を募り、喜寿記念誌を発刊、発送した。

本会は毎回当番幹事を決めて、時、所、趣向を変え続けている半世紀を振り返ると開催ごとのテーマが蘇ってくる。還暦迎え母校近くのウインズ、調布へ移転し旧校舎で恩師による模擬授業で懐かしみ、母校100周年と卒業50年が重なった

年は50名超が集まった。七十路になり清澄庭園大正記念館、第30回記念は横浜・中華街で中国獅子舞が登場、盛り上がった。

それから早10年、今年も節目の第40回を11月に予定しており元気に旧交を温めることだろう。本誌誌上をお借りし末尾に連絡先を掲載した。

最後に『Innovation of MEIJI〜いざ撞かん、時代の暁の鐘〜』のテーマを掲げた幹事学年「紫98俱」の運営の成功祈念し同期会報告とする。

事務局・連絡先 〒135-0005東京都江東区高橋14-20-801 関戸 淳一
TEL/FAX 03-3631-2008 Mobile 090-4390-9355
E-mail sekido-e@amail.plala.or.jp

さんきゅうかい & いいなかい
三九会&一一七会1964年卒 佐藤 仁
昭和39年卒

我、学年は今年80才です。昭和100年の節目、生まれたのも昭和20年終戦の節目の年です。同期会も還暦、古希と節目で必ず開催しておりましたが、77才の喜寿のお祝はコロナの為に残念ながら開催出来ず、今年ようやく80才傘寿の祝いをやることとなりました。喜寿の祝いであれば出席出来たはずの仲間も何人か鬼籍に入ってしまった。39会は39年卒、117会は母校の創立記念日に、ちなんで生徒会本部のOB会がイイナ会と称して卒業以来使用していた名称です。

同期会の39会と生徒会本部OB会117会が合体して「39会&117会」として何年か前から使用するようになりました。

この会報が発送される頃に我学年の「39会&117会」の傘寿の会が開催されているはず。会場は日本橋のレス・トラン東洋の2F、同期の北村君のお店です。常設の会場

が日本橋にあるようなものです。ありがたいです。

明中高で出会って65年以上まだまだ元気になりたいです。人生100年いつまでも元気に集まれば嬉しいです。



2025年6月14日(土)紫紺館にて、M41の同期会が盛大に開催されました。M41の名称は明治高校卒業年度が昭和41年度の同期会という意味で、今は亡き我らの生徒会長結城康郎が名付けた同期会となります。卒業は落第がなければ、昭和42年3月です。今年は昭和でいう100年になりますので、明治高校を卒業して、58年になり半世紀以上が過ぎましたが、我が青春時代の魂はいまも母校明治高校にあります。

M41同期会の皆様は昭和23年及び24年生まれです。今年には77歳の喜寿になり、出席した仲間は長寿で大変めでたいと思いました。同期会で皆とお会いするとそれなりに年齢を感じましたが、歓談する中で高校時代の紅顔の青年のお面影が浮かんで、思い出話で大いに盛り上がり、



時間の経つのも忘れ楽しいひと時を過ごしました。恒例の名校歌「白雲なびく駿河台～」をみんなで3番まで歌い、万歳三唱、応援歌「フレ、フレ明治」で、お開きになりました。また、2年後M41を開催したいと思います。

紫讃会

1968年卒 志村 一夫
昭和43年卒

コロナの影響で休止していた総会を6年ぶりに「銀座アスター御茶ノ水賓館」で開催しました。令和元年に「W35celebration party」と銘打つての古稀のパーティー以来の楽しい会合となりました。

各テーブルともお互いの近況報告に花が咲き、笑顔の絶えないものでした。楽しいことは健康増進にとっても良いと言われています。来年は、喜寿のお祝い会をすることも決まりました。喜寿のお祝い会も、より多くの友が集まり、楽しい酒を酌み交わすことを期待しています。

また、来年は、①明治のスクールカラーの紫、②我々「紫讃会」の紫、③喜寿の祝色の紫と三つの紫が重なる我々にとっては嬉しい年でもあります。ちなみに、明治のスクールカラーの紫は、大正4年校旗を制定するにあたり当時の木下友三郎



校長が、大学の更なる発展を願い、聖徳太子が定めた「冠位十二階制」で最上位の色として位置付けられていた「深紫」を採用。その色が時代とともに、いつしか「紫紺」と称され、校旗と共に明治のスクールカラーとして定着したとのこと。

男坂俱樂部

1969年卒 島根 勇一
昭和44年卒

3年遅れの男坂俱樂部古希の集い

コロナ禍のため、3年遅れの古希の集いを、昨年4月に熱海で開催しました。45名の同期が参加しました。例年都内で総会を開催しておりますが、乾杯の時には、併せて献杯をすることが増えました。減っても増えない同期なのです。既に、卒業時から60名を超える仲間は鬼籍に入っています。

幹事学年の皆さん、ご苦労様です。私たちが幹事学年の時は、総明会総会の会場は、旧明治高等学校・中学校をお借りして開催しました。会場設営は、すべて手づくりだったので大変な思いをしましたが、終わった後の充実感は格別なものでありました。押上の酒屋まで「おお明治」の日本酒を買いに行ったことが、懐かしく思い出されます。

私事で恐縮ですが、昨年3月に結婚50周年で金婚式を迎えました。人生山あり谷ありですが、同期の仲間の中には、再婚、再々婚を経験した者もありますが、男と女のことは、当事者にしかわからないものなのですね。

諸先輩方を前に、大変僭越ですが、これから結婚を前提に交際中(彼女は別ですよ)の後輩諸君に、愛の概念について私見を申し述べます。愛とは、①まずもって相手のことが好きであること。②尊敬できること。③信頼できること。④その人だったら、一緒に死ねること。このうちのどれか一つでも欠けている場合は、愛は成就しません。

昨年末、妻が急逝しました。死因は、喘息発作でした。亡くなる前日は、二人で明治大学アカデミーコモンで開催された、マンドリン倶楽部のクリスマスコンサートを聴きに行き、神保町で夕食をとり、帰宅。翌朝の急変。救急車内で心肺停止。救急救命センターに搬送。人工心臓エクモ装着。その日の夕方に、虹を渡って行ってしまいました。心電図の波形が直線になってしまった直後に、妻の左の目もとに一粒の涙がひかり、すぐに消えていきました。どうか、皆さま方、奥さんを(交際中の方は、恋人を)、大切にしてくださいね。



ししのかい 1970年卒 輪座 克彦 獅子の会 昭和45年卒

老いてなお進まん

『獅子の会』は恵まれている。同期に浴風会病院名誉医院長が目を光らせていてくれる。

時には父のように厳しい言葉で、時に母のように暖かく包み込んでくれる。毎回「飲みすぎ、食べ過ぎ、運動不足」とイエローカードを出してくれる。ありがたい。

健康あっての人生だとしみじみ感じる今日この頃。この前も『獅子の会』約20名が同期の三宅裕司さん率いる『熱海五郎一座』を観劇。いつもながらのテンポの良い芝居にお腹を抱えて大声で笑ったり、ちょっとうるっとしたり。その時ふとある言葉が胸をよぎった。『ああ、今年もまたみんな元気に会えて良かった!』当たり前の事が『加齢』という二文字と共に当たり前ではなくなった今日この頃。観劇のあとはお決まりの銀座ライオン2階での二次会だ。今年は『獅子の会』始まって以来の珍事件が発生いつもお決まりの『飲み放題』を全員一致で辞めた。あの大酒飲みのあいつも、日本酒

好きのあいつも…乾杯と共に早速大声を張り上げ皆の笑いを誘うあいつやあいつ。隅で一人自分の世界を楽しむあいつ。温泉旅行の相談をするあいつ。その隣のあいつは何十年も続いた老舗の喫茶店を店じまいするのだと淡々と話してくれた。やがてお開きの時間となり、皆ほろ酔い気分で帰路に着く。今まで3次会に行くぞと叫んでいたあいつの姿は今年はなかった。ちょっぴり寂しかったが『これでいいんだ』と自分に言い聞かせる自分を見た。

これからもずっと何でもない、でも掛けがえのない時間が続きますように…

老いてなお進まん『獅子の会』



めいちょうかい 1971年卒 西脇 司 明潮会 昭和46年卒

男坂!! なんと勇壮で、ロマンあふれる響きでしょうか。

私は、かつて総明会からいただいた「男坂」のテレホンカード(写真)を、今も大切に保管しています。

昭和27年度生まれの明潮会の皆さん、73歳をお元気で迎えられていることと存じます。

私たちは団塊の世代のすぐ後にあたり、熾烈な同級生間の競争はひと段落。高度経済成長の恩恵を充分に享受し、明高(明大)の校歌を青春の歌、人生の応援歌として胸に刻みました。

明高で鍛えられた精神と体力を礎に、縦社会の中でも柔軟に適応し、「24時間働ける」ビジネス戦士として社会を駆け抜け、豊かさを実感することができました。

これはひとえに、明高の歴史と伝統を築かれた諸先輩方、そして私たちを育て導いてくださった諸先生方のおかげです。明高に対する強い母校愛と恩義を、いま改めて深く感じています。

少しだけ私たちの世代の“弱点”を申し上げれば、若い頃は

塾ではなくジムに通う者が多く、IT分野には些か自信がありません。また、「校則は破るためにある」と先輩に教えられた影響か、コンプライアンス精神は今ひとつ。さらに、雪の日の半裸マラソンや赤トビラ前でのピンタの洗礼などを経験した身には、現代のハラスメントの線引きもなかなか難しいところです。

それでも——「明高に入って本当に良かった」「明高を卒業して本当に良かった」との満足感に包まれながら、人生の後半を楽しんでいます。

皆さん、どうぞ健康に留意し、いつまでもお元気で。

感謝を込めて フレー フレー 明治! フレー フレー 明潮会!



よなよな どうしようかい 1972年卒 戸張 毅 四七四七同志酔会 昭和47年卒

Innovation of MEIJI〜いざ撞かん、時代の暁の鐘〜について

上記テーマ+紫98俱(幹事学年会名)暁の鐘と出会う。世の中は今価値観が変わる、時代の変革期にあると考えています。そのような時代、総明会の幹事学年も時代の過渡期にいるように想います。自分も同じ歳ころ何をしていただろうか、振り返ってみると、務めていた設計事務所の代表就任、また父が経営していた貸しビル会社代表に就任、二つの会社経営をどうしようか、日々四苦八苦して生きていた時でした。そのころに総明会幹事学年の歳を迎え、同期の仲間と毎日総会打ち合わせをしながら、会社の経営も安定したものにしていかなければならなかった時代でした。そんな折、同期の井関税理士には経理面での相談、また同期の仲間からの経営助言もあったりして、現在に至っていることは大変ありがたく感謝して

戸張 毅

七号通り公園トイレ
渋谷区幡ヶ谷2-53-5
共用開始 2021年8月12日
Creator 佐藤カズー

おります。今年の幹事学年の皆さんも節

目の歳、そして時代の節目という二つが重なった分岐点にいるのではないのでしょうか。これからいろいろなことがあるでしょう。しかし逃げも隠れもできない中年期です。現実と向き合い、北島忠治元ラグビー部監督の明治魂「前へ」で乗り越えてみてください。

さて私の趣味は、建物を観ての街歩きです。特に東京の街は本当におもしろい街で、愉しく街歩きができる場所です。その時に撮ったスナップ写真です。



よくめいかい 1974年卒 翼明会 昭和49年卒 佐藤 眞弘

「翼明会」の同期生、集まれ!

早いもので我々昭和49年卒業した仲間達も今年度70歳の「古希」を迎える年になりました。

同期の皆様、お元気でお過ごしでしょうか?

一昨年、明治高校を卒業して50年を迎える年となった時期に、明治大学のリバティタワーの最上階で久しぶりの同期会を行いました。当日は同期会会長の竹澤君や始め、明治高校の教員だった栗野君や則君も参加しなど、総勢40名以上の同期生が集まり、楽しく懇談をしました。高校卒業以来50年ぶりに会った友人もいて、とても懐かしい顔や昔の面影を残した顔などお互いに自己紹介をしないと分からない同期生もありました。また残念な事で、故人となってしまった同期生の情報も聞くことができました。現在、同期の名簿を管理してくれている



竹澤会長には約150名の同期生の消息が分かっている状況です。

今年は、70歳の「古希」を迎えるに当たり、11月1日(土)紫紺館で同期会を開催するという企画をしています。案内の葉書を送りますので、同期の皆様の参加をお待ちしています。

めいしかい 1975年卒 (雅号)石川昇玉 明紫会 昭和50年卒 石川 俊雄

総明会に向けて

私は、中・高・大と書道部に属し、高校では部長をしました。顧問は高木東扇先生で、懐かしい方もいるのではないかと思います。学校ではムーミンという愛称で呼ばれていました。

この写真は、私の所属している団体日本書道美術院で毎年1月に開催されている日書展で今年最高賞であるサンスター国際賞を受賞した時のものです。同期の方々も会場に来て祝っていただきました。大変ありがとうございました。

高校卒業して10年、明治魂で続けて来た事で受賞出来たと思っています。10年前から、書道一本で現在にいたります。書の世界では「かなの部門」に所属していますが「かな」は分からない・読めないなど敬遠されがちでした。しかし昨年の大河ドラマで、平安時代のかな書の話がとりあげられ興味を持たれ

た方が数多くなりました。小さなブームが起きております。

今回のテーマであるイノベーションとは離れているように思われますが、現在外国の方々が古き日本の文化や美意識に惹かれて日本に来ています。私達も、伝統や風習を知る事が大事ではないでしょうか。平安時代からの美意識の一つである「もののあわれ」を大切にしていっていただきたいと思います。

これからも同期の、総明会の会長である山崎秀樹氏を応援すべく、明紫会会員として、大いに盛り上げていこうと思っています。ますますの総明会の発展を願っております。



めいめいかい 1976年卒 明々会 昭和51年卒 萩原 秀紀

「もうすぐ70歳」

毎年恒例の昭和51年卒の同期会「明々会」の総会・懇親会は、7月13日(土)、いつもと同じ上野の中華「蓬莱閣」に29名が集まって開催されました。今年も清水紀夫元校長先生に出席していただき、さらに、井家上哲史現明治高校校長、西東京大会1回戦を勝ち抜いたばかりの山田真也現明治高校野球部監督など同期の豪華メンバーも出席し、大いに盛り上がりました。

明々会のメンバーが高校を卒業して来年は50年になります。再来年には皆70歳以上になり古希を迎えることから、還暦祝いの時と同様に古希の祝いを開催することが全員一致で承認されました。他方、総会の席では同期27名の物故者(死亡が確認できている者だけです)の一覧表が配付され、



懇親会の席の近況報告では物故者の情報や自身の健康問題などが報告されたことから、改めて時の経過と年齢を感じました。それでも、高校卒業後50年近く経ってもこのように顔を合わせ、酒を酌み交わすことができる幸せを実感できたので、来年の明々会総会及び再来年の古希の祝いにはもっと多くのメンバーを集めることを誓い合い、今年も中村光晴君のエールで校歌を斉唱しました(一番だけで終わりました)。

だんしこうこんじょうぐみ 1977年卒
男子校根性組 昭和52年卒 樽見 俊之

「ご縁に感謝」

1977年卒業後、早半世紀を迎えようとしている男子校根性組同級生も血気盛んな明高時代とは違い人並みに初老となりました。昨年10月5日(土)66歳を迎え「緑寿お祝い会」を紫紺館で開催、40名程が集まり楽しい会となりました。次は70歳時に「古希お祝い会」を開催する予定で幹事長の佐野君を中心に役員が企画中です。

さて、6年間の想い出は良き友人との出会い、バスケット部ではしごきのルーズボールに耐え、チームメイトを信じる気持ちを学び、チーター(松枝先生)、小田島先生から悪さをした時に本気で殴られたことかと思えます。お陰様で殴られ強く根性もつき、大学では体育会拳法部で4年間過ごすことが出来ました。

現在は連合駿台会、駿台体育会、体育会拳法部OB・OG会の役員を拝命し、少しでも明治大学のお役に立てるよう全力で取り組んでいます。

昨年、同期の川村君が他界。高校時代は空手を習い(晩年10段)、勉学にも勤しみ明大法学部卒業後、医科大学を卒業し、医師国家試験合格。明治高校卒業生としてはおそらく初めて医者になられた人物だと思います。

私がインドネシア駐在時代の2012年左足首を骨折して日本へ緊急搬送され手術執刀医は川村君であったことも何かのご縁です。手術成功のお蔭で左足首も完治し、明高の同級生と月に1回ほど筑波CCで楽しくゴルフが出来ています。

長年に渡り我々同級生の為、ご尽力されている大西君、樋田君、佐藤大英君には感謝の気持ちで一杯です。心より同期を代表して御礼申し上げます。ありがとうございます。



めいせいかい 1979年卒
明誠会 昭和54年卒 朝倉 一寿

梅雨にもかかわらず、ぬける様な晴天に恵まれた6月14日、明誠会は秋葉原「北海道」にて総会・懇親会を執り行いました。本年は第20回目の開催、加えて会員は65歳という人生の節目を迎えるということで、総会に先立って、明治高校ゆかりの神田明神にて、会員の健康と家内安全の御祈禱をいただきました。

日頃威勢良い会員たちも、由緒ある神域での厳かな儀式に身の引き締まる面持ちでした。

その後、場所を移しての総会・懇親会はどう変わったとしても65歳を迎えるとは思えない元気なものとなりました。特に柔道部のK村君とK須君の『これマジ?』と思わせるようななどつき漫才さながらの近況報告にはやんやの喝采でした。

こんなに年月を経ても、一瞬で和やかな関係に戻れるのも、



明治という学び舎で同じ時を過ごした所以からと、しみじみ感じ入った次第です。

楽しい時間は瞬間に過ぎ、来年の再開を約して校歌が高らかに奏でられました。

めいしょうかい 1981年卒
明翔会 昭和56年卒 寺村 一義

～同期を偲んで～

令和7年6月21日(土)、毎年恒例の明翔会・定期総会&懇親会が秋葉原の「ライオン」で開催された。今年は23名の参加でにぎやかにスタート。まずは司会進行役の山下君からバレー部だった安蒜君の逝去が伝えられ、全員で黙祷を捧げた。彼は明翔会の役員としても一緒に活動してくれていたもので、本当に寂しい気持ちでいっぱいです。

続いて蓬田会長から、今後も懇親会は6月開催にすること、そして今年の11月24日に「総明会」がアカデミーコモンにて開かれるとの連絡がなされた。そのあとに2024年度の活動報告・収支報告、さらに2025年度の活動予定・予算案についての説明があり、すべて承認された。その後は会長の「乾杯!」を合図に懇親会がスタート。



なんと40年ぶりに再会した仲間とも話がはずみ、近況報告、健康状態や親の介護のこと、さらには「孫自慢」まで飛び出して大いに盛り上がった。気づけば3時間があっという間!宴も終盤に差しかったところで、鈴木(望文)元会長の中締め。最後は記念撮影で締めくくりお開きとなった。

明高で共に学んだ仲間が増えることはないけれど、これらでもできる限りみんなで集まる機会を作っていきたい。明翔会の皆さん、これからも毎年「懇親会」をやるので、是非遊びに来てね!

めいこんかい 1982年卒 菊池 正純
明魂会 昭和57年卒

『明魂会』は永遠に不滅です!

「明魂会」では、6月28日(土)に、2年前の還暦の年と同じく明治大学アカデミーコモン1Fの「カフェパンセ」において、令和7年度の総会・懇親会を開催しました。当日は、明魂会会員19名、特別参加の女性2名、そして幹事学年「紫98俱」から岡本ゴルフ委員長、進藤ゴルフ副委員長に参加いただき、総勢23名による、いつもながらに和気藹々とした会となりました。

幹事学年からゴルフ委員が参加していただいたことで、グッズ販売では、「Meiji」マークの入ったゴルフボールの売れ行きが好調だったようです。

この歳になり、ボランティア的な活動を行う団体などから、お誘いを受けることが増えました。その中でも、同窓会はそのボランティア的な色合いが強く、であるからこそ、参加者を維持する

ことに難しさを感じます。毎年、一人でも多くの会員が総会・懇親会に参加して

くれるよう努めているのですが、なかなか効果がありません。

この一年に会員3人が逝去され、また恒例の「近況報告」では、病気に関する話を多く聞くにつけ、まもなく「高齢者」に仲間入りをする会員が、せめて年に1度、元気に顔を合わせ場を維持していけるよう会の運営を継続していきたいと切実に思っています。しばらく参加されていない明魂会会員の皆さん、ぜひ来年は笑顔出し下さい。そして、今年も総明会総会・懇親会が盛会でありますよう祈念しております。



めいわかい 1983年卒 並木 功
明輪会 昭和58年卒

還暦を祝う会

僕ら明輪会の面々も齢を重ね、還暦を迎えることになりました。「60を迎える年には一人でも多くの同級生で集まり、お互いに還暦を祝いたいね」という浅見前会長の思いもあり、昨年1月より準備を開始し、11月16日(土)明治大学紫紺館での開催となりました。

当日参加してくれた63名の皆さん、久しぶりの再会を楽しんでもらえたでしょうか?会話をしているうちにどんどんと学生時代の記憶が戻ってきたのでしょうか。みんなの顔つきが柔和になり、笑い声が多く大きくなっているのを感じることができ、とても嬉しかったです。ちょっと時間が足りなかったですね。

当日は、仕事の都合や距離的な問題等で参加できなかった皆さん、今後も幹事が中心となり集まりを企画しますので、ぜひご参加ください。準備段階で連絡を取り合うことが多くなったことで、



思わぬ副産物も生まれています。同期のゴルフコンペに新たなメンバーが加わったり、部活単位での集まりが増えたりしているので、これからまだまだ「輪」が広がっていくと思います。

そして、この原稿を読んでいる明輪会の皆さんの中にも、参加を躊躇していた方がいると思います。中高時代は皆さんの人生の一部で、消すことはできません。

残念ながら10名もの同期とはもう会えなくなっています。悔やむ前に、この先減ることはあっても増えることはない友に、還暦を迎えた今、もう一度会ってみませんか。

めいしんかい 1984年卒 佐藤 昌彦
明心会 昭和59年卒

令和7年6月21日(土)に還暦記念の同期会を行いました。当日は、12時45分に神田明神に集合し、還暦厄除け祈願で昇殿参拝を行い、一人ひとりが御神酒をいただきお守りを授かりました。神田明神を後にして、懐かしい御茶ノ水丸善書店の前を通り、猿樂町の旧校舎まで、思い出話などをしながら移動しました。旧校舎の見学では、今年3月にご退官された吉田重幸先生もご参加いただき、校舎の内外を見て回りました。参加者が懐かしさや寂しさなどいろいろな思いを抱く企画となりました。

そして、同期会会場の紫紺館6階にある椿山荘の「ラウンジ明治」に移動して、吉田先生と同じく今年3月にご退官された並木啓先生にもご来場いただき、同期会がスタートしました。大山明心会会長の挨拶で始まり、並木先生と吉田先生からのお言葉、平野総明会副会長による乾杯、今年の幹事学年「紫98



俱」からのご挨拶とアピールタイムを経て歓談の時間となりました。楽しい時間はあっという間に過ぎて、参加者の近況報告では予定していた以上の時間がかかってしまいましたが、卒業アルバムのスライドショー、恒例の校歌斉唱と予定の企画をすべて行い、1年後の再開を誓い散会となりました。

とうこんかい 1985年卒 矢澤 徹 闘紺会 昭和60年卒

今年度幹事学年「紫98俱」の皆様、総会・懇親会のご準備に心より感謝申し上げます。11月のアカデミーコモンでの盛会をお祈りいたします。

さて、私たち昭和60年卒「闘紺会」も、コロナ禍により長らく集う機会を失っておりまして。SNSで近況を知ることはできても、やはり直接顔を合わせる喜びには代えられません。今年、昭和100年という節目に、私たちも卒業40周年を迎えました。

10余名ではありましたが7月19日に旧交を温める機会を持てたことを大変うれしく思います。この機会に改めて連絡を取り合い、再び集う場を設け、かつての活気を取り戻したいと願っています。

今年のテーマ「Innovation of MEIJI」は、明治の精神を新たな形で継承する挑戦と受け止めています。還暦を前にし



た今だからこそ、新しいつながりの形を模索し、仲間との絆を、明治の絆を未来へとつなげていきたいと思います。

皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

しんせいき 1986年卒 松本 年一 新世輝 昭和61年卒

今年の新世輝同期会は、7月12日(土)に同期の池田曜君が自ら腕を奮う巣鴨【たけやま】で開催しました。20名が集まり、山田伸夫先生、柴田幹治先生をお迎えして、幹事学年の紫98俱からも2名が参加。冒頭、新世輝の幹事長を長年務め、現在総明会の副会長としても精力的に活動中の土田正昭君が、二期目となる副会長選挙への立候補を満場一致で推奨したことを報告致します。

さて遡ること4月26日(土)、新世輝の名付け親でもある山田伸夫先生傘寿のお祝いを兼ねたヤマダ大感謝祭が明大紫紺館で盛大に開催されました。久しぶりに私も参加して先生にお祝いの言葉を伝えに行くところ、新世輝の同期会は今年も7月2週目の土曜日かい？決まったら教えてくれよと。毎年気に掛けてくださっているお心遣いに、変わらぬ情の深さを感じた

ものです。

卒業して40年経った今でも続く恩師との関係に感謝の念を抱くと共に、こうした絆も一生誇れる財産です。

創立114年の歴史の中で、魅力溢れる恩師達の薫陶を受けてきた、人間力に富んだ多くの卒業生が、縦横の紫紺の絆を織りなす総明会の活動も明高の大きな魅力だと思います。

山田先生、柴田先生、同期の皆さん来年も笑顔で再会しましょう！暫くご無沙汰している同期の皆さんも、気が向いて時間が許せば、是非一献傾けましょう！末筆ながら総明会の盛会と益々の発展を祈念しております。



めいえんかい 1987年卒 岡本 浩一 明猿会 昭和62年卒

8月9日、毎度おなじみ森下「みの家」で明猿会の総会・懇親会、というかただの飲み会が開催されました。店主の永瀬君のお陰でおいしく楽しくラクに開催できるのがステキです。持つべきものは同期、おんぶに抱っこです。今では鍋を焦がすこともなくなりみんな成長しました。参加メンバーが固定されつつあるので、久しぶり！超久しぶり！な同期の参加、心よりお待ちしております。

そんな楽しい宴のなか、突然「活動報告書いて！締め切りは明日！」という明治らしい理不尽な指示が突然。そういえばコイツ会報委員だったな。きつと後輩にも理不尽だったんだろう。

幹事学年になったことがきっかけで再び弾くことになったマンドリン。びっくりするくらい指が動かず慌てて基礎練習からおさらいしたのもいい思い出。紫98俱の田中健雄くんが学生だった



頃を参考にしてみました。あれから11年。おかげで世代を超え、クラブを超え、学校を超え、いろいろな人との出会いがありました。まさか総明会にひょっこり顔出したらこうなるとは。今年も懇親会会場の片隅でBGM演奏をさせていただきます。宴に彩を添えられるよう頑張ります、幹事学年が。

しょうわぼしんのかい 1988年卒 昭和63年卒 石田 昌義
昭和戊辰乃会

今年の昭和戊辰乃会の同期会は7月12日に山田先生、柴田先生をお迎えし、久しぶりに御茶ノ水で開催しました。両先生とも新世輝の先輩方の同期会に続いてご参加していただきました。ご無理をお願いして申し訳ありませんでした。みんなと会うと、久しぶりなんて関係無く、時間が一気に逆戻り、眼の前には昭和の頃のままでの仲間がいて、やっぱり会うのが一番。

卒業して約40年、駅も校舎も随分変わってしまったが、御茶ノ水に来ると「帰って来た」という気分になる。街のDNAは脈々と受け継がれていると感じる。これから、そうあって欲しい。

SNS発達のおかげで随分と集まりやすくなった。ホント、便利になったもんだ。戦争とかでは無く、こっちの方のテクノロジーの進歩は大歓迎。数年後に迫った還暦に向けてもっと繋がって行こう。



次の戊辰は何年?とChatに聞けば2048年とすぐに答えが返ってくる。いったいどんな時代になっているのだろうか。ただ、テクノロジーがどんなに発達しても結局は人との繋がりが大切。残念ながら、もう会うことが叶わない仲間もいますが、次の戊辰の年にもみんなが集まれるよう、お互い元気でいよう!

へいせいはいげんかい 1989年卒 平成元年卒 横島 高之
平成改元会

男坂の階段、その段数を覚えているだろうか? 1000回以上は登ったはずの、思い出深いこの場所。何度も数えた記憶があるのに、今はもう思い出せない。同期に尋ねても、やはり曖昧な答えが返ってくる。だからこそ、私たちはもう一度その数を確かめるため、この場所に集まることにした。

もともとレトロな雰囲気だった校舎は、時を経てさらに古めかしい姿に変わっていた。フェンスは藁の厚い衣に覆われ、その下の腐食した金属はほとんど見えない。かすかに覗くのは、剥がれ落ちた塗料の跡や、風雨にさらされ歪んだ網目だけ。歴史の重みがそのまま形になったかのような学び舎は、その朽ちた姿さえも愛おしい青春の象徴だった。

私たちは一歩ずつ、重みのある石階段を踏みしめ、数え始めた。頭上には、すっかり錆びついた渡り廊下が、時の流れを刻むように横たわる。一段、また一段と登るたびに、昭和から平成に



変わったあの日の思い出が鮮やかに蘇る。我が青春の猿楽町校舎。そのすべてをまぶたに、そして全身に焼き付け、まもなく終焉を迎えるその姿を心ゆくまで見届けたのだった。
 ※この様子は、こちらのQRコードより御覧下さい。



めいあいikai 1990年卒 平成2年卒 今泉 仁
明愛会

明愛会は、幹事学年前年の2016年から続けていた同期会をコロナ影響から一昨年に再開し20名が参加、昨年は9月1日に開催し25名が参加しました。

更に昨年立ち上がった明愛会ゴルフ部では数回のコンペを開催。また総明会活動では、5月の「チャリティーゴルフ」に8名が参加。相変わらず何人かが集まれば、一緒に過ごした当時の逸話ばかり、同じ話を何度聞いても飽きない程充実したMEIJI生活を送っていたと、つくづく感じております。

明愛会メンバーは今年54歳。中高時代に担任をして頂いた先生はとうとう学校には居なくなってしまいました…。



そろそろガタが来る身体にムチを打ち、同期のお店へ呑みに行き、大学ラグビー・野球観戦をしたりと、やっぱりMEIJIが好きな私達は、明愛会の仲間・先輩後輩を何より大事にしております。頑張れ、紫98俱!!

めいじんかい 1991年卒 山口 一郎 明仁会 平成3年卒

この場をお借りして、個人的な悩みを打ち明けても宜しいでしょうか…。

幹事学年を務め上げてから7年。その間、ずっと気がかり、いや正確に言うと後ろめたく感じていることがあります…。

我ら明仁会は中学1年時に全員、国語の授業にて「やあ!僕だよ、イボガエルだよ!」で始まる物語(もはやタイトルも覚えていない)の音読を、安部先生の手で録音されておりまして。そのカセットテープ(現役生は何のことだかわかるまい)実に約30本を退任時に「持つてのがめんどくせえ」と安部先生から、私がまるっと託された次第です。早くデータ化せねばと思いつつ、我が家の隅こに鎮座したまま早や7年。

毎年、同期会に参加しても、放置している音源の話が出やしないかと内心ドキドキしている始末。先週土曜日22時にかかってきた加藤からの電話もそれに違いない、(´ ｀)ハハハ(←いや、気



になっただけなら折り返せ、俺)。なので、ここで宣言します。来年の同期会にはデータ化して持って行くよー!

さて閑話休題。さる7月19日(土)明仁会の名付け親である恩師・安部先生と幹事学年紫98俱のお2人もお迎えして、今年の明仁会が無事、執り行われました。久しぶりに会う同期はみな元気、忘年会の開催を約束して解散となりました。末筆となりましたが、幹事学年をつとめて下さった紫98俱の皆さまに心から感謝いたします。その活動が実を結んでいます様に。

かい かん どうすこいじゅく 1992年卒 小畑 啓 快汗、どうすこい塾 平成4年卒

ども、「快汗、親方」こと小畑です。いまやAIがコパイロットとしてコードを書いてくれる時代。私も数年前は半分AIに書いてもらった原稿を載せました。そんな時代ではありますが、やっぱり仲間達と会って笑うことの価値は変わりません。

総会やイベントで仲間達と再会し、「あの頃と変わらないな」と笑い合えることこそ、何よりのイノベーション。その瞬間こそが、次の時代へ鐘を撞く力になるのだと信じています。

あれ、なんか真面目だね?じゃあiPhoneのOCR機能がアップグレードした記念に、僕たちが高校3年生の時に紫紺祭で企画した有志おぼけやしきの紹介文でも掲載しておきましょう。

有志おぼけやしき-明治高校伝統のお化け屋敷だよーん。(又の名を陣幕親方)今年の文化祭に来た人は超ラッキーだね。だって史上最強の〇〇学年の〇〇(2025年、コンプラにより自粛)

ばっかが集まって、お化け屋敷を企画してるんだもんね。

それに今年は何とあの〇田裕二をゲストとして招いているんだ。いやーラッキー、ラッキー、ラッキー池田。てことでみんな来てくれ!!(入場制限なし&無料)

これ読んで腹抱えて笑ってた当時の僕たち、素敵だよな? やっぱ良い鐘撞いてるね!



めいしょうかい 1993年卒 横尾 克久 明鐘会 平成5年卒

本年のテーマ「Innovation of MEIJI 〜いざ撞かん、時代の暁の鐘〜」にあたり、投稿の機会をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。幹事学年の皆様、大変お疲れ様です。

明鐘会は変わらず、よく交流(=飲み会)しています。近年は地域や趣味ごとの集まりがさらに増え、今年は沖縄・京都・野球会も新たに誕生しました。昨年は名門・大袋会を紹介しましたが、今年はそれに並ぶ古豪・三鷹会をご紹介します。

開催回数4回を超えるメジャー飲み会です。会場は、三鷹南口から徒歩3分の老舗角打ち居酒屋。角打ちとは思えないほどの絶品おつまみと日本酒を片手に、近況報告や懐かしい昔話に花を咲かせています。

……とはいえ、会話の内容や誰がいたかなどは、酔っ払いすぎてほとんど覚えていません(笑)。そこで今回は、年末に「前回の振り返り」から再スタート予定です。



皆さん、ぜひ三鷹会へお越しください!(もちろん、他の集まりも大歓迎です。)

卒業32年、51歳を迎える今年。改めて一堂に会する集まりや旅行なども、企画・開催できたらと考えています。健康に気をつけつつ、近いうちに必ずお会いしましょう。

りゅうめいかい

隆明会

1994年卒

平成6年卒

三保谷 建介

早いもので幹事学年から四年の月日が流れました。同窓生の皆様、お元気ですか?明治高校平成6年卒「隆明会」はこの一年も活発な交流が続きました。

昨年9月には馬肉料理の名店「みの家」にて同期会を開催。山田先生や幹事学年の後輩も交え、和やかな雰囲気の中で旧交を温めました。美味しい料理に舌鼓を打ちながら、学生時代の思い出話に花が咲き、あっという間のひとときでした。

秋には母校で開催された紫紺祭や総明会総会・懇親会へ参加。成長を続ける母校の姿に触れると共に、長年お世話になった並木先生、吉田先生、駒形先生のご退任に際し、感謝の気持ちをお伝えすることができました。

そして特筆すべきは活発化した部活動です。ゴルフコンペは定期的に開催され、毎回多くのメンバーが参加し和気あい



あいとコースを回っています。さらに、今年4月には「隆明会登山部」が発足。奥武蔵の二子山、奥多摩の高水三山と、既に2度の山行を実施。学生時代を思い出すような雰囲気の中で、自然を満喫しながら親睦を深めています。

この会報が発行された頃には神保町のイタリアン「クオーレドーロ」にて同期会も開催され、山田先生の傘寿を盛大にお祝いしていることでしょう。隆明会は現在は主にグループLINEで連絡を取り合っています。詳細は三保谷(090-8740-5574)までお気軽にお問い合わせください。

しえんかい

紫縁会

1995年卒

平成7年卒

千賀 貴生

3年前に幹事学年を務めさせていただきました紫縁会です。

この活動を通じて、中学・高校時代にはそれほど親しくお付き合いしなかった同期とも、頻繁に会い、お酒を酌み交わす機会が増えました。

年数回の評議員会とその後の懇親会、総明会のゴルフコンペ、紫縁会の同期会、そして総明会の総会・懇親会など、思い浮かべるだけでも、たくさんあります。これらは、幹事学年としての活動を全うできたことで得られた大きな財産です。

今年の同期会は2025年6月7日に、明治大学リパティタワー23階にて開催しました。昨年と同様に、中3~高Ⅲまでの4年間を受け持っていたいただいた尾崎義夫先生、松田孝志先生にご出席いただき、20名近い同期も参加し、大いに盛り上がりました。

最後に、『Innovation of MEIJI~いざ撞かん、時代の暁



の鐘~』というテーマを掲げて活動されている紫98俱のみなさん、幹事学年の活動お疲れ様です。仕事とプライベートの両立以外に、もう一つ、とても大きな負担が増えたかと思いますが、これを乗り越えたときには、また新しい景色が見えるはずですよ。ゴールまであともう少しですので、次の明哲会にしっかりとバトンタッチできるよう、最後まで頑張ってください。

しせいかい

紫誠会

1996年卒

平成8年卒

関川 明生

三村具永君から林直幸君を経て私にバトンを託され、OB活動報告を書くことになりました。同期の皆様は覚えていらっしゃるか、関川という一風変わった同級生が居たことを。それにしても不惑を越え知命が近付く歳になって、90人を超える中学・高校の同期達と再び交流を持つことになろうとは。総明会とは本当に面白い仕組みです。高校卒業以来、久しぶりに会う面々がほとんどなのに、顔を見れば昔の関係に戻れるのです。もし予定が合えば同期会に顔を出してください。今年は10月10日に銀座東興楼で先生方もお呼びして開かれます。お店は張春穎君の御実家ですよ。

さて幹事学年から『Innovation of MEIJI』というお題を頂いて、どうすりゃいいのさと締め切りをしっかりと過ぎた後に唸っています。イノベーション、革新、新機軸、、ここは一つ恩師の吉田重幸先生が定年を迎えられたので(写真は慰労会後の一コマです)、人生の転機というネタで行くことにいたします。実は私、



昨年に結婚いたしました。切っ掛けは何と同期の嶋田史郎君の勧めです。彼からの後押しで婚活をスタート。無事にお相手を見つけ、鈴木正人先生に報告したら「遅っ!」との祝福をいただき、結婚式には下地邦幸君と高橋潤士君が駆けつけてくれました。正に明治による私の刷新です。自身の革新を求める同期の皆さん、その手始めに同期会に是非お越しください。

しょうんかい 1997年卒 小谷 健志 紫雲会 平成9年卒

一生に一度、総明会の幹事学年という大役を終えたばかりの自分たちですが、昨年は高校3年間学年主任を務めていただき「紫雲会」の名付け親でもある山田伸夫先生に大変お世話になり、何度もお会いする機会を得た1年でした。20名を超える幹事メンバーが年間を通じて踏ん張り、懇親会当日は目標に掲げていた50名の同志が集まって、式典を盛会に導いてくれました。

人生も折り返し地点。これからは今まで以上に学生時代の横のつながりを大事にしたいし、こうして時折集まりたいねと。そういつて別れて半年が経過した同期会。集まったのは12名とちょっぴり寂しい人数でしたが、今年は中学3年間学年主任を務められた安部友巳先生にお越しいただきました。仁義を重んじ、色のついた眼鏡の奥は眼光鋭く、扇子片手に緊張感ある授業をされた国語教師。「もしかして、先生は本物のや○



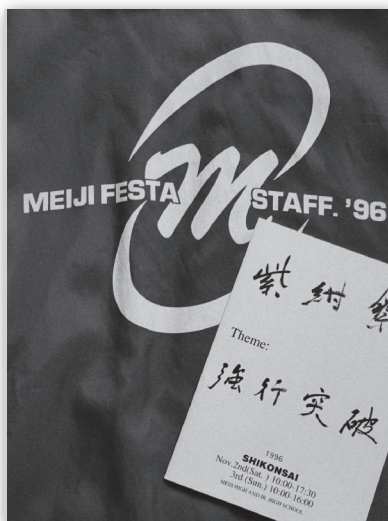
ぎなのかも」と思ったことは一度や二度ではありませんが、愛ある教えは、子どもたちに生き方を授けてくださっていたんだと、この年になればわかります。

「書いた方が書かないよりも…」。答案用紙の欄外に記された先生のあの言葉を胸に、何事も最後まであきらめない強い信念を持つ心根が備わりました。

しくはっく 1998年卒 平田 健 紫98俱 平成10年卒

2019年末から流行した新型コロナウィルス感染症は、感染拡大防止ため多くの人が集う活動に制限がかかり、人と人とのつながりが人間の根源であることを再認識させられました。総明会や紫紺祭も中止を余儀なくされた時期がありましたが、私が文化祭準備委員長だった1996年もまた、O157による集団食中毒が猛威を振った年でした。着任早々課題となったのは、露店を開催するのかどうか。

教員から中止を求められる中で、ひねり出したのが“モスバーガー誘致作戦”。食品を扱うプロに委託すれば…ということで、露店委員長と当時三省堂書店の並びにあっ



た店舗をアポなしで訪れ、店長と直接交渉しました。諸条件は整ったのですが、中・高校生の文化祭として相応しくないという判断により、幻の計画となってしまいました。この年は集団食中毒以外に様々な問題があり、とにかく紫紺祭を乗り切ろうと決めたテーマが「強行突破」。露店も文化祭準備委員会や運動部が知恵を出し合い、開催に漕ぎつきました。目の前の課題を解決するため、「高校生だから」といった制約はなく、自由な発想で実践してみる。

そして、それを許容してくれたのが駿河台校舎だったと、懐の深さを今になって感じます。

きょうがくかい 2011年卒 三浦 直人 共楽会 平成23年卒

歴史学研究者という職業柄、時折自分の中高時代についても、歴史学的な考察を試みたくてしまうのですが、今回少し面白いことが分かりましたので、コラム的に紹介いたします。私たちの高校時代、校長は金子光男先生でした。金子先生の口癖と言えば、式のたびに唱えられていた「パッと寝、パッと起き、パッと勉強!」。印象的な言葉ですが、もともとこれは、獨協中高校長であった哲学者・天野貞祐(京都帝大教授、文相などを歴任。写真左、「近代日本人の肖像」より)の言葉であると、金子先生ご自身が『過程』第59号のインタビューで述べられています。

今回調べて分かったのは、その天野もまた、別の人物からこの言葉を受け継いだ可能性があるということです。羽仁もと子(写真右、「近代日本人の肖像」より)によって創設された自由学園が、「パット起き」「パット勉強」「パット寝」を、重要なスローガンにしてきたことは、よく知られています。天野は早くから自由学園と関



わりを持ち、のちには同学園の理事長にも就任しました。恐らく天野は、自由学園で聞いたこのフレーズを獨協にも持ち込み、それをお聞きになった金子先生が、私たちに「パッと寝、パッと起き、パッと勉強!」と繰り返し伝えて下さったのでしょう。

2023年卒 令和5年卒 香阪 成洸

卒業から2年が経ち、僕たちも20歳を迎えました。気づけば皆の髪型も黒髪の落ち着いたスタイルへと変わり始め、就職活動の始まりと学生生活の終わりが近づいていることを実感しています。

中学・高校・大学とエスカレーター式で歩んできた僕にとって、その先に広がる社会人としての未来は、まだ漠然としていて、「これが大人になるということなのか」と感じさせられます。

法的には18歳で大人となりますが、校庭で元気に裸でドッジボールをして先生に叱られていたあの頃を思い返すと、今の自分とのギャップに思わず笑ってしまいます。

そんな節目の年を記念して、明治記念館にて「二十歳の集い」を開催いたしました。



当日は生徒212名、先生方6名(釣部先生、内田先生、山川先生、田中先生、石黒先生、青山先生)にご参加いただき、総勢218名の大きな会となりました。出席率は8割近くにのぼり、改めて「明明の繋がり」の強さを感じました。

会の中では、お酒で少しご機嫌な人や、喫煙所に向かう姿もちらほら見られ、まさに“20歳らしい”一夜だったと思います。

これからもこの繋がりを大切に、それぞれの未来へと進んでいけたらと思います。

写真は、当日明治記念館の中庭で撮影した集合写真です。

応援指導班OBOG会 副会長 柳澤 菜摘 平成27年卒

本年度の幹事学年「紫98俱」の皆さまにおかれましては、第61回総明会活動にご尽力いただき、誠にありがとうございます。

さて、我々応援団 OBOG会は昨年、会の名称を「OBOG会」へと変更いたしました。現役の応援指導班員をはじめ、新OBOG会員も女性が増えており、今後女性役員を中心にOBOG活動活性化に取り組む予定です。

2028年には応援指導班創部80周年、チアリーディング部創部20周年を迎えます。会の活性化による発展と永続的な活動に向けて、若年層へのOBOG会に対する興味関心を増やせるよう、広報活動と現役支援活動に取り組んでいきます。

また、6月14日に開催した2025年度OBOG総会では、昨年度の活動報告と、今年度の活動計画について共有した後、勢いそのままに懇親会(本年もご多忙の中、先生方のご臨席を賜りました!)を開催しました。

また、新OG会員にも参加いただき、同じ経験を積んだ仲間同士、世代を超えて楽しい話に花を咲かせました。

来たる本年の総明会総会・懇親会においても、多くの皆さまとともに、校舎は違えど、同じ学舎で学んだ仲間同士、声高らかに校歌を斉唱できることを心より楽しみにしております。

放送班OBOG会 宮田 健 昭和57年卒

放送班OBOG会のうち、故田村晴彦先生に教えを受けた有志(田村会)で、毎年命日の5月17日に近い5月第3土曜日、田町駅前のコーヒー店前に16時集合と決め、先生の眠る港区三田の長久寺へ墓参りと懇親会を行っています。

すっかりコロナ前の状態に戻った5月17日に田町駅前に集まったのは、今年度幹事学年の岡本君を含め11名。最近少しだけ下の世代にも広がり嬉しい流れです。また、お一人で午前中に墓参されたとの連絡もいただきましたので、墓参は12名となりました。毎年のメンバーに、久しぶりのメンバー、幹事学年と、一年ぶりでも、初対面でも同窓会らしく一瞬で打ち解け賑やかに話の花を咲かせながら、お寺に向かいます。手際良くお墓を綺麗にし、それぞれに先生への報告や想いを胸にお参りました。

墓参のあとは恒例の懇親会へ。長年通り抜けていた長久

寺の裏に広がる再開発地区は通行できなくなり、少し回り道をしながら麻布十番へ。再開発が完成する

令和10年にはどんな景色がみられるのか楽しみです。懇親会も楽しい時間はあっという間。毎年この楽しい時間を作っていただける故 田村先生に感謝をしつつお開きとなりました。

次回は令和8年5月16日(土)です。放送班OBOGに限らず、田村先生にゆかりのある方には気軽に参加して頂ければと思います。遠慮なくご連絡いや、いきなりのご参加でも結構です。お待ちしております!



けんしんかい 剣道部OB・OG会 見心会 中山 将 平成3年卒

令和4年から剣道部の監督として指導をしている中山です。今年は五大学付属剣道大会という、昭和31年から続いている付属高校同士の剣道大会の会場に、この調布の明大明治高等学校の施設が選ばれています。

各付属高校の持ち回りで行われている行事ですが、どの付属学校も同じくらいのレベルとはいかず、剣道部員が少ない学校は選手が足りないなど参加するのに苦労している学校もあれば、1軍2軍と選手層の厚い学校もあります。

今回当番校である明大明治は、ぶっちぎりに強者ではないですが、選手がそろわないほどの弱者でもない位置で参加しています。大会の歴史は古くコロナ禍の中断を除けば剣道部所属の学生は、私も参加しましたし先輩方も参加してきました。

この大会を通して、選手の学生達が試合という勝負事ではあるので勝った、負けたはあるものの良くも悪くも結果を残し、思い出の1ページとして、そして来年以降も続く大会の伝統、歴史の足跡として刻まれることになります。

この年になって、また母校の学生と剣道を通じて接触し感じるのは、某コ○ン君や某サ○エさんのような事件やイベントが多い永遠の学生生活ではなく、学生は3年間もしくは6年間で(たまに増える方もいますが)濃密な学生生活を過ごしていることを強く感じます。

私にはすっかり忘れてしまった、心を燃やすほどの熱量で1年が過ぎる学生生活の思い出のお手伝いができればと、これからも部活の指導に当たっていきたいと思います。

めいせつかい スキー部OB・OG会 明雪会 事務局長 鍋木 祥介 昭和63年卒

スキー部は1951年に山岳部より独立して創部され、今年で75年目を迎えます。私がスキー部に入学してから40年余、当時を振り返りたいと思います。

初めての合宿は、今でも忘れられない立山での夏合宿でした。その頃は部員が少なく、中学生は中1が2名、中2が1名の計3名。高校生も10名程でした。その中で参加した中学生は私のみ。とても心細かったことを覚えています。立山は今でこそ観光名所となり交通の便も良くなっていますが、当時は上野発の夜行列車に乗り、トローリーバスやケーブルカーを乗り継いで約12時間かかりました。宅配便など無かったので、スキー用具等の全ての荷物を自分で背負い、最寄りの室堂駅から山小屋まで約1時間の道程を歩くのは、かなりの苦行でした。同じ初参加の高一の先輩方や顧問の水落先生に励まされてようやく着いた時は「今すぐ帰りたい」と思ったのでした。厳しいことも多くありま

したが、和気藹藹とした雰囲気もあって、初心者の方でも卒業まで続けることができました。

現在のスキー部は部員が40名、合宿にはマイクロバスで行っています。立山合宿は地球温暖化の影響で万年雪が無くなり、行えなくなりました。今は丸沼高原のサマーゲレンデで練習しています。変わらないのは、合宿や大会に差し入れを持って顔を出してくださる、後輩思いの先輩方が多いことです。中高一緒に活動し、宿泊が多く、競技以外でも共に過ごす時間の長いスキー部だからこその絆だと思います。毎年11月にOB・OG会を開催しており、昨年は大学生をはじめ、若い世代が多く参加してくれました。今年も皆さまの参加を心よりお待ちしております。

最後になりますが、スキー部が永く存続していますのは総明会のご支援よるところも大きく、幹事および幹事学年の方々には厚く感謝申し上げます。

めいすいかい 水泳部OB・OG会 明水会 中田隆太郎 平成15年卒

7月の中旬に明水会(水泳部OB会)に久しぶり(5~6年ぶりかなと)に出席しました。その席で、若い出席者より「先日の保護者会で水泳部の廃部が正式に決まった」旨のお知らせがありました。体調を押してまで、その報告に来てくれたそうで大役お疲れ様と労うと同時に、歴史が1つ終わる瞬間がきたんだなと思いました。少なくとも私が在籍していた時代の明大明治では部活を1つ作るのに初期部員と顧問の先生を探して、生徒総会で可決とならなければなりません。在学中に鉄道部を創設しようとして2回否決となっている(のちに鉄道研究部として後輩が創設)経験もあって、関係のみなさまの“部活動を終了する”という決断も苦しかったものと理解しています。同時に部活動を進めるにあたり先生方には頭があがりません。週3回プールに行って、顧問の先生の挨拶をきくというのがすごいことなんだと感じました。

私たち明水会は水泳部のOB会として、改めて今後も先輩後輩分け隔てなく話をしていければと思っています。陸上での運動や球技が苦手な人でもできる協議が水泳です。そして、今日も会社の仕事が終わるとスポーツクラブのプールへ向かいます。



陸上競技部OB・OG会 櫻井 勝也 平成7年卒

今年度幹事学年の皆さまにおかれましては、日々の活動、誠にありがとうございます。陸上競技部OBOGは、20～40代のメンバー中心の構成のため、駿河台・調布世代の融合を目指し、昨年も11月9日(土)新宿界隈で集いました。昨春ご勇退された恩師上小牧先生をお招きし、当時の部活を通じたエピソードや近況報告、今後の集まりをどうしていこうか?など、語り合いました。

H24年卒の山田さんを新たにお迎えし、金井さん(H8年卒)、小寺さん(H9年卒)、松石さん(H12年卒)、河野さん(H14年卒)というメンバーで、最大の関心事だった教師生活をご勇退された先生が何をなさっているのか?で話は大変盛り上がりしました。

なんと!You Tuberとして活動をされ、「鞠本(まりもと)先生の数学レッツゴー」で定期配信をされて、難解な数学を親しみやすくすべく、日々現役生のために、活動をされているようです。数学で苦しむ現役世代を家庭内にもつOBOGの皆さま、是非ご覧ください

さいませ(笑)。

今年夏開催

の東京世界陸上も楽しみですが、次回の集まりは、次の夏季ロス五輪がある2028年が終わった秋頃に開催したいと先生とも事務局とも話していた矢先、、、西の遠方より、30年前の陸上競技部創部の立役者の先輩が久しぶりに東京にお戻りになるという知らせを受けて、“お帰りなさい会”という名の集いを急ぎ開こうという話になり、鋭利作戦本部が画策中です。交流の場の広がりは、どんどん行いたいので、同期や身近な先輩後輩を、是非LINEの集いなどにご招待いただけましたらと存じます。

【実行委員会・問合せ先】

櫻井 勝也(平成7年卒) sakuraikatsuya22@gmail.com

瀧澤 我路(平成14年卒) g8121229t@gmail.com

吉田 遥(平成23年卒) kinawowow@gmail.com



歴史研究部OBOG会 山下 征隆 昭和63年卒

歴史研究部ではOBOG会を昨年11月に開催しました。前回(令和5年6月開催)OBOG会は、史上初の試みとして二部制を導入しましたが、大変好評を博したため、今回も同様に会を二部に分け、第一部は前顧問を務められた栗野先生を始め、現役生による研究発表を中心に、第二部は懇親会とし、新旧OBOG達が親交を温める場としました。

歴史研究部としての特色が色濃く出ているOBOG会を執り行うことが出来ました。発表された現役生の研究内容はどれも質が高く、我々が現役生の頃、研究成果と称して発表していた内容と、比較にならない素晴らしい内容でした。その後の質疑応答についても活発にやりとりが交わされ、盛会のうちに閉幕しました。

次回、歴史研究部OBOG会は、来年6月に開催する事が決定しました。現役顧問の田中先生とも相談を行い、次回も二部制のOBOG会とし、第一部は現役生を中心に研究発表を

行う方針でいま

す。回を重ねる

ごとに、研究発表の内容も一段と洗練されてきており、現役生にとって、発表の場という機会が、新しい刺激となってくれることを願っています。

活発な歴史研究部ですがOBの津島聖也君に続いて、中西美結さん(現在大学1年生:新OBOG)の論文が、由緒ある歴史研究図書「歴史研究」第723号(戎光祥出版)に掲載されました。これは現役生たちの研究成果がいかにハイレベルであるかということを実に物語っています。

歴史研究部OBOG会は、今後も現役生による活発な部活が継続されることを心から願うと共に、我々OBOG会が先輩、後輩間の橋渡しができる存在としてあり続けられるよう今後も活動してまいります。



硬式野球部OB・OG会 明球会

めいきゅうかい

会長 原 健治 昭和60年卒

本年4月より明球会の会長を拝命いたしましたS60年卒の原健治です。総明会の皆様からは、明治高校野球部への多大なご支援、熱い声援を送っていただき、日頃より感謝申し上げます。微力ながら明球会の更なる発展に努めてまいります所存です。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、明治高校野球部は、学業との両立を図りながら山田眞也監督(S51年卒)のもと、60年ぶりの悲願の甲子園出場に向けて、一丸となって日々鍛錬に励んでいます。山田監督はMeijiのユニフォームが辿ってきた歴史と伝統を選手たちに継承し、そこに込められた思いを伝授しているそうです。



明球会は、厳しい環境下でがんばっている選手たちへの支援を第一に考え、あらゆるネットワークを駆使し、効果的なサポートの仕方を模索していきます。今年度は本大会に向けてOBOGから寄付を募り金属バット他、野球用具を寄贈し激励しました。また、明球会のホームページを開設し、試合速報や現況報告など、会員向けに情報を発信し話題を提供する準備を進めています。

現役選手たちは諸先輩方が築いてこられた明治の伝統を背負い、ユニフォームに恥じないよう戦いに挑んでいます。彼らの勇姿に、チャンスの時は「ねらいうち」、点数が入れば「紫紺の歌」を歌い響かせ、勝った時には校歌を高らかに斉唱する。たくさんの応援でスタンドが一体となれば、選手たちにとっては、これ以上ない励みになり百人力となるはず。野球部OBOGに限らず、是非、皆さんも母校の応援に球場に足を運んでいただき、後輩へ更なる熱い声援を送ってください。

フェンシング部OB・OG会 中村 信也 昭和45年卒

<第2幕の終焉>

フェンシング部(現在:有志フェンシング同好会)の活動を昭和26年から昭和61年までの36年を第1幕とすると、平成27年から令和7年までの11年は第2幕であったが、残念ながら令和7年を持って第2幕の終焉を迎えることになった。

振り返ると有志フェンシング同好会は、フェンシング部をもう一度母校に復活させたいとのOB達の強い思いを学校側に懇願したところ、全面的なご理解とご尽力をいただき、平成27年に設立が承認されて以降、剣道場をお借りする形での練習を重ね、これまでに関東大会出場3回(女子団体)の成績を上げてきた。

そのような中、令和5年に「有志フェンシング同好会は、現在の高校1年生が卒業する段階で廃止」との学校方針が出され、新規会員の募集ができない状態になっていた。その間、OB・OG会は学校側に活動存続のお願いするも方針変更には至らなかった。

そして今年5月、関東大会や高校総体の東京都予選が開催され、高校3年生2名が出場したが残念ながら予選で敗退し、有志フェンシング同好会としての公式戦が終了したことにより、有志フェンシング同好会の活動はほぼ終了した。

OB・OG会幹事の一人として部復活の夢には至らず忤怩たる思いであるが、この間の顧問のご指導、OB・OG会のご支援と学生達の奮闘に感謝申し上げたい。



令和6年度OB会



5月の公式戦後、顧問・OB・学生

バスケットボール部OB・OG会 並木 功 昭和58年卒

現在、バスケットボール部は約90名の生徒が活躍し、校内でも5本の指に入る部員数を抱えています。OB・OG会では、OB・OG会員の親睦を深めると同時に、現役の発展のために寄与することを会則で掲げています。

親睦の機会

●OB・OG会総会(秋)

各種議案を検討するほか、世代を超えた縦の関係を深めながら会食。

●バスケットボールトーナメント(秋)

OB・OG同士でトーナメント、その後、OB・OG選抜vs現役の試合も実施。

●ゴルフコンペ(秋～冬)

久しく開催していませんでしたが、近く再開予定。

●40歳以上のOB・OGチームによる区民大会への参加(夏)

現役時代には一緒にプレーすることのなかったメンバーでバスケットボールを満喫。

現役への支援

●春夏の合宿に参加

毎回、多くのOB・OGが参加し、現役を心身ともにサポート。

●各種大会での応援

会員限定のFacebookを通じ試合の予定、結果を周知。毎回、OB・OGが応援に駆けつけてくれています。

現役への資金的支援をはじめOB・OG会の活動は、会員からの年会費で運営されています。OB・OG各位のご協力をお願い申し上げます。



地理研究部OB・OG会 地理研究部副顧問 和田 康喜 平成9年卒

2023年11月のOB・OG総会にて実施が決まった、「おとなの巡検」の第1回および第2回を開催しました。2回ともOB・OGおよび現役部員が参加し、親睦を深めることができました。

第1回は2024年6月1日に開催し、浅草橋を発着地として、神田川・日本橋川・隅田川・小名木川をチャーターした船で周遊しました。参加者は総勢22名で、日本橋川で最も古い石橋である常磐橋(1877年架橋)、橋の裏側に関東大震災の焼け跡が残る日本橋、隅田川に架かる多様な震災復興橋、ゼロメートル地帯での水運を可能にするための水位調節施設である扇橋閘門(パナマ運河のような設備)など、見どころ豊富なクルーズになりました。

第2回は2024年10月26日に明治高校特別教室4で開催しました。OBの鈴木敏男先輩・古屋光右先輩・應手健先輩によるご講演で、実際に経験された様々な旅行をご紹介いただきました。その1つであるJR近郊区間の「大回り」の旅は、気楽に実行できる旅行として、特に丁寧な解説を頂戴しました。途中下車や経

路の重複は認められないものの、JRの初乗り運賃で、大都市近郊区間の車窓を楽しむことができる上、改札内であれば駅弁などの各地の名産を購入することもできます。現役部員にも、興味深いルートを検討し、実行してもらえればと思った次第です。

今年も、「おとなの巡検」を開催いたします。企画の情報は前回総会時に作成しましたグループLINEにて共有しております。ご興味のある方は、yasunobu@meiji.ac.jp までお問い合わせください。

末筆となりますが、ご講演を賜りました古屋光右先輩は、2024年12月20日にご逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



バレー部OB・OG会

事務局長 樋田 哲次 昭和52年卒

昨年9月17日に恒例のバレーボール大会&総会が、明治中学・高校で開催され、OB・OG約40人が参加しました。特に石田会長より年長のOBが4人も参加して、そのうちの3人は、調布の校舎に初めて訪問し、設備の素晴らしさや人数の多い現役に圧倒されたようです。

今回も、現役対OB・OGのゲームを行い、いずれも手汗握る接戦となり、改めてバレーボールの楽しさをかみしめたことと思います。今年のバレーボール大会と総会も9月15日に予定しています。皆様がこの会報を読まれるのが1か月後の10月ですから、その様子は、来年の会報に掲載いたします。

最後にお伝えしたいことがあります。今年6月3日に、当OB・OG会の理事であった安蒜(あんびる)信夫(のぶお)君が病魔に勝てず、62歳の生涯を閉じられました。現役時代は、サブキャプテン、センターとして活躍し、コート決勝進出の原動力と

なり、OB・OG会の理事となつてからは、現役の試合に駆けつけ応援し、現役父兄とも気軽に話されていた明るい性格の持ち主でした。通夜、葬儀には、バレー部の先輩後輩はもとより、明高同期の皆様も多数集まり、最期のお別れをしました。ご冥福をお祈りいたします。



図書班OB・OG会

大西 静士郎 昭和52年卒

避難所としての図書班

私は1971(昭和46)年に明治中学に入学しました。当時の明治中学・明治高校の雰囲気は、小学校を卒業したばかりの12歳の男子にとっては、殺伐としていて「怖い」という印象でした。当時は、小学校は子どもの世界、中学校からは大人の世界と思っていたので、疑問に思っていませんでした。その後、50歳を過ぎた頃ですが、高校から入学してきた同期から、「(当時は)いじめがひどかった」とか「こんないじめがひどい学校だとは思わなかった」という話を異口同音に聞かされました。同期会の案内を出しても、中学校の6年間は自分にとって思い出したくない時代なのでもう案内を送らないでくれ、と言う者もいました。私たちの学年だけかどうかはわかりませんが、あの殺伐とした雰囲気の原因の一つが「いじめ」だったのでしょうか。

そのような中で、当時はひ弱な男子で、どちらかと言えばいじめられる側に入りそうな私が6年間生き残ることができたのは、振り返ってみると、「避難所としての図書班」があったからではなかったかと思えます。

昼休みになるとすぐに図書館内にあった班室に行き、そこで先輩たちと一緒に弁当を食べた後は、貸出等の図書館業務の手伝いを行っていました。危険な時間帯である昼休みを教室で過ごさなくても済んだことは、私にとって大きかったと言えます。

先輩方も、数少ない中1が辞められては困るので優しく接して下さったこともあり、居心地が良かった記憶があります。もちろん当時の「あるある」で、正座をして先輩の説教を聞く、ということも多々ありましたが、この年齢になってみると、ありがたいと思えるような教えもあります。

先輩方から知的刺激を受けたことも多々ありました。中1の時の読書会で葉山嘉樹の「セメント樽の中の手紙」を読みました。かなり経ってから、葉山嘉樹がプロレタリア作家としては「蟹工船」の小林多喜二より評価が高いことを知り、当時の先輩方の選書眼は凄かったのだな、と感服しています。

今でも中学高校の6年間は懐かしく思い出せ、明治や総明会が好きなのは、図書班の存在が大きかったと思うとともに、忘れられない多くの先輩方に感謝しています。

吹奏楽班OB・OG会

福田哲史 平成7年卒

8月10日(日)、第65回東京都高等学校吹奏楽コンクールA組の部において、吹奏楽班は鈴木正人先生の指揮の元、自由曲にC.D.ビュッシー作曲の「海」を演奏致しました。演奏は非常に素晴らしくオーケストラの原曲を非常に忠実に再現しておりましたが、結果は惜しくも銀賞で次の都大会本選に進むことはできませんでした。

続いて8月13日(水)には当班OGの野田みなみ先生の指揮の元、C組の部に出場し「スコットランド民謡ファンタジー」を演奏致し

ました。こちらは中学生や初心者を中心としたメンバーが一生懸命練習を重ね、こちらも素晴らしい演奏でしたが惜しくも銀賞となりましたが、双方の演奏ともに「明治サウンド」を十二分に感じ取る事が出来ました。

鈴木先生の引退が徐々に近づいてまいりまして、昔と変わらぬダイナミックなタクト捌きを見られるのもコンクールにおいてはあと2回、定期演奏会ではあと3回となつてまいりました。特に定期演奏会ではポップスステージを設けており、クラシック音楽に詳しくない方でも楽しめる内容となっておりますので是非、ご来場頂きますようお願い致します。

さて、肝心のOB・OG会につきましてですが、現在引継ぎ作業を進めており、共学世代を中心とした体制へ一気に若返りを考えております。本稿をお読み頂いている若いOB・OGの方々、是非これからのOB・OG会に力を貸して下さいようお願い致します。



生徒会本部 平成有志の会 森平 伊織 平成7年卒

こんにちは。紫縁会の生徒会本部OB森平です。「生徒会本部 平成有志の会」は、紫縁会での総明会幹事学年の活動を通じて、紫縁会の中の生徒会本部OB櫻井さん、春日さん、清水さん、森平で、生徒会本部で集まりたいねということで、先輩・後輩方にお声がけし、スタートした会です。

平成2年度卒の先輩から平成12年度卒の後輩に参加していただいています。

今年の秋こそは、かなわなかった我々世代付近で生徒会本部の顧問や生徒指導主任として、また顧問を退任されてからも合宿に帯同していただくなど大変お世話になった元副校長の田中徹太郎先生をお招きして、今年の秋冬に会合を開催予定したいと思っています。

平成有志の会にご参加いただける方は、下記にご連絡いただければと思います。

櫻井 勝也 (平成4年度、平成5年度生徒会本部会計長)
sakuraikatsuya22@gmail.com

森平 伊織 (平成4年度生徒会本部総長、平成5年度生徒会長)
kui.morihira@gmail.com

ヤマダ大感謝祭 藤田 央 平成7年卒

4月26日(土)、明治大学紫紺館6階ラウンジ明治にて、「ヤマダ大感謝祭～傘寿の舞～」を開催しました。恩師山田伸夫先生の教え子たちが集い、先生に感謝の気持ちを伝える会も、今回で第12回を迎えました。さらに、先生は今年数えて80歳を迎えられますので、「傘寿の舞」というテーマも設けさせていただきました。70代から40代といった幅広い年齢層の38名の教え子たちが集った「ヤマダ大感謝祭～傘寿の舞～」、今年はどんなヤマダ節が飛び出すでしょうか。

総明会山崎秀樹会長の乾杯のご発声に始まり、場にお酒が馴染んできたところで、昭和63年安川先輩からの花東贈呈、そして山田先生からのご挨拶です。山田先生は、山崎会長が高校2年時から明治高校・中学校で教鞭を執られ始め、女子生徒第一期生が卒業を迎える2011年に定年退職を迎えられました。なお、現在も神奈川県内の高校で教鞭を執ら



れているとのことで、いつまでもエネルギーで若さ溢れる秘訣は、こんなところにあるのかもしれませんが。

さて、来年も4月の第4土曜日にヤマダ大感謝祭を開催予定です。山田先生に負けないよう、皆様もパワー充実してお集まりください。

来年度のヤマダ大感謝祭の予定はこのページに掲載されている広告をご高覧ください。(2026年4月25日(土)開催予定)



ヤマダ大感謝祭

4月の第4土曜日

第13回は令和8年(2026年)4月25日(土)開催予定
楽しい企画を用意して皆様のお越しをお待ちしております。

■お問合せ先 藤田 央(平成7年卒 紫縁会) fujita.hss@gmail.com

明治大学付属明治高等学校 応援団OBOG会

祝
第61回
総明会総会
懇親会

会長：鈴木 重之 (昭和60年卒)	柳澤 菜摘 (平成27年卒)
副会長：米持 貴史 (昭和63年卒)	
幹事長：三谷 知弘 (平成6年卒)	藤田 央 (平成7年卒)
副幹事長：熊木 達朗 (平成6年卒)	関 佑宇斗 (平成20年卒)
良峰 太郎 (平成8年卒)	岸 洋次郎 (平成21年卒)
加藤 敦 (平成21年卒)	外山 潤 (平成26年卒)
高島周太郎 (平成22年卒)	
佐藤 三祐 (平成28年卒)	
監査：渡辺 裕之 (昭和55年卒)	莊司 康夫 (平成4年卒)

かばん・袋物 製造卸し

(ビーボニー)

株式会社 **B-BONNY**

代表取締役 **馬場栄一** (昭和55年卒 紫魂会)

本社/〒273-0012 千葉県鎌ケ谷市東中沢4-8-53
工場/〒273-0012 千葉県鎌ケ谷市東中沢4-8-50

Tel & Fax 047-412-3495
mobile 090-8440-7002
E-mail b-bonny@gf7.so-net.ne.jp

紙一般包装資材企画販売
近代紙業株式会社

〒340-0834 埼玉県八潮市大曽根1420
<http://www.kind-ai.co.jp>

昭和57年卒 明魂会
地理研究部OB会

小林 謙之
KENJI KOBAYASHI
k-koba@kind-ai.co.jp

株式会社東新理興

板硝子・理化学製品は齊木におまかせ!

昭和56年卒 明翔会

代表取締役 **齊木 麻州男**

〒113-0033 東京都文京区本郷2-26-4
TEL.03-3814-7565 FAX.03-3818-0208

税理士法人 **狩野会計社**

www.kanou-kaikeisya.com

代表社員 税理士

狩野 智雄

(昭和56年卒)

〒114-0002 東京都北区王子2丁目28番2号 Tel:03-3913-1964 Fax:03-3912-0835
Mobile:090-1534-8396 E-mail:tkanou@kanou-kaikeisya.com

総合建設・不動産

正宗産業株式会社

代表取締役 **市川 洋治**
(56年卒)

〒210-0834
神奈川県川崎市川崎区大島5-8-13
電話 044-244-1054(代)

ヤマダ社会保険労務士事務所

社会保険労務士

山田 覚

Satoru Yamada

昭和56年卒 明翔会

包装資材販売・梱包請負
寺村梱包株式会社

代表取締役 **寺村一義**
(昭和56年卒 明翔会 バスケットOB)

東京都台東区東上野 1-22-1
TEL 03-5826-4601
FAX 03-5826-4660
<https://teramura-pack.jimdofree.com/>

ガッツリ
全国に**G系ラーメン**旋風!



埼玉・岩崎食品工業 発!

G系極太麺

祝 第61回総明会総会・懇親会

明 魂 会

昭和57年卒

<http://www.meikonkai.com>

日本料理 手打ちそば
浅草 十和田
富永龍司

昭和58年卒 明輪会

台東区浅草1-13-4
TEL. 03-3841-7375

祝 第61回 総明会 総会・懇親会

明 輪 会

昭和 58 年 卒

このころのわ

昭和58年卒 明輪会

青木経営法務事務所

行政書士

青木 正美

東京都江戸川区南篠崎町4-25-4
TEL 03-3676-5420
FAX 03-3676-5421

祝 第61回総明会 総会・懇親会

明 心 会

昭和59年卒

白木そば

文京区本郷1-33-7
TEL:03-3812-4488

井上直樹

(昭和58年卒 明輪会)
都営三田線 水道橋駅
A6出口 徒歩5分

伊東電機株式会社

電設資材、設備機器、
家電製品の卸販売

<http://www.ito-den.com>

代表取締役 **伊東 稔** (昭和59年卒 バスケット部OB)

本社所在地 〒132-0031 東京都江戸川区松島3-34-21
TEL. 03-3654-9241 FAX. 03-3654-9256

松戸営業所 〒270-0025 千葉県松戸市中和倉159-2

関連会社:千葉伊東電機(株) 〒273-0002 千葉県船橋市東船橋5-26-1



有限会社 共栄化工
一般装飾品 鍍金

代表取締役

岩井 孝之

昭和59年卒 明心会 バレー部OB
〒131-0041 墨田区八広2-18-13
TEL.03-3617-6050
FAX.03-3618-0711
<http://www.kyoueikakou.com>

昭和59年卒

大山 輝芳

明心会
硬式野球部OB

株式会社 横濱屋

宮沢孝昌

(S59年卒・水泳部)

珈琲亭 **ルアン**

〒143-0016
東京都大田区大森北1-36-2
Tel: 03-3761-6077

平日 7:00~18:30(オーダーストップ)
土・日・祭日 7:30~17:30(オーダーストップ)

水・木曜定休

お蔭様で
130年



丸喜株式会社

河原 勢朗

昭和 59 年 卒 明心会

台東区浅草
6-4-12

s-kawahara@maruki-net.com



昭和59年卒

エグゼクティブ ライフプランナー

渡 邊 文 夫

ソニー生命保険株式会社
新宿ライフプランナーセンター第9支社
東京都渋谷区代々木2-1-5
JR南新宿ビル 15F

電話 03-5358-1709
携帯 090-4376-6146

一般社団法人 **相続を考える会**

あなたの相続に関するお悩み、
弁護士・税理士らの専門家が一緒に考えます。

昭和59年卒 税理士 **田中重幸**
〒279-0002 浦安市北栄3-30-23-205
TEL 047-712-8170

S H I M A M U R A D E S I G N

ホームページ・パンフレット制作

お客様のイメージをカタチにします。ご相談下さい。

グラフィックデザイナー 昭和59年卒 明心会

島 村 武 史

〒171-0052 豊島区南長崎3-31-14
TEL.03-5996-6828
E-mail:take-457@netjoy.ne.jp

<http://www.shimamura-design.com/>

☎ ロゴマークデザイン

☎ 商品カタログ制作

☎ 広告・会社案内制作

その他いろいろ制作します。

有限会社忠建商事

不動産の有効活用 売買・賃貸・企画・管理

昭和59年卒 明心会 硬式野球部OB

代表取締役

渡辺 憲一

〒224-0001

横浜市都筑区中川7-17-18

TEL. 045-911-3011

<http://www.chukenshouji.com/>

ふぐ ちゃんこ

焼き鳥

鳥 義

氏家 喜久雄

(昭和61年卒 新世輝)

墨田区石原 3-17-3

TEL. 03-3626-4466

創業400年

森田質店

昭和60年卒 闘魂会

森田 聡一

著作権契約書なら
駒沢公園行政書士事務所

行政書士 大塚 大

(昭和60年卒 闘紺会)

柔道部OB

大田区上池台1-34-2

www.ootsuka-houmu.com

祝 第61回 総明会 総会・懇親会

昭和60年卒 闘紺会

鈴木税務会計事務所

税理士 鈴木 博史

(昭和61年卒 新世輝)

〒133-0053

江戸川区北篠崎2-19-12

TEL 03-3670-1430

FAX 03-3676-1440



和食 玉 寿司

東京シティ信用金庫新小岩支店前・定休日木曜日、第三水曜日

☎ 3 6 9 1 - 3 0 8 8

手束 謙一 (昭和60年卒 闘紺会)

1234 ABCレストラン
1001 日本 太郎

2021/12/5
白衣 上

2L

(株)ABCリネンサプライ

12346578

耐洗ラベル シェアNo.1


貼ればできる!

闘魂会 昭和60年卒業 植村成典

昭和60年卒 矢澤 徹 YAZAWA

理化学器械・器具製造販売

株式会社 矢沢科学

<https://www.yazawakagaku.co.jp>

東京都文京区本郷2-13-8



家庭文化用品 荒物雑貨 総合卸
輸出入竹工芸品全般

株式会社 大園

代表取締役 大園 正純 (昭和60年卒 闘紺会)

本社 〒130-0014 東京都墨田区亀沢1丁目12番8号

電話 03(3624)5366 (代)

FAX 03(3624)5368



計量システム・計量機器の総合商社 ハカリは共栄

共栄衡器株式会社

代表取締役 大森 規雄 (昭和61年卒)

東京都足立区千住河原町45番6号

TEL. (03) 3882-8101 (代)

FAX. (03) 3882-8172

<https://kyoei-koki.com/>



みとしろ法律事務所
弁護士
山崎 雄一郎
(昭和62年卒 明猿会)

〒101-0054
東京都千代田区神田錦町2-1-8
竹橋ビル2階
TEL 03-5282-3216
FAX 03-5282-3217
E-mail qwp01536@nifty.com
http://mitoshiro-law.jp/

祝 第61回
総明会 総会・懇親会
今年も新世輝は、
幹事学年 紫98俱を
応援致します。

しんせいぎ
新世輝
(昭和61年卒) **49/101**
<http://sinseiki.jimdo.com>

新世輝
俳優(小浅千)
(昭和六十一年卒)
高橋 信康
(歴史研究部OB)

帽子製造卸 **東 栄**
株式会社

こだわりの帽子をトレードマークに

代表取締役 **土田 正昭**
(昭和61年卒 新世輝)



〒103-0002
東京都中央区日本橋馬喰町1-3-5
TEL.03-3664-0810 FAX.03-3664-0033
E-mail.toei@beach.ocn.ne.jp



ふぐ・和風居酒屋
民芸茶屋 **佐留丹**
〒120-0034 足立区千住1-33-8
03-3882-7229
<http://r.gnavi.co.jp/g418500/>
<http://www.facebook.com/sarutan1971>
61年卒・新世輝 **猿田 尚弘**

弁護士 **三神光滋** (水泳部OB)
野本・吉葉法律事務所
(麹町 日テレビル前)

〒102-0084 東京都千代田区二番町4番地3
二番町カシュビル7階
TEL 03-3511-1111 FAX 03-3511-0222
mikami@nomotolaw.com

昭和63年卒
昭和成辰乃会

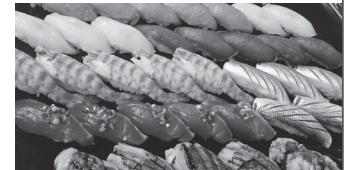
ワンちゃんと一緒に
お食事可能なウッドテラス席
お持ち帰りもできます！

<http://pizzeria-robertino.com/>

pizzeria Robertino
昭和63年卒 昭和成辰乃会
安齋 聡
ピッツェリア ロベルティーノ
ご予約 044-788-5757
神奈川県川崎市高津区久末 402

高島屋さん真裏通り
日本橋
吉野正敏
老野鮎本店
中央区日本橋三ー八ー十一
電話 〇三ー三二七四ー三〇〇一

昭和六十一年卒 新世輝



厳選したこだわりの素材



絶品の王子焼き



創業 明治12年



変わらぬ伝統の味



祝 第61回 総明会 総会・懇親会
ガンバレ!! **紫98俱**

〈昭和62年卒 明猿会一同〉

両国力士最中

半生菓子司
両国 **とし田**
年田善政
(昭和62年卒 明猿会)



〒130-0026
東京都墨田区両国4-32-19
TEL: 03(3631)5928
FAX: 03(3631)5919



火曜定休(その他不定休あり)

桜なべみの家

<https://www.e-minoya.jp>
電話 **03-3631-8298**

永瀬 守

(昭和62年卒 明猿会 水泳部OB)

営業時間

平日 12:00~13:50 / 16:30~20:50

土曜 12:00~13:50 / 16:00~20:50

日祝 12:00~20:20

※ご来店の際は「総明会」とお声掛けください。

都営地下鉄 大江戸線 新宿線「森下」下車

祝 第61回 総明会 総会・懇親会

昭和 63 年卒同期会

昭和戊辰乃会

しょうわぼしんのかい

不動産売買 仲介 管理

川口市・蕨市のお部屋さがしは当店へ

株式会社 八光商事

代表取締役 田中一任
(昭和63年卒 昭和戊辰乃会)
(硬式野球部OB)

〒335-0002 埼玉県蕨市塚越2-3-1

電話 048-441-8583

hks8583@warabi.ne.jp

Y 下町の住まい選びに夢を・・・ 不動産の山下商事

ポータルサイト未掲載の当社物件を多数掲載!!

〒116-0012 東京都荒川区東尾久1-1-6

電話 03-3895-9494 FAX 03-3809-7779

<http://www.yamashitashoji.jp>

代表取締役 山下征隆

(昭和63年卒 昭和戊辰乃会)

歴史研究部 宅地建物取引士

2級ファイナンシャルプランナー技能士



祭・踊衣装

日本の歳時記®

製造・発売元

株式会社 佐藤万

代表取締役 佐藤 武

(昭和 63 年卒 昭和戊辰乃会)

東京都中央区日本橋久松町6番5号

TEL 03(3664) 3611 (代)

<http://www.nihon-no-saigiki.co.jp>

アパレル・ファッションの資材サポーター 株式会社 クロップオザキ

代表取締役社長 尾崎博之 (昭和63年卒 昭和戊辰乃会)

〒101-0031 東京都千代田区東神田 2-1-11 第一坂本ビル (4F・5F)

電話 03-5820-0741 (代) FAX 03-5820-0742 (代) <http://www.cropozaki.com>

🔍 クロップオザキ

検索

硬式野球部OB

代表取締役 郡司 晃浩

(昭和63年卒 昭和戊辰乃会)

建設資材・建築金物・鋸前・電動工具・
作業工具・エクステリア等の販売

株式会社 グンジ

〒340-0031

埼玉県草加市新里町 1192-1

TEL 048-927-2643

岡崎正和税理士事務所

岡崎正和
 昭和63年卒
 昭和戊辰乃会
 マンドリン部OB
 東京都墨田区横川2-2-10
 岡崎ビル301 〒130-0003
 TEL: 03-6240-4262
 FAX: 03-6240-4263
 okazaki@setsu-zeirishi.com

感性豊かで高品質なカットソー製品を
 新しい切り口でご提供致します。
 **株式会社 ティアンドティ**
 代表取締役 **安川琢哉**
 (昭和63年卒 昭和戊辰乃会)
 東京都江戸川区北篠崎2-3-23
 電話 03-3677-1801



平成改元会
HENSEI-KAIGENKAI
 カレダチヨロシクセンカイカバカバ

祝 第61回総明会総会・懇親会開催

Meiji 平成元年卒(平成改元会)
 硬式野球部OB一同

田中博樹、村嶋健児、澤村大樹、篠田守建
 美濃部健太郎、筧崇彦、吉井昭、四手宏尚



人と緑をつなぐ

 **日章造園株式会社**

〒153-0064 東京都目黒区下目黒3丁目8番5号
 TEL. 03-3716-3221 FAX. 03-3716-3226

自然や緑を通じ
 そこに住む皆様の心豊かな生活をご提案します。

代表取締役社長 **澤村大樹**
 (平成改元会 硬式野球部OB)

 **株式会社オガワ**
 横浜でエクステリアのデザインから施工まで
 横浜の中心部に、スピーディな生コンの供給
 代表取締役 **小川和弘**
 (平成元年卒 平成改元会)



横浜市保土ヶ谷区宮田町2-155-10
 TEL: 045-332-1411 (代)
 FAX: 045-335-2421

日本産業規格表示認証工場
 高強度コンクリート大臣認定取得
<https://ogawa-yokohama.com>

祝61回 総明会 総会・懇親会 **GRIFFINS**

明高出身 明治大学体育会
 アメリカンフットボール部OB有志



村嶋 健児
 (H元年卒 「平成改元会」 硬式野球部)
 嶋田 剛久
 (H元年卒 「平成改元会」 吹奏楽班)

祝 第61回総明会
 総会・懇親会

紫98俱
 応援してます!!

平成改元会(吹奏楽班OB)
 総明会 副事務局長
 株式会社嶋田プランニング
 代表取締役社長 嶋田 剛久

第61回 総明会総会・懇親会 母校駿河台校舎での開催おめでとうございます！

第53回幹事学年
平成2年卒業
明愛会(めいあいかい)
I ♥ Meiji

明愛会

嗚呼なんと、
人の心の「やさしさ」よ
人の心の「あたたかさ」よ

明愛会 同期諸君、今年は御茶ノ水です。男坂に集合！ 集合！

※今年度の明愛会同期会は、
8/31(日)に開催致しました。

昌平坂特許事務所

代表/弁理士 吉田 信彦
特定侵害訴訟付記

(平成2年卒 明愛会)

yoshida@shohey.com
https://shohey.com/

〒101-0021

東京都千代田区外神田4-14-2-906

TEL 03-5295-0115



MEIJI
UNIVERSITY GOLF CLUB

祝61回 総明会総会・懇親会

明治大学体育会ゴルフ部 監督 榎本 剛之

(平成2年卒)

Instagram

meiji_golfteam



https://www.meijigolf.com/

Law Office SORA

法律事務所 空

弁護士 栗田 隆

(平成3年卒 明仁会)

東京都千代田区神田神保町2-2

新世界ビル601号室 〒101-0051

TEL 03-3556-3035 FAX 03-3556-3036

kurita.t@lawoffice-sora.jp



神輿
新調製作
修理・メンテナンス

太鼓
新調製作
修理・メンテナンス

祭礼具
神具・神棚
販売



平成2年卒 明愛会 歴史研究部OB

石渡浩司

創業元禄二年
南部屋五郎右衛門

令和7年 品川神社様葵神輿製作

〒111-0041 東京都台東区元浅草2-10-10

TEL.03-3843-3335 FAX.03-3843-3336

倉持法律事務所

弁護士 倉持政勝

(平成3年卒・硬式野球部)

〒103-0025

東京都中央区日本橋茅場町3-13-3

興和ビル2階

電話：03-5614-1420

FAX：03-5614-1421

http://www.kuramochi-law.jp

顧問契約・SPC業務・各種アウトソーシング

AOJ税理士法人

いであわ たかひと

代表社員 出澤 貴人 H3卒

税理士・不動産証券化協会認定マスター

東京都中央区京橋2-12-6

東信商事ビル 6F

TEL 03-5542-0137 FAX 03-5542-0138

E-Mail t-idesawa@aojtax.or.jp

https://aojtax.or.jp

筒井綜合法律事務所

代表弁護士 筒井 剛 (平成2年卒 明愛会)

〒271-0092 千葉県松戸市松戸 1336-7 東風園ビル 4階

Tel. 047-308-5050 Fax. 047-365-2210

E-mail: tsutsui@tsutsui-lawoffice.com

祝 第61回総明会総会・懇親会開催

Meiji 平成2年卒(明愛会)
硬式野球部OB一同

桜井 敦、桑名 徹、木下英樹

松尾健司、川辺康二

日本酒を試して選べる専門店

合資会社 日本屋

平成2年卒
明愛会 鈴木宏房

JR柏駅前東口にて営業中！
柏マルイ館・ファミリかしわ1階

エックス
(旧Twitter)
@NIHONYA



祝 第61回 総明会 総会・懇親会

平成3年卒

人生の名人たれ

明仁会

ONE MEIJI ~ 明治はひとつ ~

建設・不動産駿台会
有志一同

大久保俊治 平成3年卒
浅倉 太明 平成3年卒
富沢 康弘 平成3年卒

Lightec
SINCE1937

創造と挑戦
Creation and Challenging

ライテックは、令和の時代をリードする「灯り」、社会・環境を優しく導く「灯り」になれるよう全社員一丸となって商品開発、サービスの展開に努めてまいります。

株式会社 ライテック
代表取締役社長 廣田拓郎

**KOBA
YASHI
DENSO**



建築物を彩るイルミネーションなどの
工事を手掛けるのが、私たち「小林電装」です

小林電装株式会社 www.kobadenn.co.jp/

〒111-0054 東京都台東区鳥越2-10-15
TEL. 03-3866-6311 FAX.03-3866-6302

代表取締役 小林 健太郎 (平成3年卒)
MAIL info@kobadenn.co.jp

坂田税理士事務所

税理士 坂田 覚

(平成3年卒 明仁会)

〒173-0004

東京都板橋区板橋 3-41-3

都営三田線「板橋区役所前駅」徒歩6分

TEL 03-3962-6164

日本蕎麦掘留町

尾張屋

藤崎 信

(平成3年卒 バレー部)

東京都中央区日本橋堀留町1-11-7
TEL 03(3661)4488

祝 第61回 総明会 総会懇親会

快汗、どすこい塾

平成4年卒 同期会

平成4年卒(快汗、どすこい塾)
硬式野球部OB

寺土 博昭/石山 賢/浦 和正/大山 聡
栗生 孝雄/佐々木敦史/福田 浩茂/藤井 広之
森 直樹/相良 明/今本 辰広/安達 幸彦
高橋 信秀/佐藤 英雄/牧野英太郎

不動産売買・仲介・管理
太明地所株式会社

代表取締役 **浅倉太明**
(平成3年卒 スキー部)

東京都中央区銀座8-8-15 青柳ビル5F
TEL 03-3571-0655
FAX 03-3571-0615
ginza@taimeijisho.jp

不動産管理・賃貸業 有限会社 明克

MEIKOKU

<https://www.meikoku.co.jp>

代表取締役 **櫻井 崇**
(平成3年卒 明仁会)

川崎市川崎区日ノ出2-16-1
TEL 044 (266) 8111

下町の小さな飾り屋さん

美を結ぶ
むすびの
~MUSUBINO~

下町の小さな飾り屋さん 有限会社 大野商店
髪飾品製造卸

代表取締役 **大野光照** 平成4年卒
快汗、どすこい塾
〒111-0054 東京都台東区鳥越 2-7-12
TEL & FAX 03-3851-9929

amazon店



BASE店

たま〜に更新してます
Instagram



STEP

国際特許事務所
STEP INTERNATIONAL PATENT OFFICE

代表 弁理士 **高橋 豊**
(平成6年卒 隆明会 物理部OB)

ご連絡はこちらへ→



ゴム金型 設計・製作 短納期対応

有限会社 三友金型

代表取締役 **小柳貴裕**

バスケット部OB

改元会(平成元年卒)

東京都墨田区東向島6-25-13
TEL. 03-3617-6683
FAX. 03-3610-1299

クオリティの高い映像作品づくりで数々の実績！情熱的なクリエイティブ軍団
映画・TV 番組・CM・ドラマ等映像の企画・制作

株式会社 東京コンテンツラボ

代表取締役/プロデューサー
高木征太郎 (平成5年卒)

東京都港区南青山 6-13-2
ブルジョア南青山 6 階

☎ 03-6427-9130

Tokyo Contents Laboratory

〈グループ会社〉(株)ブレインウォッシュ
(株)高木通商・(株)エレファント

有限会社 東宏商事

取締役 **青木 貴史**

(平成3年卒 明仁会)

〒171-0033
東京都豊島区高田 3-10-21 東宏ビル
TEL. 03-3200-1370
Takashi.Aoki@toko-shoji.com

祝 第61回 総明会総会・懇親会

平成6年卒同期会

隆明会

頑張れ!! 紫98俱

太平洋セメント株式会社特約店
生コン・壁材料・左官工具及機械
有限会社 福田商店

代表取締役 **和田康正**
(平成5年卒・バスケ部)

東京都墨田区押上2-7-8
TEL 03-3625-3309
FAX 03-3625-8395

祝 第61回 総明会 総会・懇親会

平成7年卒 紫縁会

これからも母校を支援(しえん)していきます

株式会社さくら航産

代表取締役 **熊木達朗**
(平成6年卒)

〒105-0012
東京都港区芝大門1-5-2
須田ビル3F
TEL 03-5472-7400
FAX 03-5472-3500



常務取締役 **森平伊織**
平成7年卒(紫縁会)

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋二丁目6番6号
E-MAIL: i.morihira@sankyokasei.or.jp

千賀貴生公認会計士事務所

千賀貴生 平成7年卒 紫縁会
(JRC・IAC OB)

〒150-0031
渋谷区桜丘町15番地14号フジビル40 9階(スパイラル内)
080-3367-6652 takao.senga@ms01.jicpa.or.jp

祝 第61回総明会 総会・懇親会開催

平成8年卒業



頑張れ紫98俱!
応援しています!!



かやぶき蕎麦 やぶ

新松戸・南流山駅界隈で
蕎麦を楽しむ
千葉県松戸市新松戸7-61
TEL.047-342-8103



FIREBUG

エンターテインメントで人を豊かにする

株式会社FIREBUG

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-32-11 Kビル3F
TEL:03-6300-6771 / FAX:03-6300-6774



代表取締役 CEO **佐藤詳悟** 平成13年卒 サッカー部OB

取締役 COO **塚田晃作** 平成8年卒 バスケット部OB

インフルエンサーからテレビCMまで、広告のことなら何でもご相談ください!

総合建設業
株式会社 吉田工務店

代表取締役 **吉田浩士**
平成8年卒 吹奏楽班OB

〒331-0052
埼玉県さいたま市西区三橋6-152-10
TEL. 048-623-4711
FAX .048-623-8944

松島俊行 税理士事務所

代表社員
松島俊行

平成8年卒
吹奏楽班 OB

祝 第61回総明会 総会、懇親会開催

平成8年卒業
令和5年幹事学年 紫誠会
マンドリン部OB

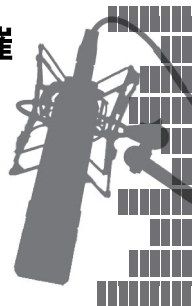


高橋潤士

クラシック録音、小規模イベント音響

有限会社 JHT

〒136-0072 東京都江東区大島 5-42-3 大高ビル 2 階
Mail: jht@kj9.so-net.ne.jp Tel: 090-3204-6528



京成上野駅から徒歩 30 秒
大小宴会承ります

蓬萊閣

張 春穎 (平成8年卒
水泳部・山岳部)

東京都台東区上野2-14-29
TEL 03-3831-1763
www.houraikaku.jp

Rolls-Royce and Bentley Owners' Club of Japan



東日本支部長 寺坂 光正 (昭和48年卒)

事務局長 山崎 政彦 (平成8年卒)

〒340-0823 埼玉県八潮市古新田 797-1

<http://rrbocj.jp/>

mail: rrboc_j@yahoo.co.jp

弁護士・通関士

増井陽一

(平成12年卒 バスケットOB)

横木増井法律事務所

東京都港区虎ノ門5丁目2-6

虎ノ門第2ワイコービル 5F

TEL: 03-6277-6359

<https://ym-partners.com/>

バスケット部の伝説消す清水裕貴

プルデンシャル生命は世界最大級の金融サービス機関
プルデンシャル・ファイナンシャルの一員です

プルデンシャル生命は1987年10月に設立されました。
1875年米国で創業、150年の歴史を誇るプルデンシャル・
ファイナンシャルグループの一員として「人間愛・家族愛」の基本
理念を受け継ぎ、生命保険の専門家であるライフプランナー® が
オーダーメイドの生命保険をお届けすることにご協力して
まいりました。

※「ライフプランナー」はザ・プルデンシャル・インシュアランス・
カンパニー・オブ・アメリカの登録商標です。



プルデンシャル生命保険

<https://www.prudential.co.jp>

本社所在地:

東京都千代田区永田町2-13-10

首都圏第五支社 支社長
首都圏第一支社 ライフプランナー
汐留支社 ライフプランナー
汐留支社 営業所長
本社 保全モデル開発チーム
汐留支社 ライフプランナー
青山第四支社 営業所長

深谷 剣 (昭和62年卒)
川口 貴之 (平成元年卒)
高山 剛 (平成2年卒)
富樫 展広 (平成4年卒)
八巻 隆洋 (平成10年卒)
平井 隆太 (平成19年卒)
山岸 俊介 (平成19年卒)



がんばれ 紫98俱! がんばれ狭山セコムラガッツ!

セコム、しますか?



小谷健志

平成9年卒 卓球部 OB

E:MAIL: brabula39@icloud.com

60th 紫雲会



明日をつなぐ、色の世界へ
MARUSHIN

株式会社マルシン

代表取締役 近藤 旭

(平成9年卒 紫雲会 バスケット)

〒340-0002

埼玉県草加市青柳 2-11-39

TEL: 048-931-5200

HP ↓



魅せろ! 明治魂 私達は明治高校を応援しています!

石川 恵資 昭和58年卒
高橋 浩 昭和58年卒
服部 裕之 昭和59年卒
増岡 寿 昭和60年卒
松尾 智己 昭和60年卒
松嶋 俊行 昭和61年卒
菅 和禎 昭和63年卒
山本 幸一 平成2年卒
滝 晋敏 平成4年卒
寺土 博昭 平成4年卒
高橋 建太 平成5年卒
近藤 裕樹 平成6年卒

木村 允 平成8年卒
佐藤 潤 平成9年卒
角 祐二郎 平成13年卒
鈴木 亮輔 平成13年卒
寺田 雄太 平成13年卒
瓜生 泰三 平成14年卒
土方 博史 平成14年卒
密岡 祐樹 平成14年卒
高井 洋 平成15年卒
川原 健 平成17年卒
小堀 良樹 平成17年卒
山本 康太 平成19年卒

櫻井 亮 平成20年卒
平野 慎 平成21年卒
松本 直子 平成25年卒
三苫 美鈴 平成25年卒
吉光寺美和子 平成27年卒
下田 祥之 平成27年卒
山中 友貴 平成27年卒
彦惣 俊人 平成28年卒
熊坂 美穂 令和2年卒
内山 萌佑 令和3年卒



明治高校卒明治大学職員有志一同

すべてを突破する。 TOPPA!!! TOPPAN

笠原 謙介（昭和58年卒） 山本 伸幸（昭和60年卒） 永井 聡（昭和63年卒） 定谷 正春（平成元年卒）
今泉 仁（平成2年卒） 山本 洋貴（平成5年卒） 水野 泰博（平成8年卒） 竹村 圭史（平成12年卒）
木村 啓（平成15年卒） 新藤 良亮（平成18年卒） 川村 実穂（平成23年卒） 中島 多朗（平成26年卒）

TOPPAN 株式会社 <https://www.toppan.com/ja/>

祝
第61回総明会
総会・懇親会 開催
がんばれ！
紫98俱！！

60th 紫雲会
ゴルフアース

祝
第61回総明会

市川市役所
明治高等学校
卒業生有志

SURPASS

サーパス工業株式会社

代表取締役社長 今井 高志（平成5年卒）
〒361-0037 埼玉県行田市下忍2203
Tel.048-554-9760（代表） Fax.048-554-9772
e-mail t-imai@surpassindustry.co.jp



ムーンレイク
ゴルフクラブ
茂原コース

Love Life. Love Golf. ゴルフは、もっと、素晴らしい。



ムーンレイクゴルフクラブ
茂原コース

圏央道茂原北ICで降りて車で約7分

〒297-0073
千葉県茂原市長尾1647

TEL 0475-26-5500

FAX 0475-26-5152

www.pacificgolf.co.jp/moonlake_m/



おかげさまで創業100周年。ご要望の建築資材を、タイムリーに。
オオモリ・マテリクスは、お客様に「信頼」をお届けしています。

株式会社オオモリ・マテリクス

代表取締役 大森清嗣（長男 大森貴之 平成21年卒 硬式野球部OB）

本 社 〒101-0023 東京都千代田区神田松永町18番
TEL 03-3253-9411 FAX 03-3253-9418
営業本部 〒135-0053 東京都江東区辰巳2丁目3番1号
TEL 03-5534-7700 FAX 03-5534-7708



TANAKA KENSO

ARCHITECT PLANNING

田中建装株式会社

東京都杉並区高円寺南 1-22-6

TEL 03-3315-0280

www.tanakakenso.co.jp

原田 崇（H8年卒 水泳部OB）

硬式野球部OB・OG会

明球会

会長 原 健治（昭和60年卒）

事務局 近藤裕樹 090-1652-9374



Pelican

ペリカンバン売っています

藤田商店

東京都台東区浅草橋 3-27-13

TEL 03-3851-1558

広告のご協賛大変ありがとうございました。
皆様のご好意によって
会報は支えられております。

祝 第61回総明会 総会・懇親会

吹奏楽班OB・OG会

会長 斉木 麻州男
（昭和 56 年卒）

見 心 会

明治高校剣道部OB・OG会

会 長 鈴木 幸男 幹事長 伊藤 直孝
副会長 木村 茂 会 計 須志原法和
副会長 羽田 郁雄 監 督 中山 将

明治中学・高校水泳部OBOG会

明 水 会

会長 佐藤 敏雄(S58年卒)

祝 第61回総明会総会

明卓会

明治高等学校・中学校卓球部OB・OG会

会長 前原正浩(昭和47年卒)

祝 第61回総明会総会・懇親会

チャレンジ 紫98俱

明治高校ソフトテニス部OB・OG会

会長 山形 厚夫(昭和48年卒)



祝 第61回総明会総会 がんばれ 紫98俱

歴史研究部OBOG会

会 長 鴨下 裕彦(昭和56年卒)	会 計 土田 正昭(昭和61年卒)
副 会 長 白畑 尚志(昭和56年卒)	事 務 局 山下 征隆(昭和63年卒)
副 会 長 安達 俊幸(昭和57年卒)	事 務 局 最上 達也(平成19年卒)

祝 第61回総明会総会・懇親会

図書班 OB・OG会

連絡先 平田 幸彦
TEL: 03-3589-0687
連絡先 大西 静士郎
TEL: 090-2243-2135

がんばりました!!
関東大会出場
男子5名 女子5名

スキー部OB・OG会
明雪会
会 長 五十嵐公一(昭和54年卒)
副 会 長 菅野 栄一(昭和55年卒)
幹 事 狩野 智雄(昭和56年卒)
相 談 役 鳴海 浩樹(昭和57年卒)
堀 真壽(昭和46年卒)
沼田 哲明(昭和50年卒)
幹 事 岡本 雅仁(昭和51年卒)
顧 問 佐藤 健一(昭和31年卒)
大出 育男(昭和31年卒)
山田 和孝(昭和36年卒)
小山 雅司(昭和37年卒)
井上 進治(昭和38年卒)
戸張 毅(昭和47年卒)
服部 憲一(昭和50年卒)
事務局 錦木 祥介(昭和63年卒)
事務局 富沢 康弘(平成3年卒)
事務局 浅倉 太明(平成3年卒)
事務局 南谷 吉貴(平成6年卒)
事務局 印田 誠(平成10年卒)

祝

第61回 総明会
総会・懇親会

卯ノ木会



バレー部
OB・OG会
ホームページ

祝 第61回総明会総会
明治高校バレー部
OB・OG会
顧 問 山中禎一郎先生
会 長 石田 元伸(S51卒)
副 会 長 岩崎 広人(S57卒)
副 会 長 岡永 健二(H4卒)
事 務 局 長 樋田 哲次(S52卒)
役 員 加藤 裕司(H8卒)
役 員 山本 直之(H8卒)
役 員 阿部 徹也(H11卒)

祝
第61回総明会総会・懇親会

地理研究部 OB・OG会

2026年2月
由井将雄先生最終講義
実施予定
連絡先(事務局・和田)
yasunobu@meiji.ac.jp

明治高校バスケットボール部 OB・OG会

バスケ部OB・OGの皆さま

現役の合宿は、夏は北志賀、春は静岡で行っております。
夏合宿は毎年、曜日に関係なく、8月3日から7日の固定日程で
実施しています。皆さまからの温かいご支援・ご協力を賜りますよう、
お願い申し上げます。
そして、ぜひ現役の試合にも足をお運びください。
きっと、胸が熱くなる瞬間に出会えるはずです！

広告のご協賛大変ありがとうございました。
ございました。
皆様のご好意によって
会報は支えられております。

2025年度(令和7年度)総明会活動報告

令和7年度 総明会 役員一覧

(敬称略)

委員会・役職	年 卒	氏 名
名誉会長 名誉顧問 名誉顧問 顧問 顧問 顧問 顧問 顧問 顧問	昭和36年 昭和51年 昭和29年 昭和32年 昭和41年 昭和43年 昭和44年 昭和44年	向柳上野家浦山崎島尾佐服閔谷政男孝雄史暉生郎一二久 正哲晟敬四洋雄芳
会長 副会長 副副会長 専務理事 常務理事 常務理事 計務局長 会事務局長 副事務局長 副事務局長	昭和50年 昭和56年 昭和59年 昭和61年 昭和63年 昭和50年 昭和59年 昭和59年 平成元年 平成元年 平成6年	山崎藤野田崎藤村小柳田三秀樹一哉昭之彦武重幸裕久知弘 衛藤平士尾崎近島田小嶋田谷
総会委員会 広報委員会 会報発刊一括 ホームページ	委員長 副委員長 副委員長 副委員長 副委員長 委員 担当理事 副委員長	英太郎剛史吾土彦司一郎 牧野高山金子田橋藤石渡山口 平成4年 平成2年 平成7年 平成7年 平成8年 平成2年 平成2年 平成3年

委員会・役職		年 卒	氏 名	
会報データ管理	副委員長	平成4年	木下	泰之
学校連携	副委員長	平成5年	小岩井	賢一
学校連携	副委員長	平成7年	櫻井	勝也
進捗サポート	副委員長	平成9年	小林	達也
進捗サポート	副委員長	平成9年	林	直幸
M編集	副委員長	平成23年	三浦	直人
企画委員会	委員長	昭和54年	志村	和哉
チャリティゴルフ	担当理事	平成2年	松尾	健司
明朗会	担当理事	平成2年	今泉	仁
チャリティゴルフ	副委員長	昭和63年	安川	琢哉
チャリティゴルフ	副委員長	平成5年	南谷	吉貴
チャリティゴルフ	副委員長	平成8年	原田	崇
明朗会	副委員長	平成4年	莊司	康夫
明朗会	副委員長	平成7年	藤田	央
明朗会	副委員長	平成9年	小谷	健志
組織委員会	委員長	平成元年	福島	維規
法曹部会	担当理事	平成8年	酒井	康生
	副委員長	昭和58年	高橋	浩
	副委員長	平成元年	村嶋	健兄
	副委員長	平成2年	長谷川	剛央
	副委員長	平成7年	遠藤	智史
	副委員長	平成8年	木村	允
	副委員長	平成8年	関川	明生
総務委員会	委員長	平成8年	宮嶋	優光
	副委員長	昭和61年	野津	真男
名簿委員会	副委員長※	平成22年	高島	周太郎
監事		昭和44年	中河	孝樹
監事		昭和57年	関川	一浩

※太字は理事

※名簿委員長の後任者はしばらく保留、その間は事務局預かりとする。

※財務委員会として副事務局長中心に活動していく。

令和7年度 総明会 評議員一覧

同期会

卒業年	名称	氏名	氏名
昭和12年		中富 光国	
昭和15年	明中26会	新田 光人	
昭和19年	明中28会	三笠 晃太郎	
昭和21年	午巳の会	小林 昭雄	斉藤 久也
昭和24年		内藤 功雄	
昭和25年	明二会	高橋 信雄	
昭和26年	猿楽会	熊井 実	
昭和27年	明高会	米山 耕石	渡邊 幹夫
昭和28年	明窓会	戸田 一郎	佐藤 欣生
	八明会(八丈島高校)	持丸 孝雄	高橋 和夫
	29会	山本 峰司	高橋 正義
昭和29年		宇田川 雄弘	崎崎 彰之
昭和30年		佐藤 健一	大出 育男
昭和31年	明楽会	佐藤 徳治	大田 喜久
昭和32年	明三会	嵯峨 寿雄	藤田 義茂
昭和33年	三三会	鈴木 義昭	桑代 章浩
昭和34年	旧雨会	秋山 清市	山縣 常浩
昭和35年	珊瑚の会	北室 孝	
昭和36年	明駿会	※会解散	
昭和37年	37会	福島 啓光	石井 嘉一郎
昭和38年	二年に一會	渡辺 昭宏	関戸 淳一
昭和39年	三九会	佐藤 堺	堀 健一
昭和40年	明優会	阿部 正行	大関 清人
昭和41年	41明友会	廣瀬 準	菊本 哲也
昭和42年	M41	伊藤 謙一	
昭和43年	紫雲会	志村 一夫	小田嶋 保男
昭和44年	男坂俱樂部	島根 勇一	栗谷 豊
昭和45年	獅子の会	比留間 竹郎	上野 隆史
昭和46年	明潮会	木村 茂樹	金子 敏一
昭和47年	四七四七同志酔会	戸張 毅	内田 茂
昭和48年	波の会	海老根 一介	雨海 重明
昭和49年	翼明会	佐藤 眞弘	大町 実之
昭和50年	明紫会	三森 勲	前田 純一
昭和51年	明々会	小林 祥悟	島田 有田
昭和52年	男子校根性組	佐藤 大英	竹田 幸調
昭和53年	校友会	加藤 裕之	有谷 利和
昭和54年	明誠会	荒井 信之	熊倉 章雄
昭和55年	紫雲会	吉口 市郎	渡辺 裕之
昭和56年	明翔会	寺村 一義	逢田 裕一
昭和57年	明魂会	田中 幹浩	菊池 正純
昭和58年	明輪会	山田 寿一	高橋 浩
昭和59年	明心会	伊東 稔	渡邊 文夫

卒業年	名称	氏名	氏名
昭和60年	闊紺会	栗田直弘	矢澤徹
昭和61年	新世輝	長宜長	高橋彰次郎
昭和62年	明猿会	赤岩大輔	中澤彰太郎
昭和63年	昭和戊辰乃会	石田昌義	諸井右一
平成元年	平成改元会	横島裕和	杉山純也
平成2年	明愛会	大崎之裕	神保健一郎
平成3年	明仁会	山口一郎	斎藤直宏
平成4年	快汗、どうし塾	小畑啓	福田浩茂
平成5年	明鐘会	安藤高利	長野吉克
平成6年	隆明会	三保谷建介	熊木達朗
平成7年	紫縁会	三賀貴生	森伊織
平成8年	紫誠会	関川明生	高橋潤士
平成9年	紫雲会	小谷健志	香川満洋
平成10年	紫98俱	秋山光億	平田健寛
平成11年	明哲会	石川一仁	戸邊健
平成12年	明瀑会	玉木万理夫	保科大輔
平成13年	明治21	大橋弘頌	岡庭朋威
平成14年		上原康仁	下田良征
平成15年		大川康介	武雄一郎
平成16年		杉田将平	徳正憲
平成17年		室井純	荒川佳史
平成18年	白雲会	山崎裕貴	大角隆悟
平成19年	昭成会	平井隆太	角田悟
平成20年		渡辺圭	早川慎吾
平成21年		加藤敦	大森貴之
平成22年	明雄会	亀屋将紀	三浦亨太郎
平成23年	共楽会	平田裕貴	佐藤直人
平成24年		三浦彩	市川陸
平成25年		師岡忠寛	佐藤華
平成26年	ゆいまーる	岡田尚也	柴田加菜子
平成27年		柳澤菜摘	渡邊直人
平成28年		田勢也也	奥式光
平成29年		佐藤陸	小栗未琴
平成30年		今井紗紀	山口崇人
平成31年		染谷早咲	關口哲平
令和2年		千鳥紗英	浦山和之
令和3年		中村勇太	岩崎夏音
令和4年		蓮池龍慈	井上朝陽
令和5年		香阪成洸	信田悠里加
令和6年		高嶋美海	岩崎美桜
令和7年		八木樹己	瀧々倫太郎

班クラブOB・OG会

名 称	氏 名
生徒会本部	
アイスホッケー愛好会(明氷会)	
J R C	横谷 昌明
柔 道 部	小川 洋一
卓 球 部(明 卓 会)	前原 正浩
新 地 理 研 究 部	西山 光彦
フ ェ ン シ ン グ 部	堀井 雅俊
化 学 部	中村 信也
応 援 指 導 班	森 八一
硬式野球部(明球会)	鈴木 重之
スキー部(明雪会)	寺田 雄太
物 理 部(明 物 会)	岡本 雅仁
図 書 班	上野 雅宏
剣 道 部(見 心 会)	大西 静士郎
バ レ ー 部	羽田 郁雄
囲 碁 部	樋田 哲次
庭 球 部	田島 弘資
吹 奏 楽 班	林 伸光
放 送 班	斉木 麻州男
バスケットボール部	宮田 健功
マ ン ド リ ン 部	並木
水 泳 部(明 水 会)	芳澤 徹
水 歴 史 研 究 部	山下 征隆
サ ッ ク 部	大室 智
陸 上 競 技 部	櫻井 勝也

評議員の変更、連絡先の変更等ございましたら、総明会事務局までご連絡を頂けますようお願いいたします。

会計報告

令和6年4月1日施行 改正会則第23条②「本会の会計年度は、毎年9月1日に始まり、翌年8月31日に終わる」

上記の会計年度の変更に際し、令和6年4月1日から同年8月31日の5ヵ月間を移行期とします。

総明会 令和6年度移行期 一般会計報告

(自)令和6年4月1日～(至)令和6年8月31日

収 入 の 部		支 出 の 部	
前年度繰越金	24,105,173 円	会議費	138,350 円
新入会員入会金	円	交流費(学校、他)	725,600 円
新入会員終身会費	円	会報発送保管費用	208,500 円
学年会費	615,000 円	事務通信費	48,710 円
寄付金	円	各委員会活動費	1,430,439 円
利息他	325,156 円	基金へ組入れ	円
		次年度繰越金	22,493,730 円
合 計	25,045,329 円	合 計	25,045,329 円

総明会 令和6年度移行期 基金会計報告

(自)令和6年4月1日～(至)令和6年8月31日

基金区分	令和5年度末残金	令和6年度移行期増減額	摘 要	令和6年度移行期残金
事業遂行基金	15,000,000 円	0 円		15,000,000 円
財政基盤基金	11,202,694 円	793 円		11,203,487 円
合計	26,202,694 円	793 円		26,203,487 円

上記のとおり報告致します。

令和6年8月31日

会 長 山 崎 秀 樹

会 計 田 中 重 幸

上記のとおり報告致します。

令和6年10月4日

監 事 中 河 孝 樹

監 事 関 川 一 浩

総明会 令和6年度新年度 一般会計予算(案)

(自)令和6年9月1日～(至)令和7年8月31日

収 入 の 部		支 出 の 部	
前年度繰越金	22,493,730 円	会議費	910,000 円
新入会員入会金	2,520,000 円	交流費(学校、他)	2,241,000 円
新入会員終身会費	3,780,000 円	会報発送保管費用	2,696,000 円
学年会費	0 円	事務通信費他	196,000 円
雑入(会議費、他)	1,120,000 円	各委員会活動費	2,364,900 円
雑入(寄付金・利息)	円	基金へ組入れ	0 円
		次年度繰越金	21,505,830 円
合 計	29,913,730 円	合 計	29,913,730 円

総明会 令和6年度新年度 基金会計予算(案)

(自)令和6年9月1日～(至)令和7年8月31日

基金区分	令和6年度移行期残金	令和6年度新年度増減額	摘 要	令和6年度末残金
事業遂行基金	15,000,000 円	— 円		15,000,000 円
財政基盤基金	11,203,487 円	— 円		11,203,487 円
周年事業準備金	26,203,487 円	— 円		26,203,487 円

第60回 総明会 特別会計報告

(自)令和6年4月1日～(至)令和7年3月31日

収 入 の 部		支 出 の 部	
総会懇親会収入	3,005,000 円	総会懇親会関係費R6.11	5,127,693 円
寄付広告収入	8,336,500 円	会報関係費	3,188,581 円
その他(利息)	79 円	ゴルフ運営関係費	3,025,305 円
合 計	11,341,579 円	合 計	11,341,579 円

令和7年度活動報告

総明会 専務理事
尾崎 博之

昨年のメインイベントとしては11月23日に
行われた第60回総会懇親会です。幹事学年
の紫雲会(平成9年卒)が会場として選んだ
のは調布の明治高校校舎でした。これには
調布校舎を卒業したOB・OGと猿楽町校
舎で学んだOBとの交流を増やしたいとの
思いがありました。その思いが通じ、OGの
参加者はこれまでで最高の11名という結果
を作り出しました。

イベントも恒例のマンドリン部吹奏楽班の
演奏、応援団チアリーダーのステージの他、
現役生徒の活躍の紹介や、退職前の恩師と
の語りの場などがあり、大いに盛り上がり
ました。中でも書道部OB・OGによる「希
望する文字を色紙に書く」というイベントに
は多くの方が参加し、皆さん喜んでおられ
ました。

昨年は決算月の変更に伴う移行期間とし
て、令和6年4月から8月までの5か月
間の決算を行いました。これにより理事会、
評議員会の開催が例年よりも多くなりま
したが、滞りなく進行させることができました。
皆さまのご協力に感謝いたします。今
年度からは9月にスタートし11月に総会が
実施され、長年の課題だった決算月と総会
月のタイムラグが解消しました。

例年の活動として、9月紫紺祭へのブース
出展、明朗会(マジックショー&落語)開催、12
月幹事学年引継ぎ式開催、2月顧問会開
催、武陵会・戸富貴会との三校懇親会に参
加、3月明治高校卒業式に参列、総明会新
入会員歓迎会開催、4月明治高校入学式

に参列、5月武陵会総会懇親会に参加、チャ
リティーゴルフ開催、6月PTA同窓会白鷺
会懇親会に参加してきました。7月は学年
評議員・班クラブ評議員懇親パーティーの開
催を予定しています。

また、組織委員会下の法曹部会も活発に
活動しており、明治高校生徒向けに法律講
座、裁判傍聴、模擬裁判などに加え、OB事
務所でのインターンシップの受け入れも行い
ました。法曹界を目指す学生のサポートを
引き続き行っております。

本年度の幹事学年(平成10年卒)は「紫98
俱(しくはつ)」です。今年の総会懇親会は
御茶ノ水に戻り、明治大学のアカデミーコモ
ンにて11月24日(月振)に開催予定です。

テーマは「Innovation of MEIJI」(いん
ごや かん、時代の暁の鐘)。幹事学年の思い
として、昨年60回という節目を迎え、次の新
しい歩を歩み出すということをメインテーマ
に、そして全ての世代に寄り添うことができ
るものとして、建学の精神を支える校歌の
歌詞に基づいたサブタイトルにしました。

このような未来志向で新旧融合した第61
回の総会懇親会を聖地、御茶ノ水で行える
のは嬉しい限りです。明治高校猿楽町校舎
(現駿河台キャンパスの猿楽町地区)は再開
発が決まっております、あの校舎を見られる最後
のチャンスかもしれません。

さらに今年は会長・副会長の選出という
大きな議案がございます。11月24日、お一人
でも多くの方に総会懇親会にご参加いただ
けますようお願い致します。

総会委員会活動報告

総会委員会 委員長
牧野 英太郎

第60回となった令和6年度の総会・懇親
会は母校明治高等学校・中学校の調布校舎
にて開催されました。開催に際し総明会会
員の皆様にご高配を賜りましたこと厚く
御礼申し上げます。

そして幹事学年である紫雲会の皆様本
当にお疲れ様でした。

年初の段階で、幹事学年より母校の校舎
で開催したいという意向を伝えられまし
た。総会委員会としてはホテルでの開催に
比べ、かなりのパワーと想いが必要で、その
意気込みが本当にあるのかと彼らに問いか
けをいたしました。紫雲会の皆さんは、若い
世代の会員にぜひ来てほしいという考えの
もと、恩師である先生方との再会、師弟食
堂の懐かしのカレーをメニューに加えるなど
様々な工夫を盛り込むと共に、運営面での
計画をしっかり行っていたきました。通常
は行わない理事会でのプレゼンテーションを
実施し、しっかりと幹事学年としての「意向」
を「想い」に変えて私たちに伝えてくれまし
た。

結果、大成功で終了したことは皆様も
ご存じの通りでございます。私は紫雲会の
皆さんの努力に敬意を表し、「素晴らしかつ
た!」という気持ちでいっぱいでございます。
本当にお疲れ様でした。

さて令和7年度の幹事学年は紫98俱(し
くはつ)となります。1998年の卒業生
が紫紺の魂を持つて総会懇親会に臨んでお
ります。

本年の総会、懇親会は令和7年11月24日

(月振)に駿河台の明治大学アカデミーコモ
ンにて開催となります。これまたホテルでの
開催より幹事学年間の力を合わせることに
必要な会場での開催の提案を受けました。
実施には様々なハードルがあります。しかし
「挑戦」する姿を世代を引き継いでいく明
治高校生そして総明会、と感じた瞬間でも
ありました。紫98俱の皆さんは「駿河台とい
う場所は皆様が集う最高の場所」という「想
い」を持って素晴らしい第61回総会懇親会
を開催するだろうとワクワクしております。
まだまだ準備を進めている段階ではござい
ますが、既に会場確保においては総明会会
員の皆様にご尽力いただいております。また
この後も各方面にて会員の皆様のご協力が
必要でございます。

紫98俱の皆さんにエールを送ると共に、総
明会会員の皆様の温かいご支援をお願い申
し上げます。紫98俱の皆様も同級生同士の
力を集結し、頑張ってください。

総明会会員の皆様、総会懇親会への多数
のご参加をよろしくお願い申し上げます。
皆様に楽しんでいただける運営を行えるよ
う、総会委員会としてもバックアップしま
います。

本年度、我々総会委員会には、昨年の幹事
学年「紫雲会」から和田委員、大門委員が新
たに加わりました。

私たちが幹事学年の時に先輩方に助けて
いただいたように、総会委員会が一丸となり
後輩たちを支援してまいります。

広報委員会 活動報告

広報委員会 委員長

遠藤 克彦

時代の変革期といえる昨今、国際・国内情勢の動きを目にするたびに思うことがあります。

政治経済の世界はもとより様々な分野で今までのやり方が限界点を迎え、混沌としながらも本来あるべき姿へ大きく変わろうとしているのだと。

総明会会報も時代とともにあるべき姿へ変化しながら次世代に継承してまいりたいと考えております。

「紫紺の詩」発刊活動

年初より平成10年卒「紫98俱」が幹事学年として会報制作活動を行って参りました。

本年の幹事学年活動テーマは、「Innovation of MEIJI 〜ぐん撞かん、時代の暁の鐘〜」であり、岡安会報委員長を中心に企画・取材を進め以下の特集を組みました。

「明治のイノベーターたち〜理系編〜」と題して、サイエンスやテクノロジーの分野で未来に向け変革を起こしているOBをご紹介しております。また「歴史編」では明治中学の礎を築いた初代校長「鶴澤総明先生」の特集などを掲載しております。

「関根数学リバイバル授業特集」では卒業生の数学脳検証等の企画を行い、多くの幹事学年の皆様にご参加をいただきました。

「M」発刊活動

三浦副委員長を中心に若手会員の皆様に楽しんでいただける内容の誌面を制作しております。平成23年卒から令和6年卒までの16人（林田こずえ、高橋凌士、三浦直人、朝倉貴紀、土屋弦、岩田滯夏、坂本駿太、塩出研史、垣日菜子、高波茉生、井畔杏里紗、橋本大輝、小林麻衣、津島聖也、坂本幸生喜、藤木優弥）が企画、編集を行っており、例年通り、「紫紺の詩」に同封させていただく予定です。

歴代の『過程』を読み続けてきたOB2人による対談などを企画しています。

「ホームページ」運営

石渡理事を中心に総明会活動、幹事学年活動などをタイムリーに情報発信しております。

本年度も幹事学年活動報告を多数掲載し、会員様へ活動内容をより分かりやすくお伝えできたらと思います。

最後になりましたが、各インタビューなどの取材協力やご寄稿、情報提供に多大なるご理解ご協力をいただきました皆様、編集・校正・印刷・発送作業にご尽力くださった皆様、並びに学校関係者各位に心より御礼申し上げます。

総務委員会 活動報告

総務委員会 委員長

宮嶋 優光

総明会会員の皆様、いつも総明会活動にご協力をいただきまして誠にありがとうございます。総務委員会は総明会の裏方として現在3名にて担当させていただいております。

委員会の活動内容につきまして、ご存じ無い方もいらっしゃるかと思います。簡単に報告させていただきます。

1 評議員会の準備・運営

◆評議員会の案内状送付、出欠管理。
当日の受付業務、議事録作成

2 支部・学年評議員懇親会の準備・運営

◆会場選定、案内状送付、出欠管理、
会場との調整

3 総会での議事録作成

4 忘年会の準備・運営

◆会場選定、案内状送付、出欠管理、
会場との調整

活動内容は以上となります。

本年度の幹事学年「紫98俱（しくはつく）」は、活動テーマとして「Innovation of MEIJI 〜ぐん撞かん、時代の暁の鐘〜」を掲げています。

十代の多感な時期を共に過ごした友人との再会は、新たなアイデアの創出や、さまざま

まな取り組みのきっかけとなることでしょうか。総務委員会としても、担当する各会を、伝統を大切にしながらも新たな挑戦を重ね、より魅力ある総明会となるよう努めてまいります。

ぜひ、各会へのご参加はもちろんのこと、各種ご案内へのご返信ご協力も賜りますようお願い申し上げます。

なお、7月5日（土）には紫紺館6階ラウンジ明治にて、「学年評議員・班クラブ評議員懇親パーティー」が開催されました。総明会の理事メンバーも含む39名の方にご参加いただき盛大に開催されましたことをご報告いたします。

同会は毎年7月第1週の土曜日を開催予定日としております。来年も是非ご参加ください。



企画委員会活動報告 チャリティーゴルフ

平成10年卒 紫98倶ゴルフ委員長
岡本 行彦

皆さまこんにちは。今年総明会の幹事学年、平成10年卒「紫98倶（しくはつく）」でゴルフ委員長を務めております岡本行彦と申します。恒例となりました第29回総明会チャリティーゴルフ大会が、2025年5月24日、千葉県茂原市にある「ムーンレイクゴルフクラブ茂原コース」において開催され、今回は前回は上回る110名の総明会ゴルフファースにご参加いただき、大盛況のうちに幕を閉じました。

私は大会前日に同期ゴルフ委員の進藤、中村、実行委員長の古宇田、ゴルフ大会運営サポート役の沖本、椎名と茂原駅近くに宿泊し、大会の前夜祭に参加しました。

仕事を終えてからの移動となったため、会場に到着したのは21時を過ぎてしまいました。が、先輩方に温かく迎えていただき、既に終了していた前夜祭の延長戦に合流。明朝からプレーするとはとても思えない程の盛り上がりになり圧倒されました。

大会当日は曇天となりましたが、風薫る5月の言葉通り良い陽気です。予定通り7時にスタート。きれいに整備されたコースを気持ちよくプレーできました。私達OUTスタート第1組は、大会終了後の表彰式に備えプレー後は慌ただしく準備に取り掛かり、15時から表彰式がスタート。つたない司会ではありましたが、皆さまに盛り上げていただき、校歌の大合唱、紫98倶へのエールもいただき、17時に無事お開きとなりました。各賞を受賞されました総明会ゴルフファースの皆様、おめでとうございます（因みに私はブリーメーカー賞をいただきました！）。また、プレー後からたくさんの方に「寄付の申し込み、寄付グッズを」ご購入いただきまして、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

振返りますと、1月の総明会企画委員会新年会からゴルフ大会に向けた準備が本格的に始まり、5月の開催までの間、あつという間に時間が過ぎていきました。その間、大会の運営方法や参加賞の打合せ、大会開催のお知らせの発送等準備を行う中、特に印象深いのは、ゴルフ大会の商品となるグルメチケット（総明会グルメガイドに掲載されているお店で利用できる）参加のお願いを通じて、温かい激励のお言葉をいただき、改めて世代の枠を超えた総明会への思いの強さ、そして絆を感じ、明治高等学校・中学校を通じたフィールドの広さ、懐の深さに感激しました。

私は、遅ればせながら昨年初めて総明会に参加し、その際に松尾ゴルフ担当理事から声を掛けていただき、あれよあれよという間にゴルフ委員長となり、昨年のゴルフ委員長で高校軟式野球部先輩の木本氏、そして米村氏をはじめ、企画委員会を中心とした先輩皆さまの多大なるご協力を得て、無事にゴルフ大会を終えることができました。ここに幹事学年を代表しまして、厚く御礼申し上げます。今は勝手ながら大きな達成感に浸っておりますが、今後は来年第30回記念となるチャリティーゴルフ大会に向けて、今

回の反省を生かして、総明会の後輩達を巻き込んで、よりよい大会が続いていくよう頑張つてまいります。引き続き、ご協力賜りますよう、よろしく願います。



学年対抗戦優勝の闘紺会 左から星野高士氏、平林康稔氏、宮島賢氏

寄付ご報告

佐藤 健一 様	金一封	土田 正昭 様	金一封
大出 育男 様	金一封	尾崎 博之 様	金一封
尾崎育四郎 様	金一封	安斎 聡 様	賞品
比留間竹朗 様	金一封	嶋田 剛久 様	金一封
堀 眞壽 様	賞品	今泉 仁 様	賞品
山崎 秀樹 様	金一封	宮嶋 優光 様	賞品
近藤 敏彦 様	金一封	重盛 元也 様	金一封
平野 一哉 様	金一封	ムーンレイクゴルフクラブ 茂原コース 様	賞品

学校チャリティー金額 11 万円

第29回 総明会チャリティーゴルフ大会 結果発表

敬称略

		氏 名	卒業年	OUT	IN	グロス	HDCP	ネット
個人戦	優勝	星野 高士	闘紺会	39	40	79	9.6	69.4
	準優勝	布施 秀和	紫誠会	43	42	85	14.4	70.6
	3位	渡辺 欣信	明誠会	43	45	88	16.8	71.2
	ベスグロ	宮島 賢	闘紺会	39	37	76		

		氏 名	卒業年	OUT	IN	グロス	HDCP	ネット
名人戦	優勝	渡辺 弘之	明潮会	45	42	87	14.4	72.6
	準優勝	齊藤 公義	明潮会	41	39	80	7.2	72.8
	3位	小田嶋 保男	紫讃会	45	46	91	18.0	73.0

		卒業年	代表選手名			ネット
学年対抗戦	優勝	闘紺会	星野 高士	平林 康稔	宮島 賢	216.0
	準優勝	明誠会	渡辺 欣信	黒澤 徹	木村 誠	220.0
	3位	明潮会	渡辺 弘之	齊藤 公義	木村 茂	220.4

企画委員会 活動報告 明朗会

企画委員会 担当理事
今泉 仁

2024年9月29日(日)、2024年度明朗会(60才以上の先輩方をもてなす会)が中野にある昭和50年卒の窪寺氏が経営している、ハワイアンダイニング「マハロア」にて開催されました。

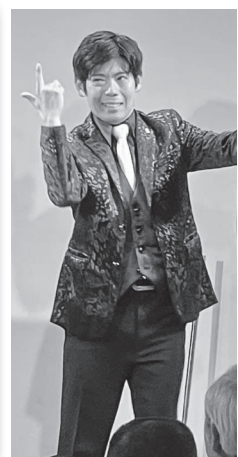
企画内容は、平成15年卒の金森駿介さんによるマジックショー、そして平成7年卒の立川志獅丸師匠による落語、オール明治によるイリュージョンコラボレーションでした。どちらも楽しく大変盛り上がりました！

その後ハワイアン料理をたっぷり戴きながらの楽しい宴となりました。終了後の写真は、笑顔笑顔！これも皆々様のご協力、ご支援の賜物と思っております。

企画委員会を代表し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、今回も多くの方からご寄付をいただきました。

山崎秀樹氏(昭和50年卒)、近藤敏彦氏(昭和50年卒)、岡本雅仁氏(昭和51年卒)、鴨下裕彦氏(昭和56年卒)、平野一哉氏(昭和59年卒)、土田正昭氏(昭和61年卒)、この度は、過分なるご支援をいただき、誠に有難うございます。

また来年も「明るく朗らかな」楽しい会を企画して参りますので、是非ご参加の程、宜しくお願い申し上げます。



組織委員会 活動報告

組織委員会 委員長
福島 維規

今年の組織委員会の行事も恙なく行うことができました。昨年は、「就職活動の早期化」に対応するために、5月という、かつてない早い時期に就活会を実施しました。幹事学年であった紫雲会の皆さんは時間のな

い中での実施はとても大変だったと思います。お疲れさまでした。その後も、9月の紫紺祭でのブースによるPR、2月の高Ⅲ総明会オリエンテーション、3月の総明会新入会員歓迎会も無事に開催することができました。このように通常通りの行事が行うことができるのも、幹事学年の皆様、学校関係者、諸先輩方のお陰であると改めて感謝しております。

昨年度の反省といたしましては、総明会新入会員歓迎会での出席が4名と振るわなかったことがあります。高校を卒業した直後の方からへのPRを行い、高校卒業から切れ目なく総明会の行事に参加して頂けるようなことを考えていきたいと思います。

さて、今年の就活会は、総会・懇親会との同日開催となります。就活会当初は、総会・懇親会との同時開催だったため、久々の原点回帰の形となりました。就活会は、就職をする大学生のため、という目的で行ってきましたが、毎年継続していると、「仕事」を切り口とした先輩、後輩の交流の場ではないかと感じるようにもなってきました。先輩方にとつては、仕事についての思い入れを語りたい

場、後輩に対しては三言物申したい場であり、学生にとつてはこれから経験する仕事について少しでも何かを掴みたい場ではないかと

思います。仕事を通じ、先輩後輩の絆ができていくのも総明会の良さではないかと改めて感じました。就活会も開催から10年という節目となりますので、今年の盛り上げ方を楽しみにしております。

また昨年度は法曹部会も活発な活動を行いました。8月の高大連携サマーマーセミナー模擬裁判では例年通り検察側、弁護士側に分かれた尋問形式を実施しましたが、今年は準備に時間をかけたため、生徒自身の考えた質問も飛び交い、とても充実した内容となりました。10月は例年の裁判傍聴に変え、司法のお仕事見学会と銘打ち、保護者同伴で東京高等検察庁を見学、64名の方にご参加いただきました。東京高検検事、最高検検事の講話を聴講し、捜査で実際に使う手錠、防弾チョッキの試着、模擬取調室見学などがあり、親子で楽しんでいただけの内容になりました。これ以外にも例年通りの11月、2月の実用法律講座も実施いたしました。さらに今年6月には司法試験合格者の講演も実施をし、これには44名の方に出席いただきました。法曹界への啓蒙も着実に、い、少しずつ志望者が広がっているとの印象を受けました。

組織委員会、法曹部会ともにOB・OG会として、現役の中高生、若い卒業生のためになる活動を行っております。これからも総明会の皆様にご協力をいただきながら、活動をしていきますので、今後ともよろしく願っています。

名簿委員会活動報告

副事務局長(名簿担当)

三谷 知弘

名簿委員会は、毎年会員の皆様へお届けしております会報『紫紺の詩』をはじめ、評議員会やゴルフ、明朗会等への宛名シール、情報の提供を行っております。

名簿委員会は事務局の管轄となっており、私の方で対応しておりますが、名簿の管理に関しては引き続き尾崎専務理事が行っております。

これまで評議員会、チャリティーゴルフ、会報の寄稿依頼、評議員会の宛名シールの発行、本年度高校を卒業した新入会員のデータの名簿へ追加などの業務を行ってきました。中でも大事な仕事は、名簿の内容変更連絡に対する名簿の修正です。会報や各ご案内が一人でも多くの会員の皆様に届くように名簿の更新を随時行っております。しかし、この名簿の更新は「ご連絡をいただかないと行うことができません。つきましては、会員の皆様において転居等情報の変更がございましたら、ご一報いただけますようお願い致します(下部に連絡先記載)」。

また、各学年、班クラブOBORG会において名簿のアップデートをご希望される場合、代表の方からご連絡をいただければ、こちらで管理している最新情報との突き合わせも可能ですのでお声掛けください。

さらに、同期会の案内を出されます幹事

の皆様においては、ご要望いただければ宛名シールを出力も有料になりますが対応致します(1回1000円)。

名簿は大切な個人情報ですので、これからもプライバシーポリシーのもと厳格な管理を心掛けて参ります。引き続き皆様のご協力をお願い致します。

住所変更・宛名シール出力等の連絡先
総明会専務理事 昭和63年卒 尾崎博之

メールアドレス: hcozaki@cropozaki.com
FAX: 03-5820-0742

※口頭での誤認防止のため、恐れ入りますが
FAX、メールでのご連絡をお願いします。

※また、同期会の宛名シール出力は、1回1,000円
となります。ご了承ください。

寄付金 協力者一覧 (2025年9月15日現在)

第61回総明会 御寄付者一覧

◎個人寄付

金 十万円 平野 一哉 昭和59年卒
金 五万円 山崎 秀樹 昭和50年卒
近藤 敏彦 昭和50年卒

◎総明会行事

チャリティーゴルフ大会参加者有志一同 金十四万二千元
学年・班クラブ評議員懇親パーティー 金十万円

◎学校関係

明治白駿会有志一同 金六万円

◎同期会・班クラブOB・OG会等

旧雨会 昭和34年卒 金二万七千元
M41 昭和42年卒 金三万三千元
明紫会 昭和50年卒 金九万七千元
明々会 昭和51年卒 金九万七千元
明魂会 昭和57年卒 金十一万四千元
明心会 昭和59年卒 金十萬七千元
蘭紺会 昭和60年卒 金七萬七千元
新世輝 昭和61年卒 金五萬五千元
明猿会 昭和62年卒 金十萬三千元
昭和戊辰乃会 昭和63年卒 金七萬六千五百円
平成改元会 平成元年卒 金二十五万円
明愛会 平成2年卒 金十一万四千元
明仁会 平成3年卒 金二十七万三千元
隆明会 平成6年卒 金四萬六千元
紫縁会 平成7年卒 金六萬六千元
紫誠会 平成8年卒 金十万円
紫雲会 平成9年卒 金六萬六千元
卯ノ木会 金四萬二千元
ヤマダ大感謝祭 金十一万一千円
放送班OB会 金四萬四千二百円
明水会 金四萬七千元
応援団OBORG会 金八万円

御礼

寄付広告委員長の宮澤です。年次総会・懇親会と寄付広告募集活動が無事終了し、多くの学びと感動を得ることができました。年次総会・懇親会では、様々な世代の諸先輩方とお話しする機会に恵まれ、それぞれが歩まれた人生の中で母校での経験がいかに大きな意味を持続しているかを教えていただきました。

「明大明治で学んだことが人生の基盤になっている」という言葉が特に印象深く、寄付広告へのご協力をお願いする際も、「後輩たちのためにも母校が発展してほしい」と温かい言葉をいただき、総明会の「縦のつながり」の大切さを痛感いたしました。同期への募集活動では、FAXや電話で久しぶりに連絡を取る機会となりました。最初は緊張しましたが、同期の皆さんは「懐かしいな、元気だった?」と温かく迎えてくれ、それぞれの近況を聞きながら成長を嬉しく思うとともに、学生時代の友情が時間を経ても変わらないことに感動しました。

「母校がどんな状況なのか」といった質問も多く、皆が母校を気にかけていることが伝わり、「宮澤君が頑張っているなら」「母校のためなら当然だよ」といった協力の言葉に、同期の絆の深さを改めて感じました。この活動を通して、総明会の持つ「横のつながり」「縦のつながり」の両方の素晴らしさを学び、自分自身も総明会の一員として母校のために何ができるかを真剣に考える機会となりました。

広報委員の皆様と協力しながら、総明会のさらなる発展に貢献してまいります。ご協力いただいた全ての皆様に心から感謝申し上げます。

紫98俱 寄付広告委員長
宮澤 太郎

総明会(明治大学付属明治高等学校同窓会) 会則

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、総明会と称する。

(目的)

第2条 本会は、会員相互の結束と親睦を図り、且つ母校のためにこれを賛助することを目的とする。

(事業及び会計処理)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- 1 母校に対する賛助活動を推進すること。
- 2 会員名簿を整備、管理すること。
- 3 会報などの広報物を発行すること。
- 4 同期会の結成を助成し、奨励すること。
- 5 班部OB会の開催を助成し、奨励すること。
- 6 その他、本会の目的を達成するために必要なこと。

② 前項に定める事業はすべて一般会計として処理する。ただし、会長は、理事会の議決と評議員会の承認を得て、前項1号ないし6号に定める一部もしくは全部を特別会計として処理することができる。

(事務局 所在地)

第4条 本会の事務を行うために事務局を設ける。

② 事務局は、明治大学付属明治高等学校内に置く。

第2章 会員

(会員資格)

第5条 本会は、旧制、新制明治中学校、明治大学八丈高等学校もしくは明治高等

等学校の卒業生ならびに同校に在籍したことのあるものを会員とする。

(入会金及び終身会費)

第6条 会員は、入会の時に入会金及び終身会費を本会に納入するものとする。入会費及び終身会費の額ならびにその徴収の方法は、理事会が明治大学付属明治高等学校校長(以下「校長」という)の同意を得て定める。

(特別会員)

第7条 母校の教職員であるもの及びその職にあつたものを特別会員とする。

② 特別会員は、本会が行う事業に参加することができる。

第3章 役員

(役員の種類及び定員)

第8条 本会に理事10人以上20人以内及び監事2人を置く。

② 本会に会長1人、副会長3人以内、専務理事1人、事務局長1人、会計1人を置く。

③ 必要であれば、本会に常務理事を若干名置くことができる。

(役員の選任)

第9条 会長及び副会長の選任は、別に定める「会長及び副会長選出規定」に基づいて選定し、理事会及び評議員会の承認を受け、総会の決議をもってこれを選任する。会長及び副会長はその就任と同時に理事となる。但し、任期中途で会長及び副会長を補充すべき場合は、「会長及び副会長選出規定」に準じて選定し、理事会及び評議員会の承認を得て選任することができる。この場合は選任直後の総会において承認を得るものとする。

② 会長及び副会長以外の理事並びに監事(以下「会長選任役員」という)は、会員の中から、会長が選任する。会長選任役員は、選任後最初の評議員会の承認が得られなかったときは、選任されなかったものとみなす。これにより会長選任役員に欠員が生じたときは、会長は欠員のないように直ちに役員を選任しなければならない。

③ 専務理事、常務理事及び事務局長並びに会計は、副会長の同意を得て、会長が理事の中から選任する。

④ 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

⑤ 会長は、副会長の同意を得て、いつでも会長選任役員を解任することができる。これにより会長選任役員に欠員が生じたときは、会長は欠員の無いように直ちに役員を選任しなければならない。

⑥ 理事は評議員を兼務できない。

(理事会)

第10条 本会の会務の執行は、理事会がこれを決する。

② 理事会は理事をもつて構成する。

③ 理事会は会長がこれを招集する。

④ 理事会の議長は、会長又は会長が指名したものがこれにあたる。

⑤ 理事会の議長は、出席理事の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

⑥ 理事は書面により理事会の決議に加わることができる。

⑦ 監事は、理事会に出席し意見を述べることができる。

(会長等の職務)

第11条 会長は本会を代表し、会務を総理、執行する。

② 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名した順位にしたがい会長の職務を代行する。

③ 専務理事は、会長の指揮のもとに会務を総括してつかさどり、かつ事務局を総括する。

④ 常務理事は、専務理事を補佐する。

⑤ 事務局長は、専務理事の指揮のもとに事務局を統括する。

⑥ 会計は、本会の会計及び財産の状況並びに会務の執行を行う。

⑦ 理事は、会務を分担する。

(監事の職務)

第12条 監事は、本会の会計及び財産の状況並びに会務の執行を監査する。

② 監事は、監査の結果を定時総会に報告する。

(名誉役員)

第13条 本会に名誉会長、名誉顧問及び顧問、相談役を置くことができる。

② 名誉会長、名誉顧問及び顧問、相談役は、本会又は母校に永年にわたり特別に功労のあつたものの内から理事会が推薦し、評議員会の承認を得て会長がこれを委嘱する。

③ 学校法人明治大学の総長、学長は、その在任中、名誉顧問としてこれを推戴する。

④ 明治大学付属明治高等学校の校長は、その在任中、顧問をそれぞれ推戴する。

⑤ 相談役は、会務に永年にわたり功労のあつた者の内から理事会が推薦し、評議員会の承認を得て会長がこれを委嘱する。

第4章 総会及び懇親会

(総会の招集)

第14条 定時総会は毎年1回開催し、臨時総会が必要のあるときに開催する。

② 総会は、会長がこれを招集する。

③ 総会の招集は、本会が発行する会報に掲載し、もしくはその他の方法で会員に通知して行う。

(総会の議事)

第15条 総会は、この会則に定める事項及びその他の重要な事項のうち理事会が

提案し、評議員会が必要と認めた事項を総会における審議事項として決議する。

② 総会の議長は、会長又は会長の指名したものがこれにあたる。

③ 総会の議事は、出席会員の過半数でこれを決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(懇親会の開催)

第16条 懇親会は、会員の懇親を目的として毎年1回開催する。

② 懇親会の開催に関する事項は、理事会が決定し、評議員会の承認を得て、会長が会員に通知する。この通知は、総会の招集通知に準じて行う。

第5章 委員会

(委員会の設置)

第17条 本会は、第2条の目的の達成及び第3条の規定に掲げる事業の遂行のために必要な事項を調査、研究、審議し、または実施する機関として委員会を設けることができる。

② 委員会は、会則に定めるほか理事会の決議により設置する。

③ 委員会は、委員長1人及び委員2人以上をもって構成する。

④ 委員長は、理事会の承認を得て会長がこれを委嘱し、委員は、会員及び特別会員の中から会長の同意を得て委員長がこれを委嘱する。

⑤ 委員会は、委員長がこれを主宰する。

⑥ 委員長は、その就任と同時に理事となる。

第6章 評議員及び評議員会

(評議員)

第18条 本会に、卒業学年毎に2人以内の評議員を置く。同期会は、同期会の会員のうちから評議員を選任して本会に届けるものとする。また、総明会に登録した班部OB会毎に1人の評議員を置くことができる。評議員を選任した場合、本会に届けるものとする。

② 同期会が結成されていないか、もしくは同期会において評議員を選任できない事情があるときは、会長は、当該学年のために同学年の中から仮評議員を選任できる。

③ 総明会に登録すべき班部OB会が結成されていないか、もしくは班部OB会に評議員を選任できない事情がある場合は、評議員を置くことができない。

④ 同期会の評議員と班部OB会の評議員は兼任できない。

(評議員の職務)

第19条 評議員及び仮評議員は、評議員会に出席するほか、本会の事務のうちその属する学年もしくは同期会及び班部OB会の関係で必要な事務を処理する。

② 評議員及び仮評議員は、適宜代行者を選任して評議員会への出席、その他の事務処理を代行させることができる。

(評議員会)

第20条 評議員会は、この会則に定める事項及びその他の重要な事項につき議決する。

② 評議員会は、会長が適宜これを招集する。

③ 評議員会の議長は、会長もしくは評議員の中から会長が指名したものがあたり、その進行は事務局長が行う。

④ 評議員会の議事は、出席評議員、仮評議員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

第7章 同期会

(同期会)

第21条 会員は、学年ごとに同期会を組織するものとする。

② 同期会は、同期会名簿を整備し、運営に関する準則を定めるものとする。

③ 同期会は、その選任した評議員の職務の執行を助けなければならない。

④ 同期会は、同期会の総会を開催したときは、本会に報告するものとする。

第8章 班部OB会

(班部OB会)

第22条 会員は、在学中在籍した班部ごとに班部OB会を組織することができる。

② 班部OB会は、OB会名簿を整備し、運営に関する準則を定めるものとする。

③ 班部OB会は、その選任した評議員の職務の執行を助けなければならない。

④ 班部OB会は、OB会の総会を開催したときは、本会に報告するものとする。

第9章 会計

(会計の分類と会計年度)

第23条 本会の会計処理は、一般会計と特別会計に区分して行い、特別会計はこの会則に定めのある場合の他、理事会において特に定めた会計に関する会計処理、一般会計は特別会計を除いたすべての会計処理とする。

② 本会の会計年度は、毎年9月1日に始まり、翌年8月31日に終わる。

(基金)

第24条 理事会は、本会の財政基盤を安定させ、また第3条に定める事業の遂行資金を形成するため基金を積立てる努力をしなければならない。

② 基金は、特別会計(以下「基金特別会計」といって)で処理する。

③ 入会費、寄付金のうち理事会で基金に組入れることを決議したもの、並びに基金へ組入れることを目的とする寄付金(以下「特別基金」といふ)は、基金として基金特別会計に計上し、この会則に定めのある場合を除

き支弁することはできない。

④ 基金は、財政基盤基金と事業遂行基金をもって構成する。

⑤ 基金への組入金は、財政基盤基金の総額に満つるまで優先してこれに充当する。

⑥ 財政基盤基金の総額は、総会の決議により決定しもしくは変更する。この場合、第28条の定め(特別決議)を準用する。

⑦ 財政基盤基金は、原則として取崩すことができない。ただし、総会において承認を得た場合はこの限りではない。この場合、第28条の定め(特別決議)を準用する。

⑧ 基金のうち、財政基盤基金の総額を超える額を事業遂行基金とする。

⑨ 事業遂行基金は、第3条1項1号に定める事業もしくは理事会で決議した事業に支弁するため、理事会及び評議員会の決議によりこれを取崩し、当該事業のために支弁することができる。

⑩ 会長は、緊急に対処を要すると認めた事項(以下「緊急処理事項」といふ)のために、副会長の同意を得て、事業遂行基金を取崩し緊急処理事項に支弁することができる。この場合、会長は、緊急処理事項が生じた後、最初に開催される総会において、当該事項の緊急性及び事業遂行基金取崩しの必要性を説明し、取崩しについて承認を得なければならない。

⑪ 事業遂行基金を支弁して行う事業を検討するため、本会に基金事業委員会を設置する。第17条4項の定めにかかわらず、この委員会は委員長1人と委員8人をもって構成し委員は理事の中から委員長が選任する。

⑫ 事業遂行基金は、入会費(ただし基金組入れ分を除く)、終身会費及び寄

第25条 (経費)

本会の経費は、入会費(ただし基金組入れ分を除く)、終身会費及び寄

付金(ただし基金組入れ分を除く)並びに一般会計に属する財産から生じる果実その他特別会計に属さない収入をもつて支弁する。

(予算)

第26条 会長は、会計年度の終了する前に、理事会の承認を得て翌会計年度の予算を作成する。翌会計年度の予算は、評議員会の承認を得て、総会に提出してその承認を得なければならない。

② 前項により、会長は、その会計年度の最後に開催される評議員会に翌会計年度の予算を提出し、その承認を得た場合は、翌会計年度の初めから総会開催の日までの間、その予算を執行できるものとする。

(決算)

第27条 本会の収入支出の決算は、監事がこれを監査し、会長がこれを総会に提出して報告しなければならない。

② 基金特別会計の決算報告においては、財政基金と事業遂行基金を区別し、それぞれの収支の概要及び決算時の在り高のほか、特別基金の累計額を報告するものとする。

第10章 補則

(特別決議)

第28条 本会の会則の改正は、総会における出席会員の4分の3以上の多数による決議によらなければならない。

(届出)

第29条 会員は、氏名、住所及び職業を変更したときは本会に届け出るものとする。

② 同期会は、同期会員名簿及び役員名簿を本会事務局に届け出るものとする。

③ 班部OB会は、OB会名簿及び役員名簿を本会事務局に届け出るものとする。

附則

(経過措置1)

第1条 (年会費同期会)

前回の会則の改正が施行された平成11年1月1日以前に会員となった者で構成される同期会(以下「年会費同期会」という)が納入する年会費については、次に会則改正のあるまで改正前の第7条の定めによるものとする。

第2条 (年会費)

同期会の納入する年会費は、第25条の定める経費に支弁する。

(経過措置2)

第1条 (年会費班部OB会)

班部OB会は、本会を運営する費用に充てるための年会費を納入するものとする。年会費の額及びその納入方法は、評議員会で定める。

第2条 (年会費)

班部OB会の納入する年会費は、第25条の定める経費に支弁する。

(施行期日)

この会則の改正は、平成18年12月3日より施行する。

(参考)

改正前第7条(年会費)

同期会は、本会を運営する費用に充てるための年会費を納入するものとする。年会費の額及びその納入方法は、評議員会で定める。

(経過措置3)

第1条(会計年度)

経過措置として令和6年4月1日から8月31日の5か月という会計期間を設け、総会において会計報告及び承認を受けることとし、令和6年9月1日から通常通り会計期間を12か月に移行する。

(施行期日)

この会則の改正は、令和5年11月25

日より施行する。

(参考)

改正前第23条②(会計年度)

本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

総明会会長及び副会長選出規定

会則第9条1項に基づき、会長及び副会長の選出は本規程により行う。

(選出委員会の設置、解散、委員の選出)

第1条 会長及び副会長の選出を行う場合は「選出委員会」(以下委員会という)を設置する。

② 委員会は役員改選又は補充の時期に合わせて、十分な期間を考慮し、理事会が設置する。

③ 委員会の構成は、委員長1人、委員6人とする。委員の選出は理事会及び評議員会で各々3人とする。委員長は会長が指名したものがこれにあたる。

④ 委員会の解散は、総会において会長及び副会長が選出された時点とする。

(会長、副会長の選出、承認について)

第2条 委員会は、会長及び副会長の選出にあたり、推薦及び立候補を受け付け、その者をもつて候補者とする。

② 候補者の中より、会長及び副会長候補者を選出する。選出においては全員一致を原則とするが、定員に絞り込まない場合は、その状態で選出終了とする。

③ 理事会は、委員会より選出された候補者の承認を行う。

④ 評議員会は、理事会で承認された候補者の承認を行う。

⑤ 評議員会において承認された会長、副会長は、総会の決議をもって、これを選任する。

(理事会の承認)

第3条 委員会より選出された会長候補者が1名の場合、理事会において過半数の信任をもつて承認されたものとする。

② 委員会より選出された会長候補者が2名以上の場合、理事会において投票を行い、最も得票数の多い候補者を会長候補者として承認する。

③ 委員会より選出された副会長候補者が3名の場合、理事会において過半数の信任をもつて承認されたものとする。

④ 委員会より選出された副会長候補者が4名以上の場合、理事会において投票を行い、得票数の多い順に3名を副会長候補者として承認する。

(評議員会の承認)

第4条 理事会より選出された会長及び副会長候補者は、評議員会において過半数の信任をもつて承認されたものとする。

(会長、副会長の資格)

第5条 会長及び副会長の資格は次の各号のいずれをも満たすものとする。

1 総明会会員として20年以上在籍していること。

2 評議員又は理事を経験していること。

3 立候補届出締め切り時の年齢が70歳未満であること。

この規定は、平成26年11月16日より施行するものとする。

前年度幹事学年挨拶

第60回総明会 実行委員長
平成9年卒 紫雲会

小谷 健志

昨年は60回の節目となる総会・懇親会の開催に際し、諸先輩方、学校関係者の皆さまには多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。「おかえり」と言い続け、直接学び舎として過ごしてはいない現在の調布校舎を式典会場に選定し、伝統の継承と新時代へ変化を見据えた活動に腐心した年でした。

懇親会の司会は、これも「明治」が紡いだ縁で、大学文学部のOGでもあるテレビ朝日の斎藤ちはるアナウンサーに務めていただき、会が華やかに彩られました。

卒業以来、同窓が50名も集まったことは初めての体験でしたが、撤収・片付けを終えたのち、全員で三鷹駅近くのレストランへ移動。紫雲会の生みの親である恩師・山田伸夫先生はもちろん、自分たちが教わった数少ない現役教諭の方々にご参加いただき。盛大に打ち上げました。

当時はまだ珍しかった男子校の女性教師、駒形くみ子先生。我々が最初に授業をしていただいた世代でした。さらに担任団を受け持



たれたバスケット部の前島研二先生、バレー部の山中禎二郎先生も一緒に、想い出深い宵を過ごしました。今年の懇親会は御茶ノ水のアカデミーコモンでの開催が決まり、また違う新たな景色が見られるであろうことを心待ちにしています。

次年度幹事学年挨拶

第62回総明会 実行委員会
平成11年卒 明哲会

河田 裕司

皆さん、こんにちは。1999年卒・明哲会の河田裕司です。明治高校時代は生徒会本部に在籍していて、今はマーケティングリサーチのリサーチャーとして働いています。

今回のテーマは「Innovation of MEIJI」で、偶然ながら、時代の暁の鐘」とのことリアルなテーマとなっています。

というのも、昨年11月に社員20名のベンチャー企業に転職いたしました。リサーチャーとしてのこれまでの経験をフル稼働させつつ、このプロダクトがうまくいけば業界に革命が起これるぞ、とワクワクしながらまったく新しい環境で試行錯誤する毎日です。ダメだったらダメでまたなにか新しいことしたいなーとスリリングではありますが、樂觀的に生活しています。

さらに、今の会社の創業者が以前所属していた会社に、1歳上のあの先輩いたな〜と思って聞いてみたら「ああ、あの方は社内で有名でしたよ。河田さんのご存じなんですか?」と聞かれて「高校の先輩です」と答えたらすごく驚かれました。世の

中いろんなつながりがあるな、と実感する今日この頃です。

高校生の頃に、今の自分のような生活は全く想像もつきませんでした。というお決まりな言葉がありますよね。高校生当時は「明治大学卒業したら、そこそこの有名な大企業はいつて定年まで働くのかな〜」と思ってました。現実、新卒でベンチャー入ったり、そこそこの有名な大企業は10年で辞めてしまったり、45歳になってまたベンチャー。どうしてこうなった。

皆さんもそれぞれの場所で、「高校生の頃に思い描いていた生活とは全く異なる生活」をされているかと思います。挑戦したり、挫折したり、安定したり、また挑戦したり、と高校生当時には想像もつかない色々な出来事を経験して、ご自身を形成されてきたことでしょう。その中で、どこかでなにかが繋がって、また再会するきっかけになれば素敵ですね。

最後に、いつも総明会を支えてくださっている皆様、本当にありがとうございます。こうして自分の思いを言葉にする機会をいただけることが、何よりの刺激と原動力になっています。

それでは、また皆さんとどこかで笑って乾杯できる日を楽しみにしています。

本年度幹事学年挨拶

第61回総明会 実行委員長
平成10年卒 紫98俱

古宇田 大介

今年度、幹事学年を務めさせて頂いている「紫98俱」実行委員長の古宇田大介です。昨年の12月末、忘年会を兼ねた最初の会合が中野キャンパスで行われて以来、準備を進めてまいりました。同期には明治大学で教鞭を取るメンバーにも恵まれましたが、それ以上に、総明会組織として連綿と繋がる先輩方の支えがなければ、ここまで辿り着くことはできなかったと痛感しています。

母校でもない私学・中高の教壇に立つ自分が実行委員長を務めるに際し、立場上「明治愛」を声高に主張しないように意識していました。しかし、さまざまな会合や同期会で出会った先輩方から、溢れんばかりの「明治愛」をいただき、気がつけば若き日のように校歌を大声で歌う自分がいました。母校を愛せるからこそ、今の自分を、今の場所を愛することができる。教鞭を取る自分にとって、この1年間で得た大きな学びの一つです。



私たち幹事学年のテーマは

「Innovation of MEII」です。自分たちが組織にどのようなイノベーションをもたらせたかと振り返ると、革新的な取り組みは正直ほとんどありません。それでも、「多くの同窓生が集うこと自体が、明中高にとつてのイノベーションになるのではないか」と気づかされました。

第61回の総会・懇親会は11月24日（月）振）に、明治大学駿河台校舎・アカデミーコモンにて、開催されます。「明治で良かった」と改めて感じて頂けるよう、皆さまと共に素晴らしいイノベーションを形にできるよう、同期一同、誠心誠意準備を進めています。皆さまのご来場を、心よりお待ちしております。

【編集後記】

平成10年卒 紫98俱 編集長

黒澤 俊治

昨年11月半ば、数年間の海外赴任を終えて日本に帰ってきました。久しぶりの日本の空気にまだ馴染みきれないまま、帰国からわずか1週間後、同期の集まりの告知が届きました。久しぶりに皆に会えるのなると、足を運んだその会は「幹事学年キックオフミーティング」。軽い気持ちで参加した自分にとって、まさに寝耳に水でした。皆の熱量に押されるように少しづつ関わるうち、ある日「ちょっと顔を出してほしい会議がある」と、事務局長から連絡が。何も知らずに出席したのは「広報委員会」。自己紹介を促され、状況もよく飲み込めぬままに、周囲の空気を察して「本年度、会報委員の黒澤です」と名乗ることになりました。

気持ちを切り替えて臨んだ初めての会報制作は、想像を超えるプレッシャーと手間の連続でした。テーマの設定、記事の構成、取材や原稿依頼、入稿管理、校正、デザイン確認……その一つひとつに時間と労力がかかり、正直、何度も気持ちが折れそうになりました。それでも最後まで走りきることができたのは、心強い同期の仲間たち、そして的確なアドバイスと支援をくださった先輩方のおかげです。皆さんの知恵と助けがなければ、この会報は決して形にならなかったと思います。

この会報制作を通じて得た経験は、決して

て小さくありません。久しぶりに母校と向き合い、仲間と語り合いながら一つのものを作り上げた時間は、何より貴重な財産となりました。最後に、ご協力いただいたすべての方々に心より感謝申し上げます。

第61回総明会総会・懇親会 幹事学年

平成10年卒

紫98俱

集え!同志諸君 2025年11月24日(月・振休)

連絡請う





SPORTS CLUB & SWIMMING SCHOOL

Vim Sports Avenue®

ヴィム スポーツ アベニュー

厚生労働大臣認定 健康増進施設 指定運動療法施設
一般社団法人スイミングクラブ協会公認 水泳教師在籍施設

TEL. **03-3335-6644**

HP <https://vimsports.net>



宮嶋 優光

(平成8年卒 紫誠会 柔道部◎B)



日時：令和7年11月24日(月・振休)

総 会 13：30～(開場 13：00) @グローバルフロント
学校報告 14：40～(総会終了後入場可能) @グローバルフロント
懇 親 会 16：00～(受付開始 15：30) @アカデミーコモン

場所:明治大学駿河台キャンパス

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

【最寄り駅】

- JR中央線・総武線／御茶ノ水駅 下車徒歩約3分
- 東京メトロ丸ノ内線／御茶ノ水駅 下車徒歩約3分
- 東京メトロ千代田線／新御茶ノ水駅 下車徒歩約5分
- 都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線／神保町駅 下車徒歩約5分



郵便はがき

料 金 受 取 人 払 郵 便

2 6 0 - 8 7 9 0

千葉中央局
承認
3300

差出有効期間
2025年12月31日
まで(切手不要)

千葉県千葉市中央区末広
1-22-15-701

第61回 総明会 総会・懇親会 幹事学年
紫98俱 椎名 俊仁 行



第61回『総明会』

総会・懇親会のご案内

Innovation of MEIJI

～いざ撞かん、時代の暁の鐘～



会費 事前納付振込先

11月10日(月)までに納付をお願いいたします。
「返信用ハガキ」または「紫98俱ホームページ」より
総会・懇親会への出欠と事前納付か当日払いかのご連絡をお願いいたします。

みずほ銀行 (0001)

東京中央支店 (店番 110)
普通口座：3475682
口座名義：シクハツク

紫 98 俱
ホームページからの
事前申込はこちら→



例： 昭和年代卒業の方：62 メイジ タロウ
平成年代卒業の方：ヘイ 11 メイジ ジロウ

※なお、本年は昨今の情勢を鑑み色々と議論を交わした結果、郵便局の払込票は同封しておりません。事前納付先はみずほ銀行の口座のみとなります。入金確認のため、氏名の前に卒業年を付記してください。ATMでも振込名義の変更は可能です。振込手数料についてはご負担をお願いいたします。

※一旦納付された会費につきましては、お返しできません。予めご了承ください。当日欠席された場合も、同様にご返金できません。貴重な浄財といたしまして、総明会活動に利用させていただきます。

※出席のお知らせをいただいていない方でも、直前に出席可能になった方など、ご連絡をいただかなくても出席可能ですのでお気軽にお運びください。

便利な事前納付がお得です！

今年も会費事前納付制度を実施いたします。
ぜひ、ご利用ください。

	当日払い	事前納付
一般会員 (昭和58年から平成25年までのご卒業)	12,000円 >	11,000円
シニア会員 (昭和57年以前のご卒業)	10,000円 >	9,000円
ヤング会員 (平成26年から令和3年までご卒業の社会人)	8,000円 >	3,000円
学生会員 (大学生・大学院生)	0円 >	0円
ご同伴者 (上記会員が同伴する会員以外の方)	7,000円 >	6,000円

幹事学年からの挨拶

清秋の候、旧制明治中学校、明治大学付属明治高等学校・中学校卒業生の皆様におかれましては、益々のご清祥のこととお慶び申し上げます。

本年開催の第61回『総明会』総会・懇親会は、平成10年卒の『紫98俱』が務めさせていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。本年度のテーマは

『Innovation of MEIJI ~いざ撞かん、時代の暁の鐘~』です。本年の会場は、10年ぶりに駿河台の明治大学アカデミーコモンで開催いたします。みなさまのお越しを心よりお待ちしております。

- 第六十一回 総会式次第
- 一、開会の辞
- 二、会長挨拶
- 三、議長選出
- 四、書記選出
- 五、議事
- ・会務報告
- ・会計報告
- ・監査報告
- ・事業計画・会計予算と承認
- ・会長及び副会長選任
- ・その他
- 六、閉会の辞

第 61 回 総明会 総会・懇親会 参加申込書

総会開催の詳細、注意事項については、会報 11 ページの『総会開催のご案内』のページをご覧ください

総明会 総会	☐ 参加 ☐ 不参加
総明会 懇親会	☐ 参加 ☐ 不参加

名 (同伴者を含む)

※確定スケジュールについては、後日総明会ホームページに掲載しますのでご確認ください。

当日飛び込みでのご参加も大歓迎ですが、参加人数把握のため事前の出欠連絡を頂戴できれば幸いです。
また右の QR コードより紫98俱の HP にアクセスいただき事前申込していただく事も可能です、是非ご利用ください。



※ご参加の方のみ事前納付か当日払いかをお知らせ下さい。
☐事前納付予定 ☐当日受付にて支払い予定

紫98俱HP

氏 名 _____ 卒業年 _____ 年卒業 _____
学年又は統柄
同伴者名 () ()

以下は変更のあった場合のみご記入ください

現住所 〒 _____

TEL _____ 携帯番号 _____

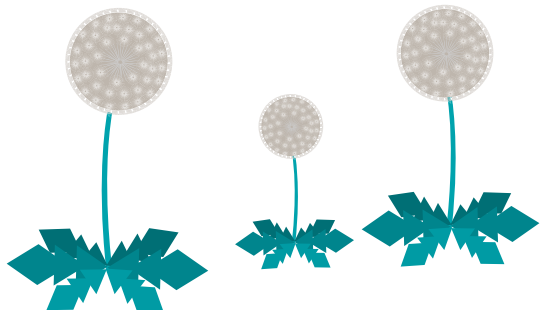
申込者の個人情報、総明会の用途以外には使用しません。また、セキュリティには十分配慮します。

出席者全員に総明会オリジナル記念品をプレゼント！

期日：11月7日(金)までに、ご投函をお願いいたします。

第61回 総明会実行委員会 平成10年卒

紫98倶

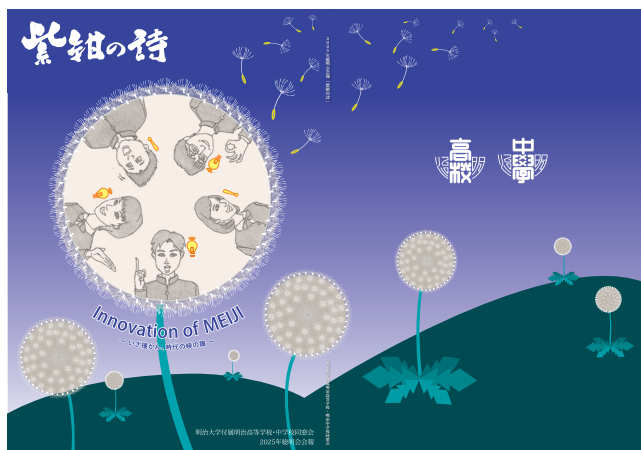


第50回 卒業記念 1998年3月 明治大学付属明治高等学校

実行委員長	古宇田大介	(生徒会本部・過程編集委員長)
会計委員長	飯野 敦	(地理研究部)
式典委員長	大関啓太郎	(陸上競技部・過程編集委員)
式典委員(会場幹事)	大野 光平	(物理部)
寄付広告委員長	宮澤 太郎	(水泳部)
寄付広告副委員長	高橋 飛鳥	(物理部)
ゴルフ委員長	岡本 行彦	(卓球部・高校軟式野球部)
ゴルフ副委員長	進藤 智	(地理研究部)
ゴルフ委員	中村 茂一	(バスケットボール部)
会報委員長	岡安 英俊	(生徒会本部)
会報副委員長	黒澤 俊治	(スキー部)
会報委員	清水 佑紀	(物理部)
就活会委員長	沖本 秀飛	(バドミントン部)
就活会副委員長	川合 大之	(物理部)
就活会委員	菅野 秀治	(スキー部)
事務局長	椎名 俊仁	(高校協議会議長)

発 行：明治大学付属明治高等学校・明治中学校同窓会 総明会
〒182-0033 東京都調布市富士見町4-23-25
明治大学付属明治高等学校内
TEL.042-444-9100
<https://meiji-soumeikai.com/>

編集長： 黒澤 俊治 (平成10年卒)
表紙原案： 玉井 大司 (平成10年卒)
デザイン助言： 島村 武史 (昭和59年卒)
制作進行： 田嶋 慎治 (昭和63年卒)
印刷： ふじ・プリント
2025年10月1日発行



表紙解説：

今年度テーマはInnovation of MEIJI です。総明会の未来についてどうするか、明治の生徒たちが額を寄せ合うように考えています。イノベーションプロセスをタンポポの種まき→芽生え→開花になぞらえ、今まさにイノベーション始動という種まきのイメージです。生徒たちから生まれたアイデアや想いが昇華されるように種が空に舞い上がっていきます。

お礼とお詫び

この会報誌発行にあたり、多くの総明会の皆様から、ご寄稿及び貴重なお写真の提供をいただきました。広報委員会一同心よりお礼申し上げます。紙面の都合上、全てを掲載することができませんでした。この場を借りてお詫び申し上げます。また、文章中においても、万人が読みやすい表現に統一をはかるため、広報委員の責任で割愛・表現の変更をさせていただきました。広報委員全員で文章を校正致しましたが、至らぬ点もあるかと思えます。何卒ご了解いただきます様お願い申し上げます。

※本誌掲載の記事、写真、イラスト、図表の無断転載は固くお断りいたします。
乱丁・落丁本はお取り替えいたします。

住所変更時のお願い

総明会では、総明会会報・総明会からのお知らせが皆様のお手元に一通でも多く確実に届くよう各学年の評議員を通じて総明会会員名簿の管理を行っております。お引越などで住所が変わられた方はお手数ですが、右記総明会事務局担当者までご連絡いただきますようお願いいたします。

連絡先

総明会 専務理事 尾崎 博之
(勤務先：株式会社クロップオザキ 代表取締役)
FAX 03-5820-0742
E-mail: hcozaki@cropozaki.com
TEL 090-2480-8324

高 明 中 学